

特警第四小隊 真人隊長の 女体陥落



milda7

旧女人化研究所作品(復刻版plus)

日本科研データ集積センター



メスクリン帝国特務隊第三小隊 ミルダ中尉

神、来るわよ



ZUTYA

ZUTYA

ZUTYA



キヤツ



その彼女も
元陸自だろ、状況を
よく見なくっちゃ



警視長特警第四小隊長 片桐 真人



どうゆう状況？

伊集院特務
第三小隊長
ミルダ中尉確保
だよ。

新鋭特敬言
第四小隊だ、
きみは包囲される

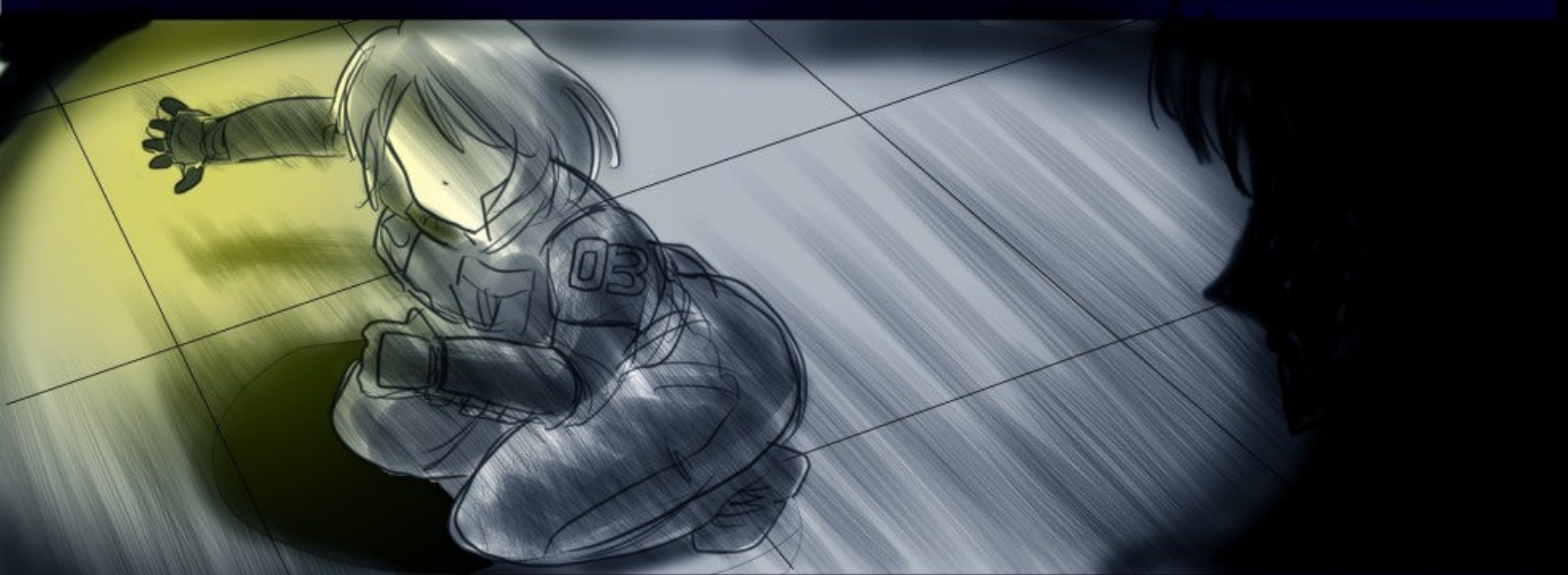


加速装置でも
ないと無理だよ

ん蘭の
香り？

あると。
したら？

KATI



いいサテンの
ドレスがあるの♡

うぐっ

あなたには
あたしの家で
特別メニューで
もてなして
あげるわ！

フフフ

女に陥落
させてあげる



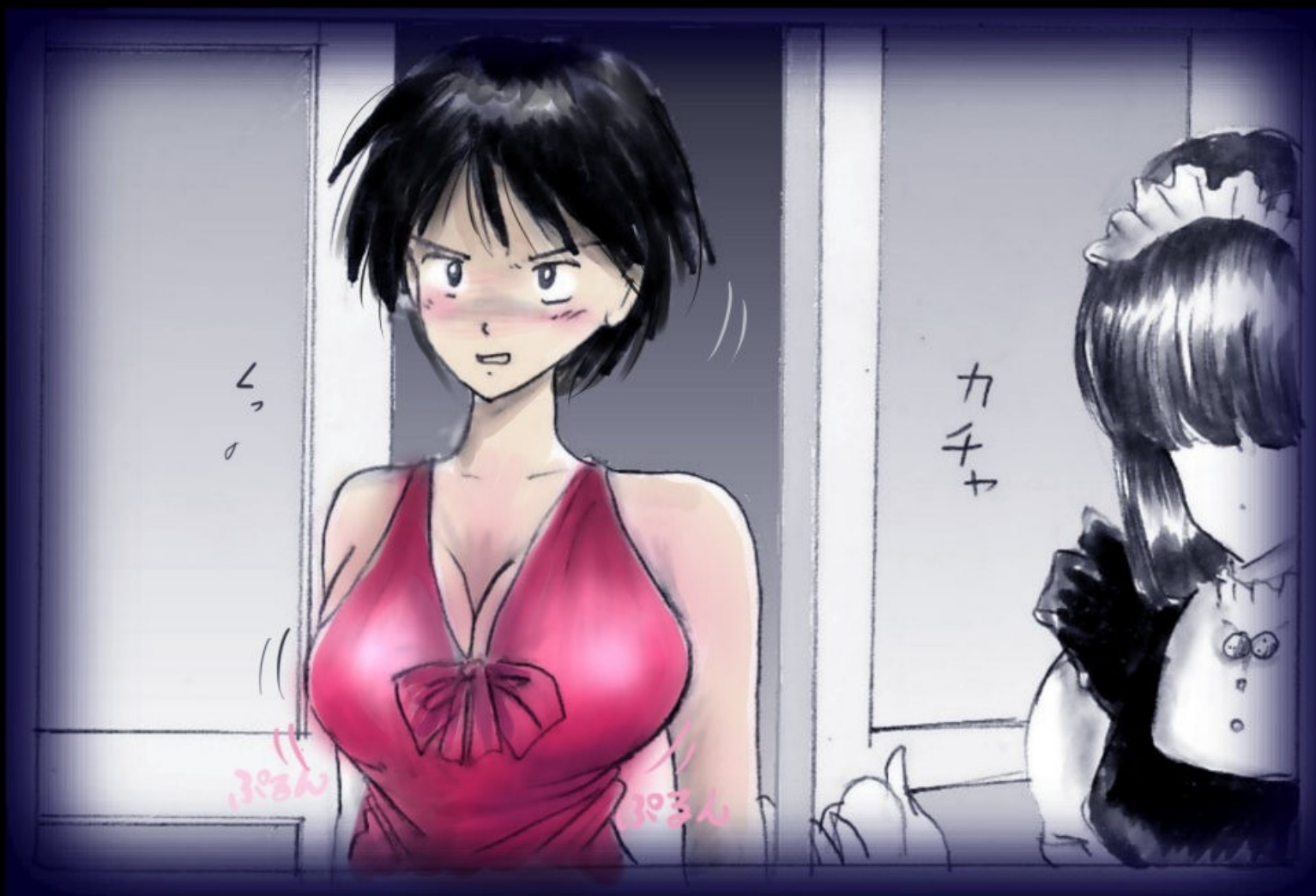
そう、
入って。

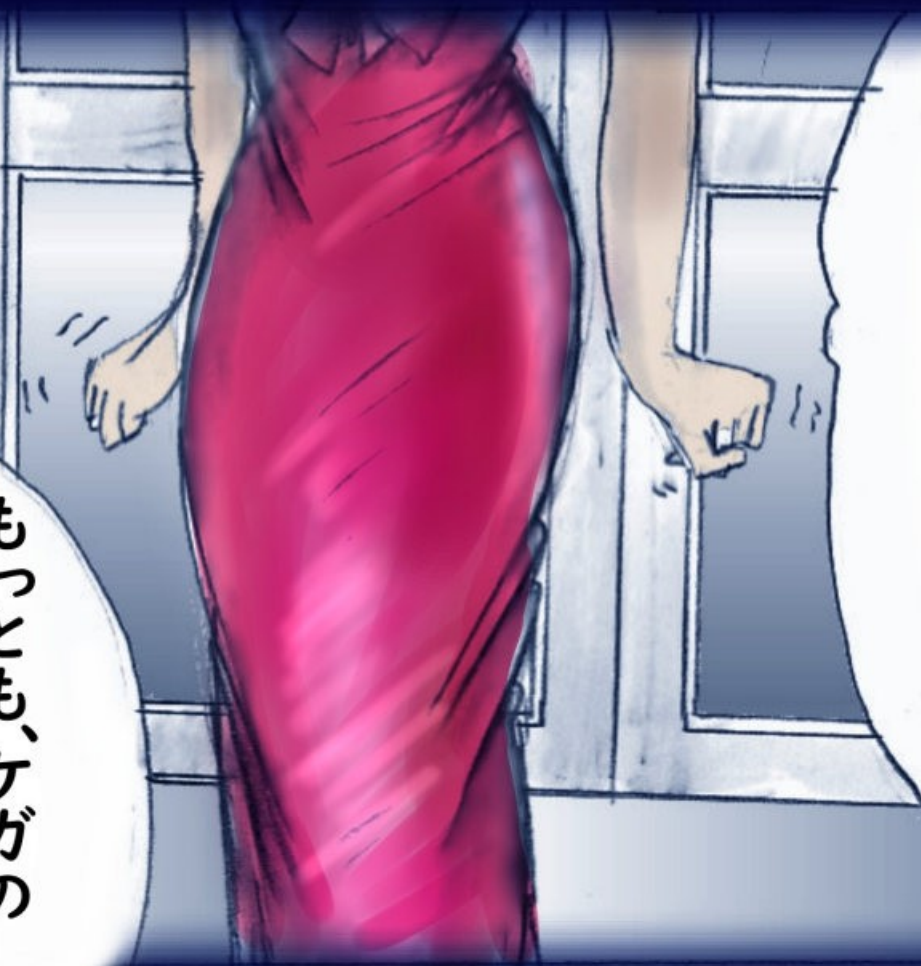


ミルダ様
真子様が目を覚ませ
られましたので、こちへ
お連れしました。




「カチャ・・・」





あーらびったしじゃない！
ウエストもばっちり

もつとも、ケガの
治療でついでに
肋骨二本取っちゃ
ったものね。
細いはずだわ



おっばいは
ごめんなさい。その
ドレスに合わせる
ために大っきくし
ちやった♡



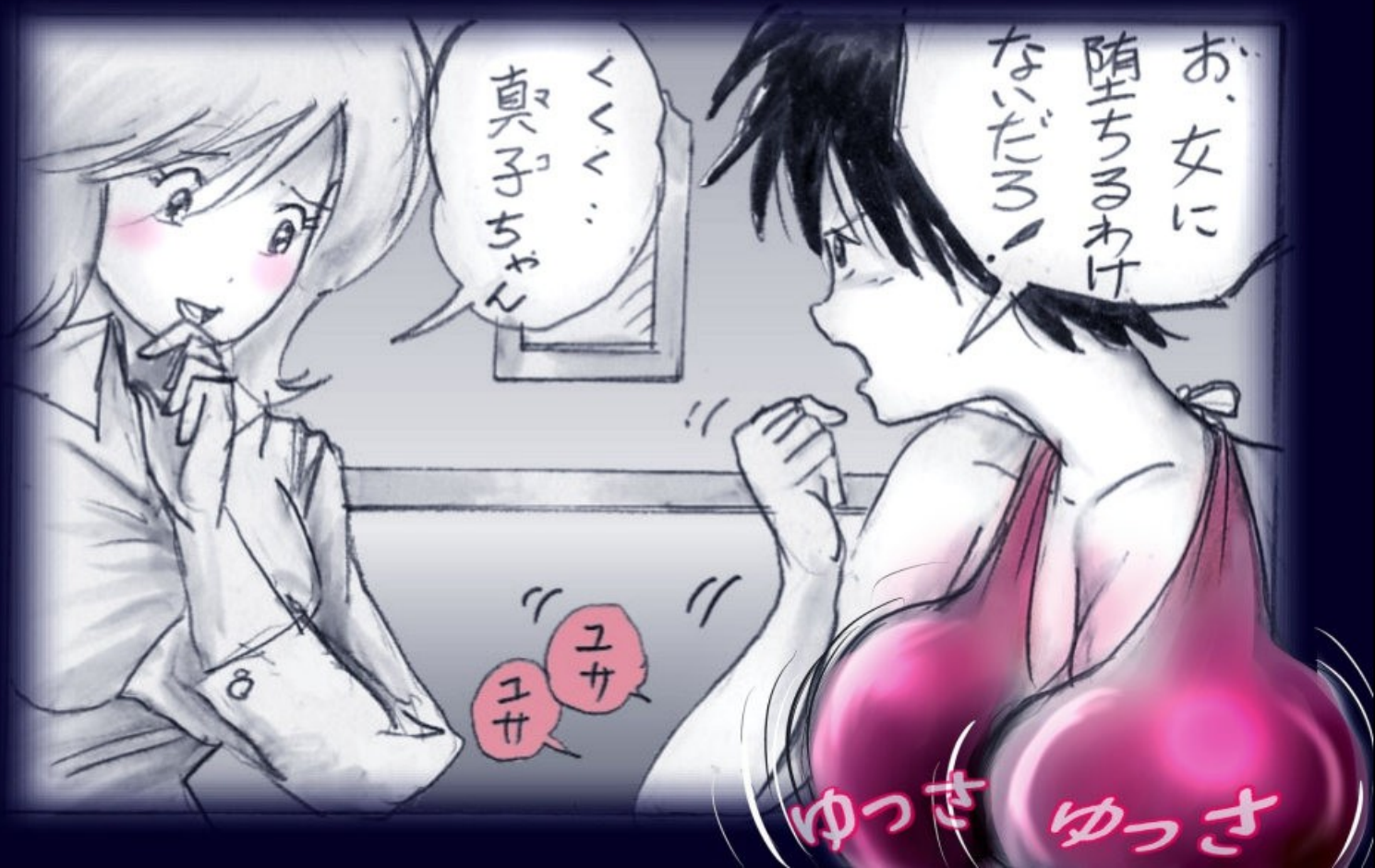
元陸自特戦隊
現メスクリン特務隊

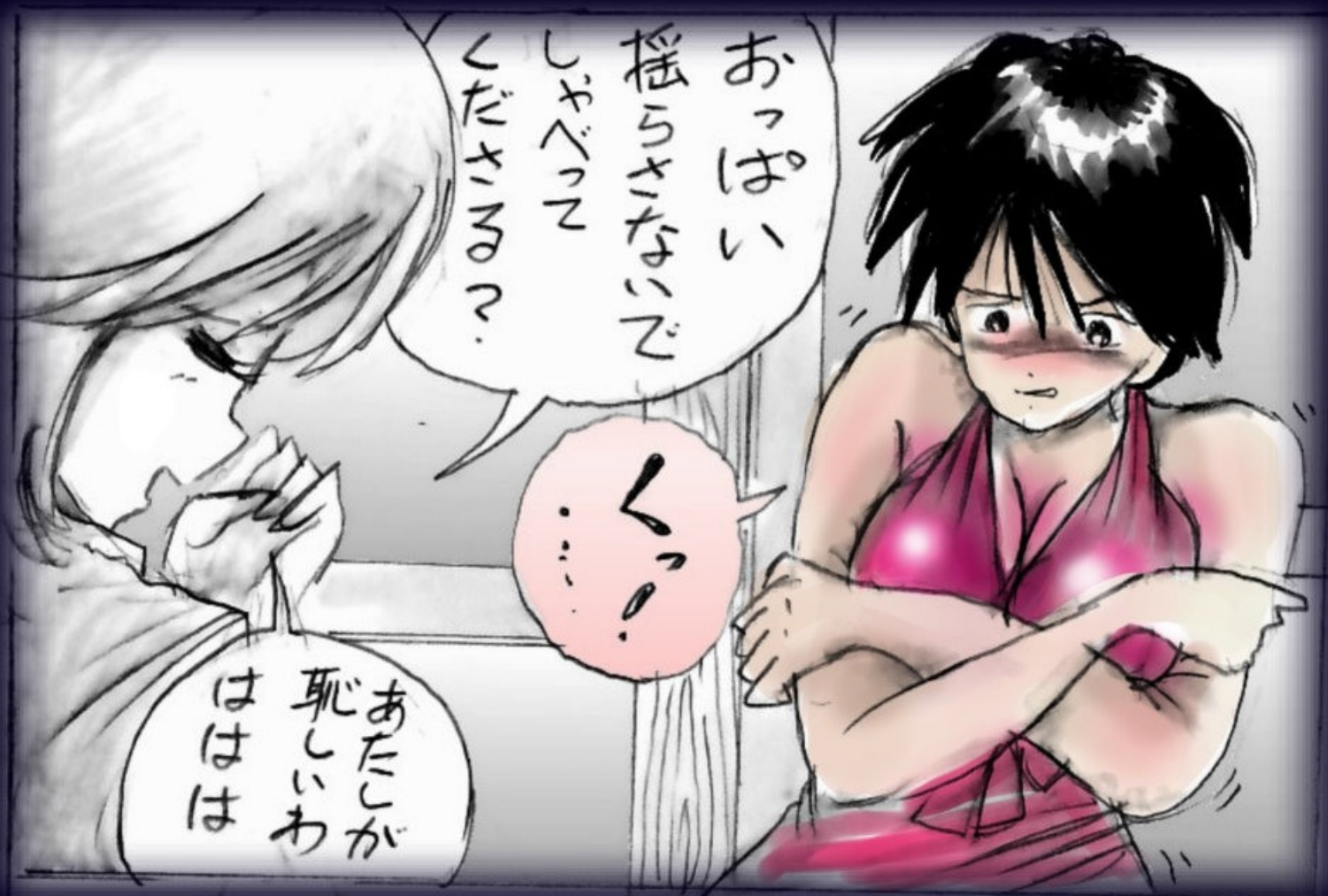
榊少尉





だって、
あなたこれから
女子化調教する
のよ。
毎日毎日素敵な
女の衣装を着て
お化粧し、髪を
女らしくして
過ごすの。
そして身も心も
メスクリンの
女に堕ちて
いくの





「かわいいわ、真子ちゃん…」

「今晚は もう、お部屋に帰っていいわ、素敵なお部屋よ」

「着替え用意してるから、ちゃんと着替えて寝るのよ、真子ちゃん」

触るな

今晚は
お部屋帰って
いいわ……



明日は
脳を弄って
女脳にしちゃ
おっと♥

カッ

カッ



う...う...う...

う...う...う...う...う...う...う...う...う...う...



精神女性化処置



明朝、ミルダ邸付きメイドに起こされた時にはすでに正体不明の拘束具に包まれていた。



「かわいいボブカットにしましょ。
ブラウンに髪そめて」

「女の子の髪型にしちゃいますね、隊長」。

メイドは 不適な笑いを浮かべ
真人の頭髪をなめるように眺める。

拘束した男を前に

メイドは手にした鋏を「チャキ、チャキ」
と弄ぶ。その表情はいままでのメイドでは
ない冷酷な笑みに満ちていた。

真人は動けない。

メイドは彼を「隊長」と呼ぶ……

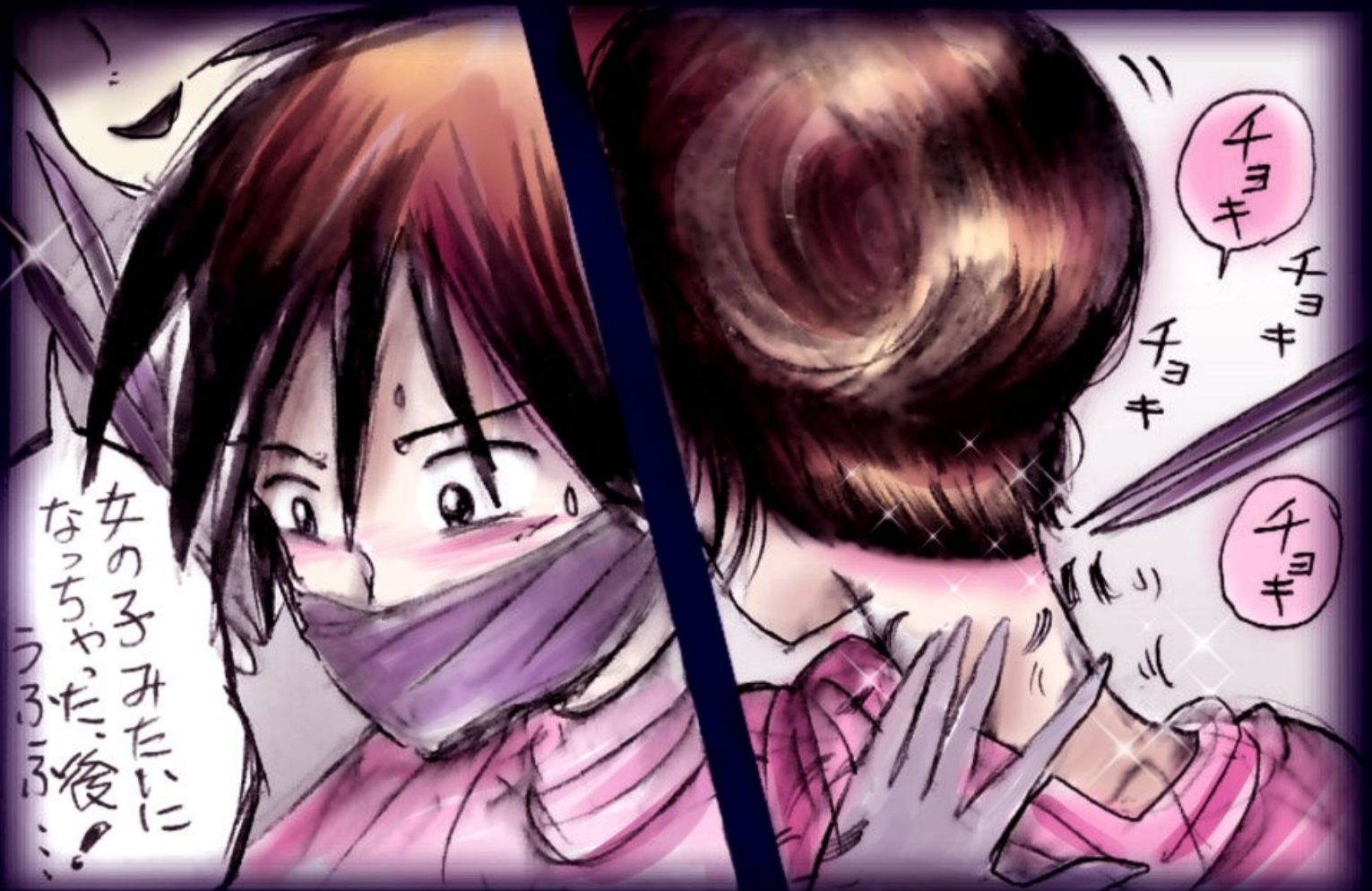


チョコ、チョコ

チョコ

チョコチョコ

チョコチョコ、チョコチョコ、チョコチョコ



真人の髪はみるみるうちに揃え、梳かれ、

そのシルエットは
女性的なラインと膨らみに満たされていった。

「うう……」

屈辱に身を震わせ抵抗しようとするが全身を拘束され口腔さえ
固定された真人に成す術がない。

カチャ
チャ

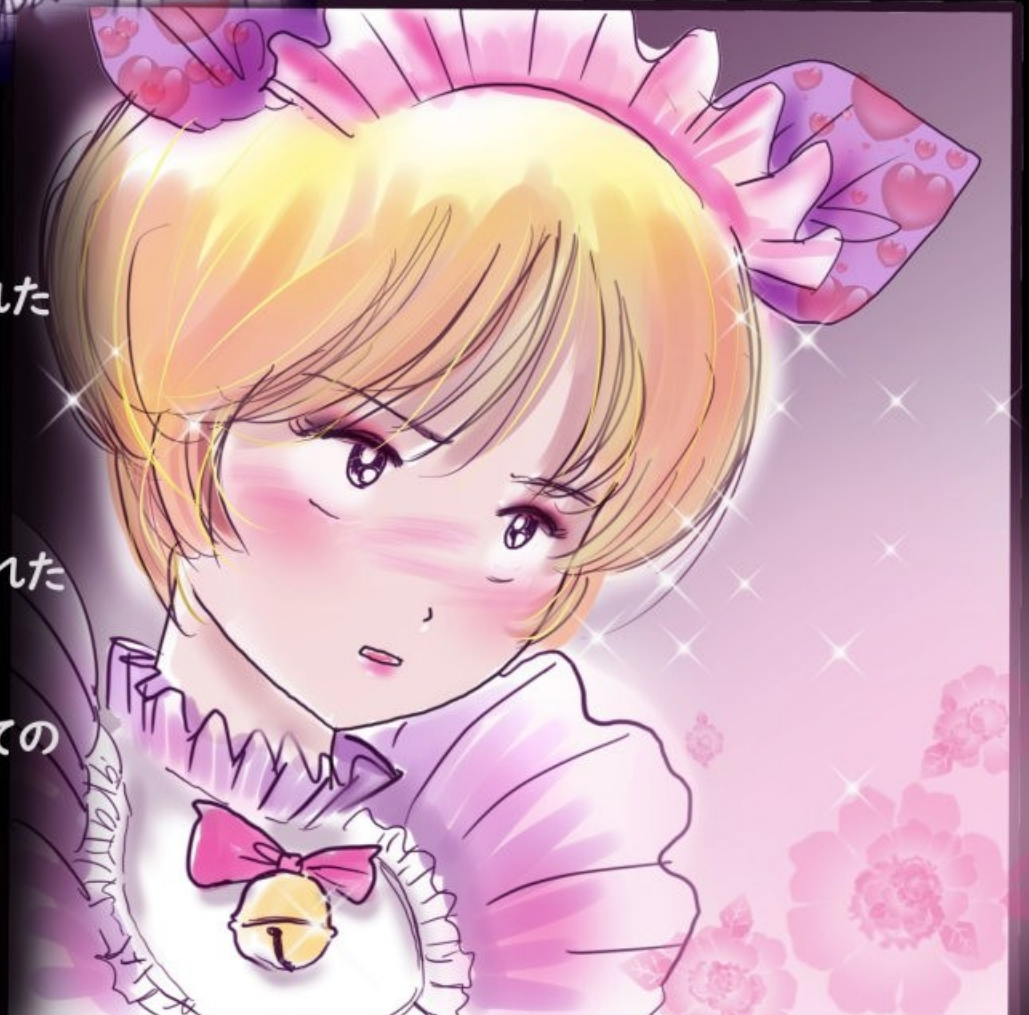


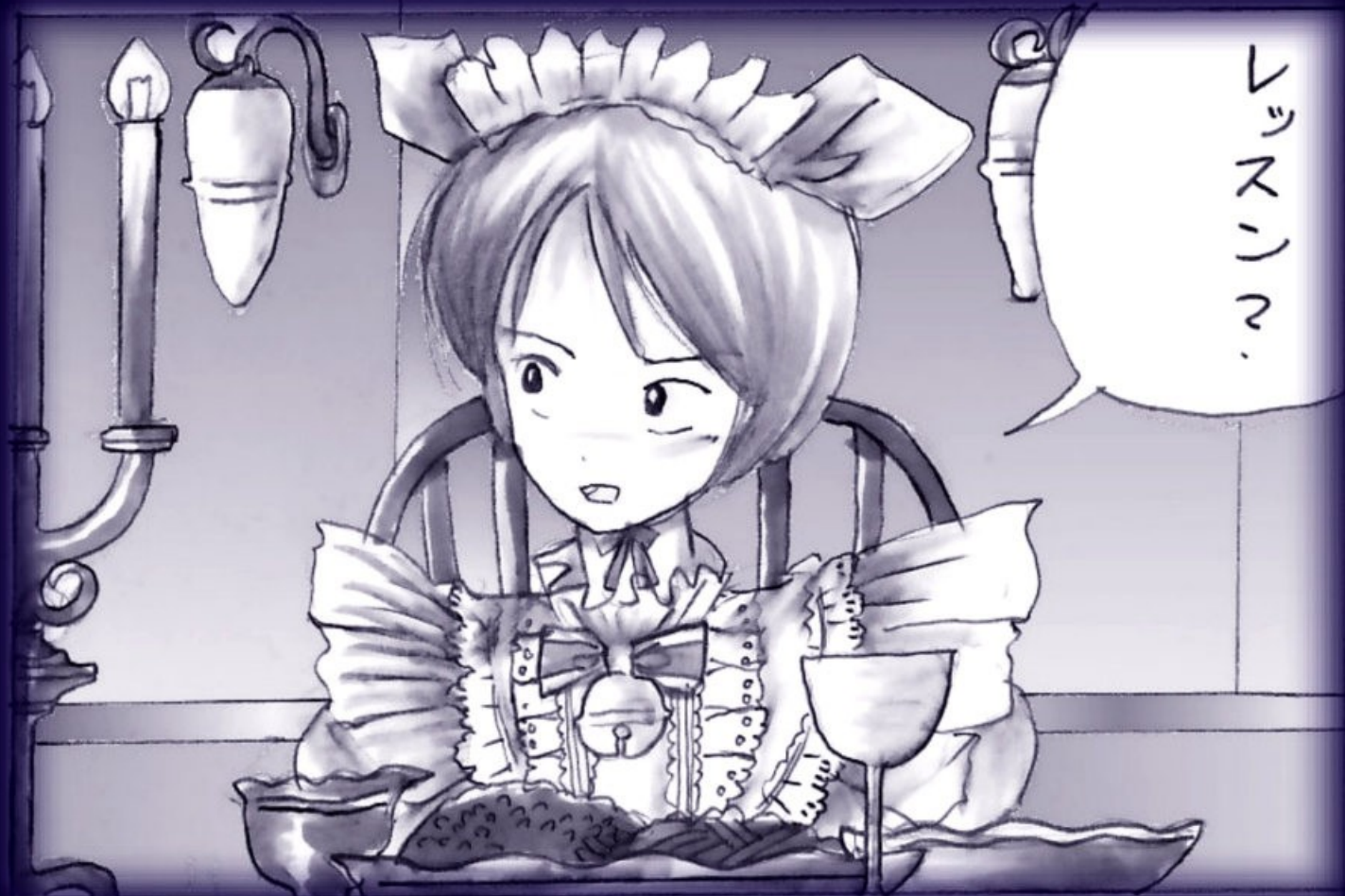
「カチャ」

ミルダ邸のダイニングルームのドアが
開き真人が案内されて入ってくる…

そこには
髪を染められ
髪を女性らしくカットされた
真人が立っていた。

ピンクのメイド服に包まれた
その容姿に
もう
特警第四小隊隊長としての
面影はもう無かった……





メイド服に包まれ、シャイニーブラウンのグラデーションボブの髪型に変えられた真人を食卓に座らせ、遅めの朝食をとりはじめた。

そして、中尉は世間話でもするように真人に恐ろしい「処置」について語りかけた。



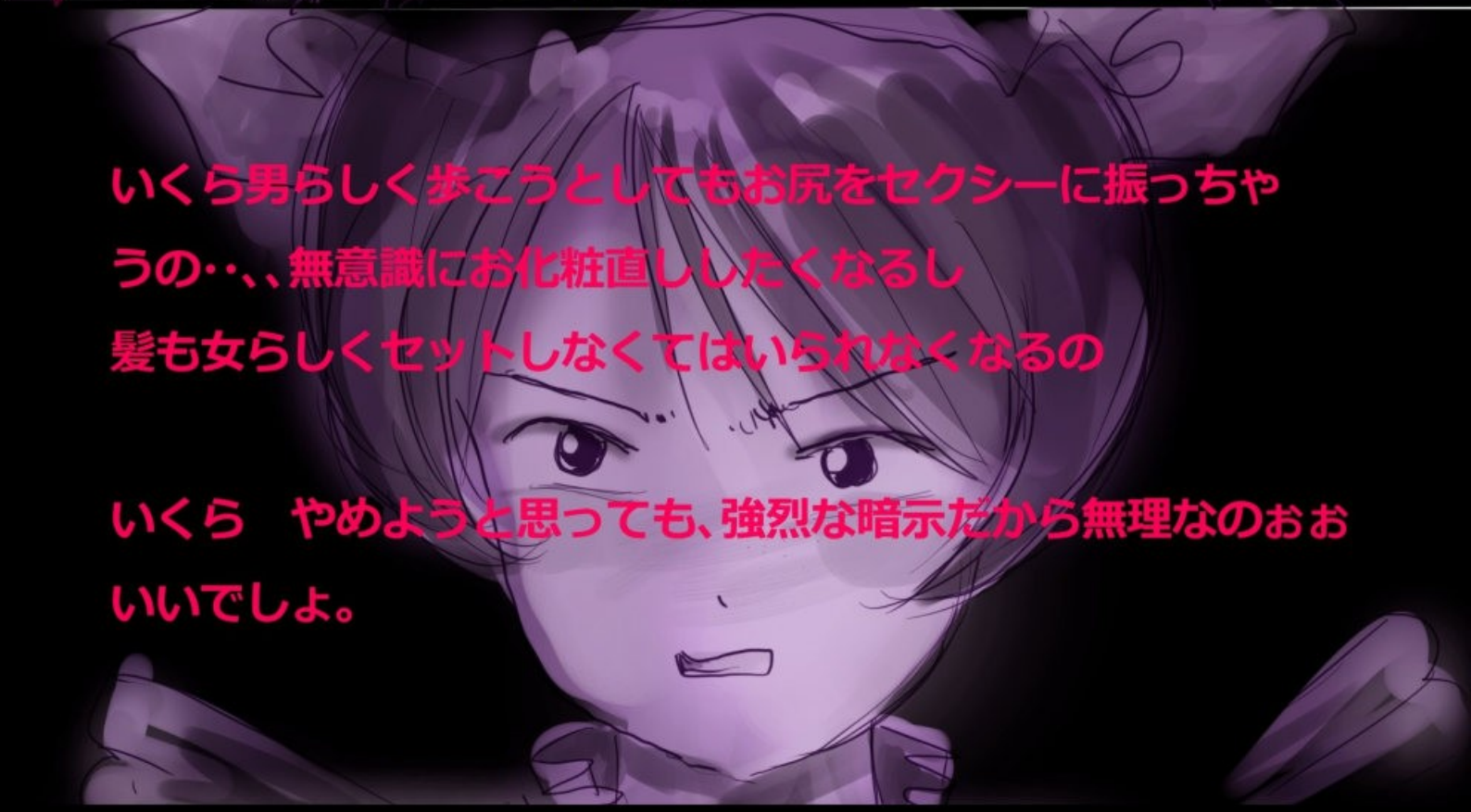
強烈な暗示をかけて、どうしても女らしい仕草、口調になっちゃうようにするの。

何度も何度も座り直しても女座りしちゃうの。
自然と女みたいに脚、揃えちゃうの。素敵でしょ、



いくら男らしく歩こうとしてもお尻をセクシーに振っちゃうの…、無意識にお化粧直したくなるし髪も女らしくセットしなくてはいられなくなるの

いくら やめようと思っても、強烈な暗示だから無理なのおおいでしょ。

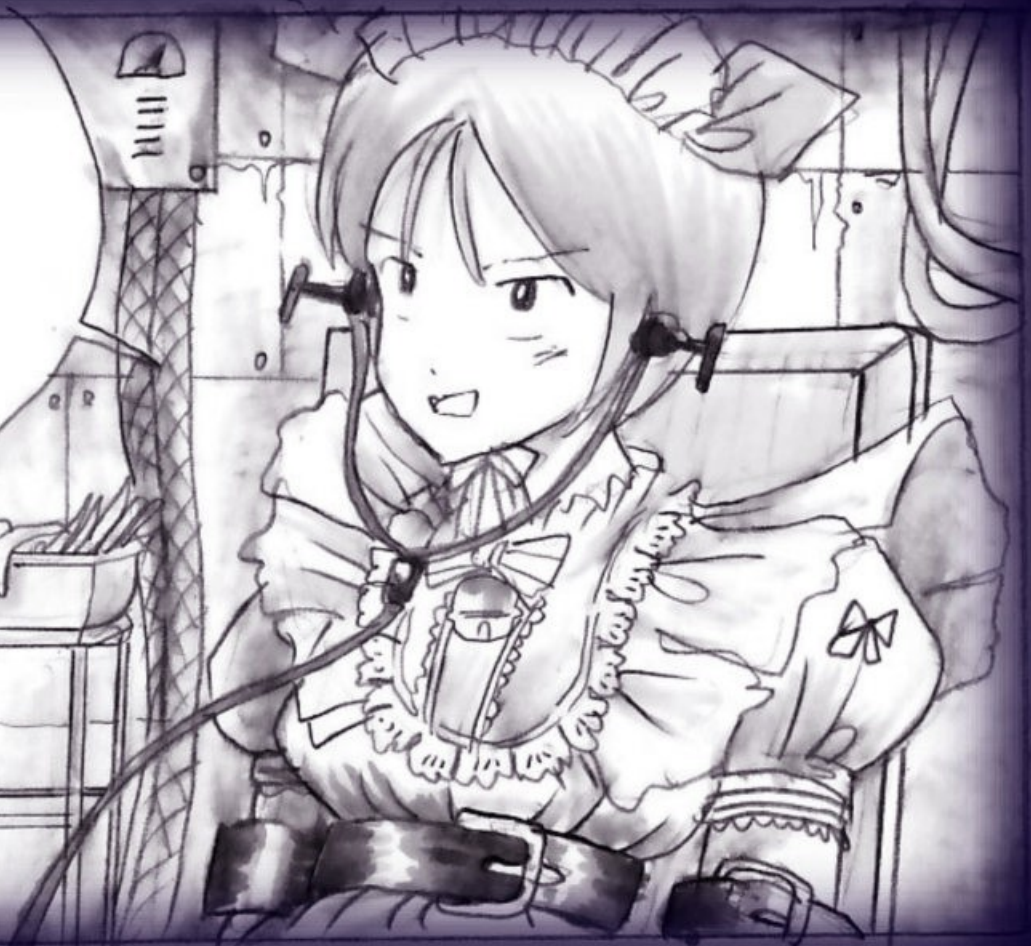


ミルダ中尉は真人との食事が済むと
邸宅の地下にある「第三施術室」に
真人を連れ込み、再び拘束した

居間とは別世界のような
冷たいコンクリートの壁。
薄暗い照明に照らされた
歯医者のような奇妙な工具の並んだ
机や棚が、真人を迎える。
僅かに異臭を含んだ冷たい空気が
真人の肺に入り込む……



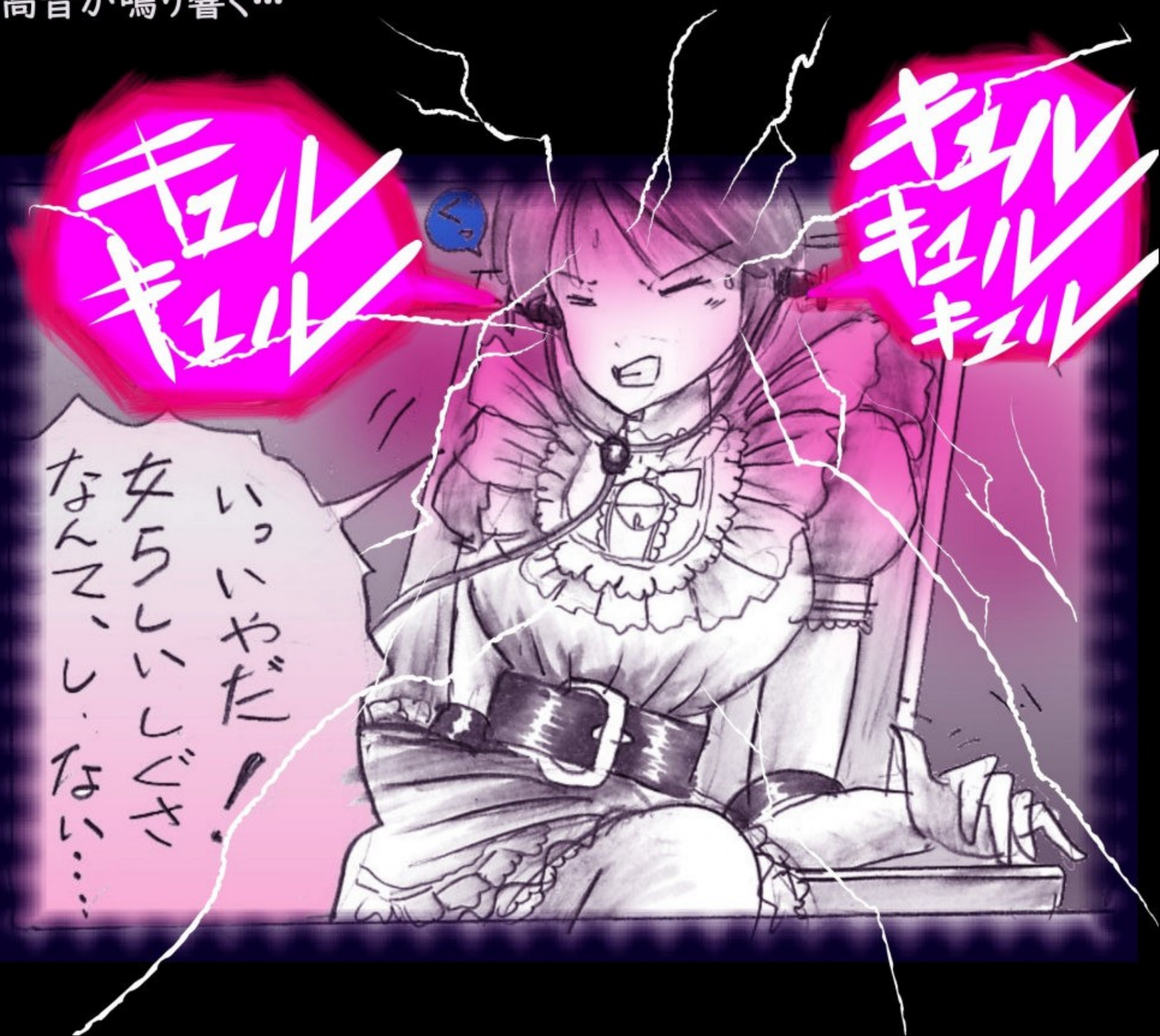
何を
する
気だ
拷問
しても
無駄
だ！
俺は
訓練
を
受
けて
る
ん
だ



何するって、女の子らしくするって言ったでしょ
それに拷問じゃないわ、暗示よ、暗示。
耳、ちょっとうるさいけど、体は傷つけないわ、
だってかわいい女の子になっちゃうのに傷つけちゃだめじゃん。
ねえ。

突然だった

真人の耳に刺さったイヤホンから頭が破裂しそうな勢いで意味不明の
高音が鳴り響く…



脳味噌を掻き回されている…そんな感覚だった。

そんな殺人的音響の中に、本人でも気づかぬ囁きが混じっていた…

「あなたは、女らしく振る舞ってしまう…」

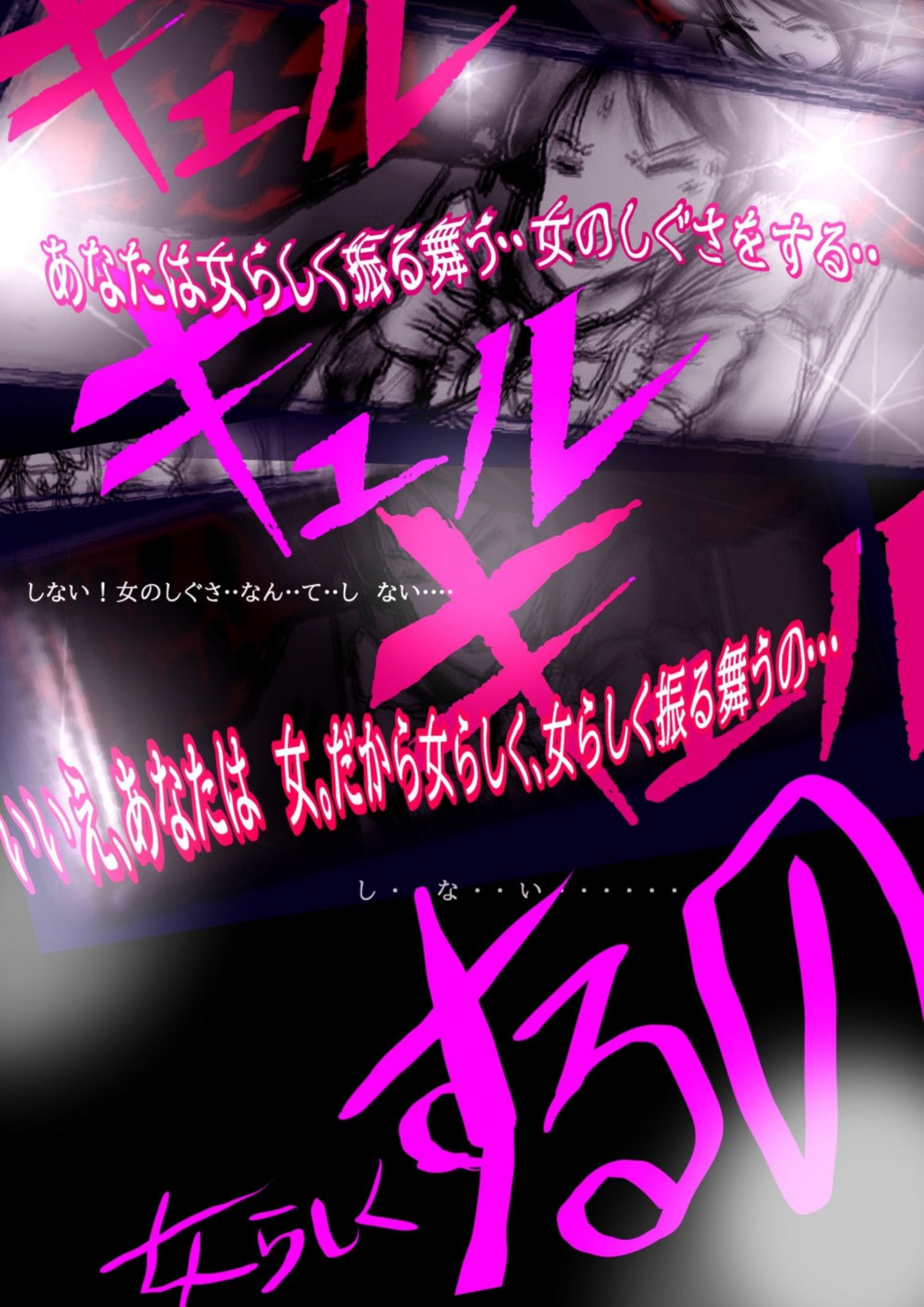
「そう、あなたは、普通の女性より、もっと、もっと
女らしくしたくなる……」

違う…

オレは…女 じゃない…

お、オンナになんか…





あなたは女らしく振る舞う..女のしぐさをする..

しない!女のしぐさ..なん..て..し ない....

いゝあなた 女だから女らしく、女らしく振る舞うの...

し . な . い

女らしく する

PAKITHI!



どう？
頭の中に
乙女心
埋め込まれた
気分は？



一生取れないのよ
それ。グククク

あなたの名は真子。
どう抗っても自分のこと
「真子」って言ってしまおうの。
どう抗っても
女言葉になっちゃおうの。

そう：

どうしても脚を女の子みたいに
揃えちゃうの。
どうしてもお尻振って歩いちゃうの。
どうしても女らしい仕草になっちゃうの。

いい？
真子ちゃん

はい

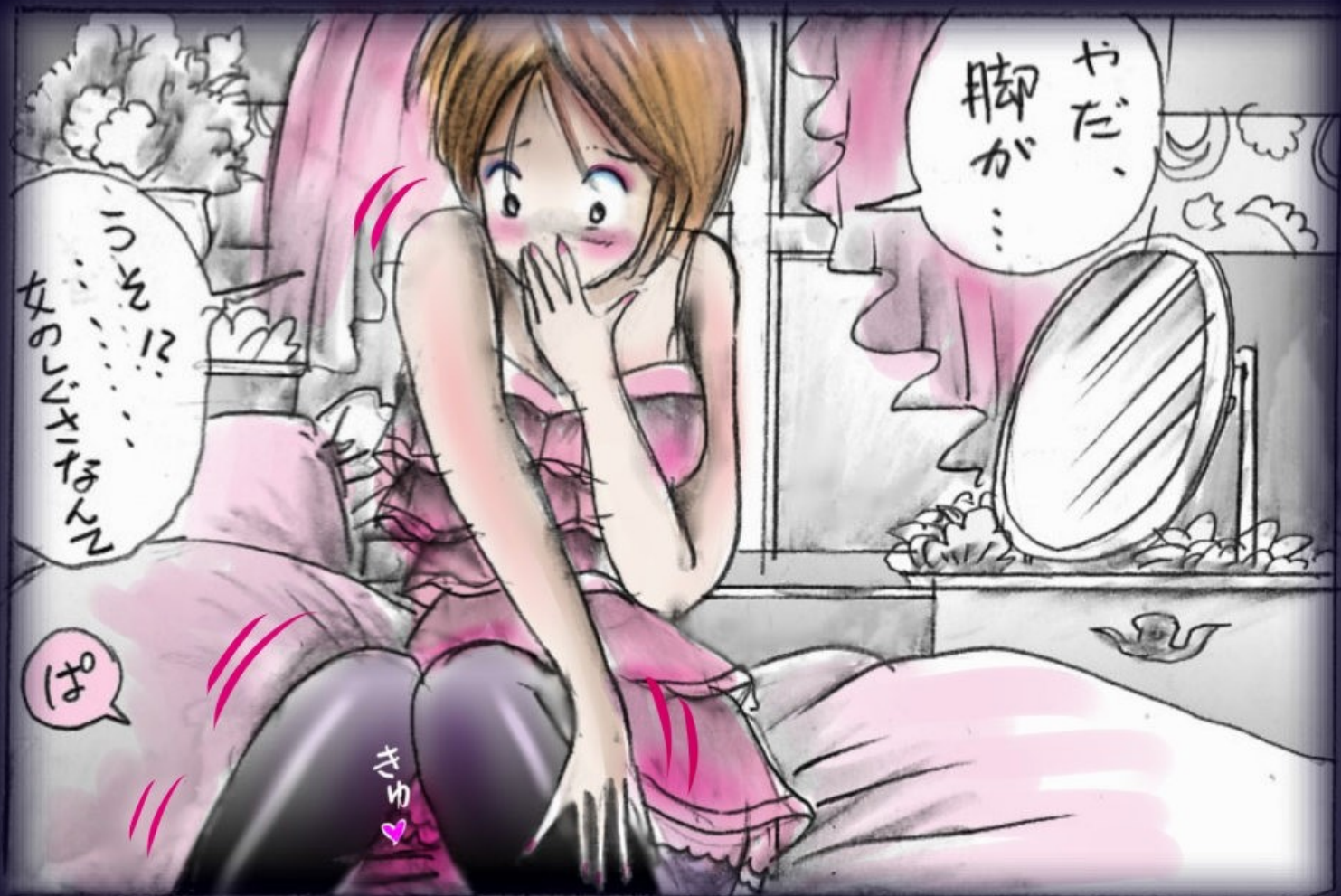
女らしく
振る舞います……





真人はふと自分の足元を見てしまう...

そこには無意識に女性らしく揃えた脚があった…。
ゆうべの出来事..!



真人はショックだった。まったく意識していない。

なのに…

真人は男としての意識も記憶もはっきりしている…なのに…。

再び脚をばらしてみる…

なのに、自然と自分の脚がしなを作りながら揃えていく……

真人の背筋に悪寒が走る。

もう一度 やってみる……しかし、同じだった、
真人の意識とは別に脚は
女らしく、女らしく、揃えられていく…

そして真人は、ふと気づいた。
脚以外のしぐさ、手や腰、振る舞いすべてが女らしく
動いていたことを…





真子となってしまった、真人。
そのまま身をベットに預けてしまう…がその姿すら…

女性らしくカットされた襟足、強制的に履かされたレースのフリルを
スカートから露出させながら
屈強な男だった特警第四小隊隊長 真人隊長は泣き伏せる姿は
すでに 女 だった。

しかし「調教」はまだ始まったばかりだった。……



その日の夕方の真人は
淡いピンクのチャイナドレスに身を
包まれていた…





真人は決してしおらしく振舞いたくないのに、

バスト100以上にされた胸。

肋骨下部を切除され、くびらされた腰、

女性らしくボブヘアーにされた髪、

そして毎日恭しく着せられる女性用の服。

その現実をいやがる動作ひとつひとつがどうしても女性らしい趣を放ってしまう。

濃厚女性ホルモンを大量に打ち込まれ、ポッチャリと皮下脂肪が付いてしまった太ももは、何故か自然と内股となり、女らしさを不本意にもさらけ出していた...





本部への定時連絡を終えた
ミルダ中尉は
暗示により「しおらしくした」真人に向かって

その暗示の効果が
もう一つ有ることを伝えたく楽しげに
その部屋を去っていった。

「暗示」の効果を目の当たりにしてる
真人にとって、我が身のこれ以上の
女性化は到底受け入れがたいもので
あった。。

「逃げないと…」

すさまじい焦燥感に駆られた
真人の視界に
ミルダ中尉の置いていった携帯が
映った。



逆探準備して

榊、真人は恐らくSAT本部に連絡しようとするわ。

Pi

カッ
ゴッ

MAKO

了解しました。逆探と同時にネットワーク侵入を図ります

97

10

SAKAKI



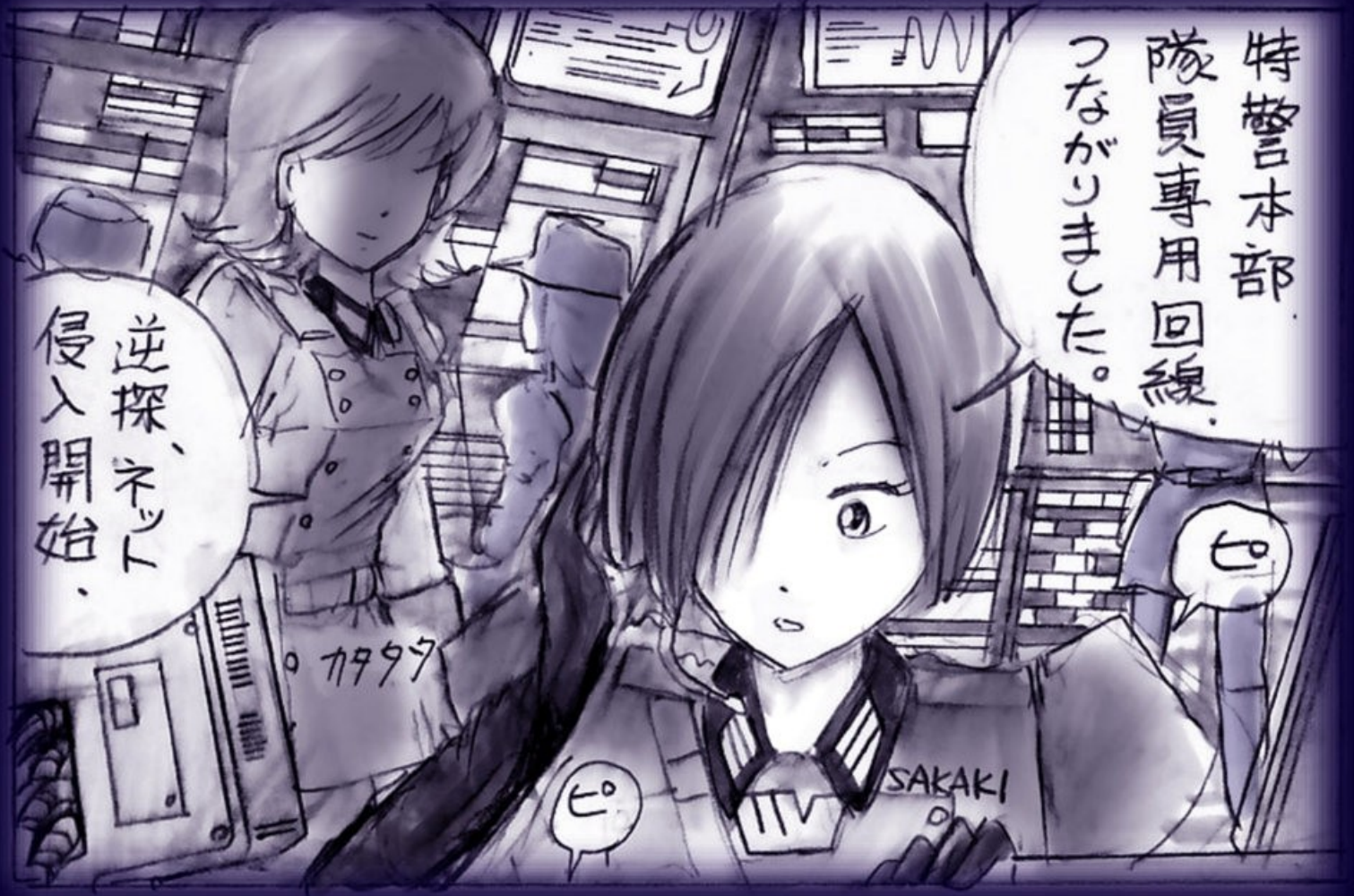
真人は 部屋から出て遠ざかっていったことを確認すると、
急いでミルダ中尉の忘れていった携帯に飛びつく。

震える手で、

隊員しか知らない

警視庁特別警察SAT本部
特別回線のナンバーを押す





特警本部

隊員専用回線

つながりました。

逆探、ネット
侵入開始

7997

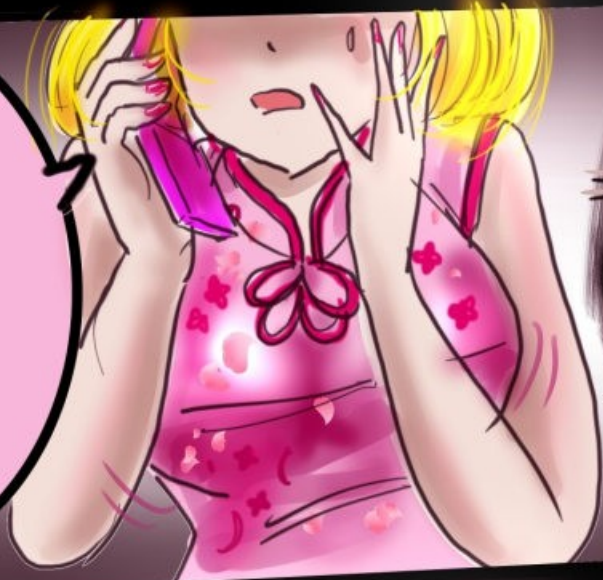
SAKAKI



SAT全データ
バキョム開始
最終コーナーで
ウイルスを打ち込
んでちょうだい

もちろん携帯を
忘れたのは、
SAT本部の在処を
突き止めるための
ミルダが仕掛けた罠であった。

こちらSAT本部
この回線は緊急用だ
貴殿のコード及び
部隊名、名前を述べよ



コード8022
特警第四小隊所属、
あたしは…
真子、片桐真子よ!

コードは存在するが
「真子」という隊員は
いない。女子隊員は
いない。貴様は誰だ!

え!?



あたし

真子って

ううん、違うの、
あたし… 真子よ
ち、違う…



真子よ!

違うの、あ、あたし

真子、なの

ううん



ミー



うんうん

女になっちゃう...

アレン

アレン

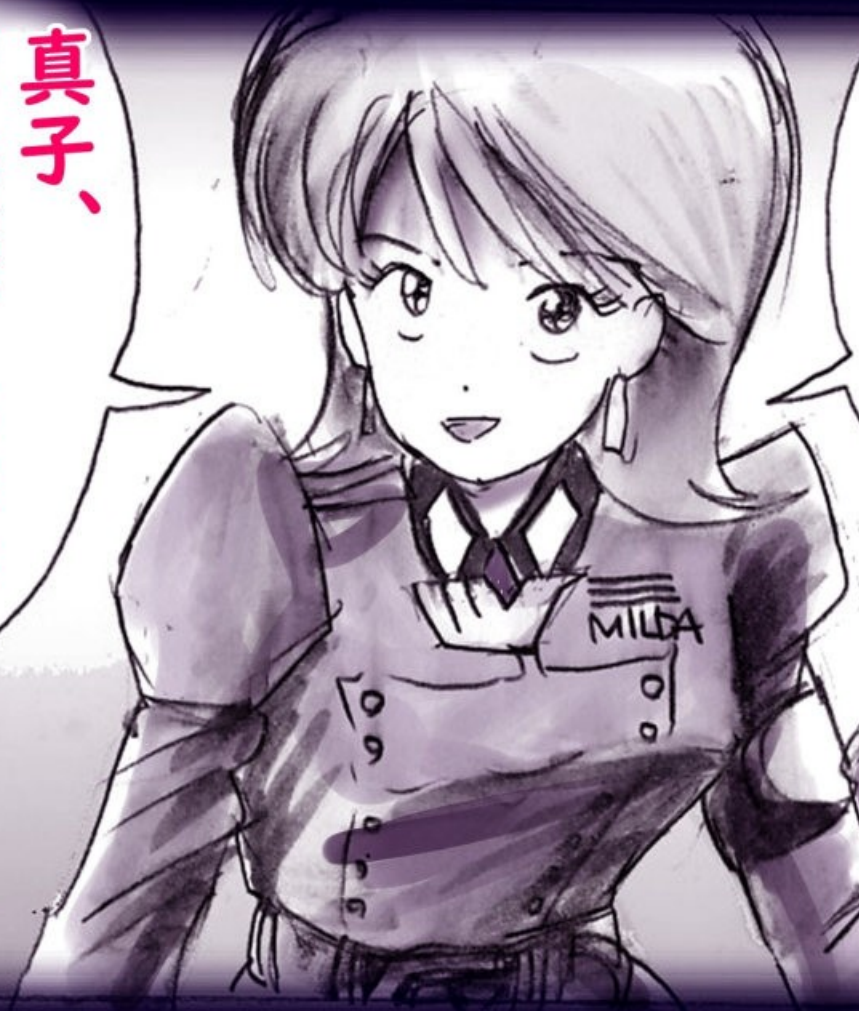
勝手にあたしのケイタイ使うからよ、



言ったでしょ…
もう一つ暗示があるぞ、
女言葉しかしゃべれない
暗示よ。



真子、
お化粧するのよ
可愛い女の子として
お出迎えするの。



特警もばかじゃない、
コードを伝えたから、
一心調へに
来るわ。



鏡の前に、厚化粧した女がいた。



発情

真人はまだ鏡を正視できない、
幾重にも塗り込められたファンデーションによる肌のつっぱり。
大量の付け睫毛の重み。
唇のルージュの粘着感。
どれも 想像するに 正視できない有様だと真人は感じていたからだ。

しかし ミルダ中尉は容赦なかった。
うつむく真子の頭を強引に引き上げる。

「ほうら、ちゃんと見なさい、
厚化粧の真子ちゃん！」

グッ



もう真子ったらあ
さっきまで勇ましい特警隊長だった
のにい〜お化粧濃い過ぎるわよ、
化粧クッサ！プンプン化粧臭いわ！
クッサ、クッサ、変態よね、あんた！



特警第四小队隊長だった 真人、

バスト100に豊胸、肋骨を2本切除、
高純度ハイエストロモン大量投与され体を女性化、
暗示装置により女言葉と女性のしぐさを強制させられ、

そして今度は ミルダ中尉の携帯を無断使用した罰として
派手目な強制メイクをされた 真人。

その風体にもう隊長の面影はない……………。



あよお隊長さん

トキドクモセ

似合ってる
お化粧、
とってよ
とってよ

女性風にタオル巻きにされたうなじ。

いつの間に着せられたか淡いピンクの
ベビードール

厚化粧にされた真人。

彼女のどこが

数日前まで男性だった
といえよう…



ごきげんよう、おはよう……
オハヨウ

もうすぐ警察と
SATが捜査に来るの
来たら、真子、あなたが出るのよ。

そしてこう言うの、

『あたし今からお風呂入るの
恥しいから帰ってくださる？』

って答えるのよ。

オッパイ揉みながら。



いっいおやよ
そんなこと…
言わないわ

おっぱいなんて
揉むわけないでしょー！

んん、これも暗示。
「男性の声」により
一層、女として発情
して答えるよう
暗示かけちゃ、たの



厚化粧にベビードル、そしてどう抗っても
口からは女言葉しか出ない暗示。
身振りも女らしく女らしくしてしまう身体。

こんな身体で同僚の前に出て自部は真人だと証明できる
自信がない…

むしろこんな恥辱な姿になってしまったことを仲間に
見られたくない、ああ、あたしは一生女としてここに
いなきゃいけないの？

そしてミルダは

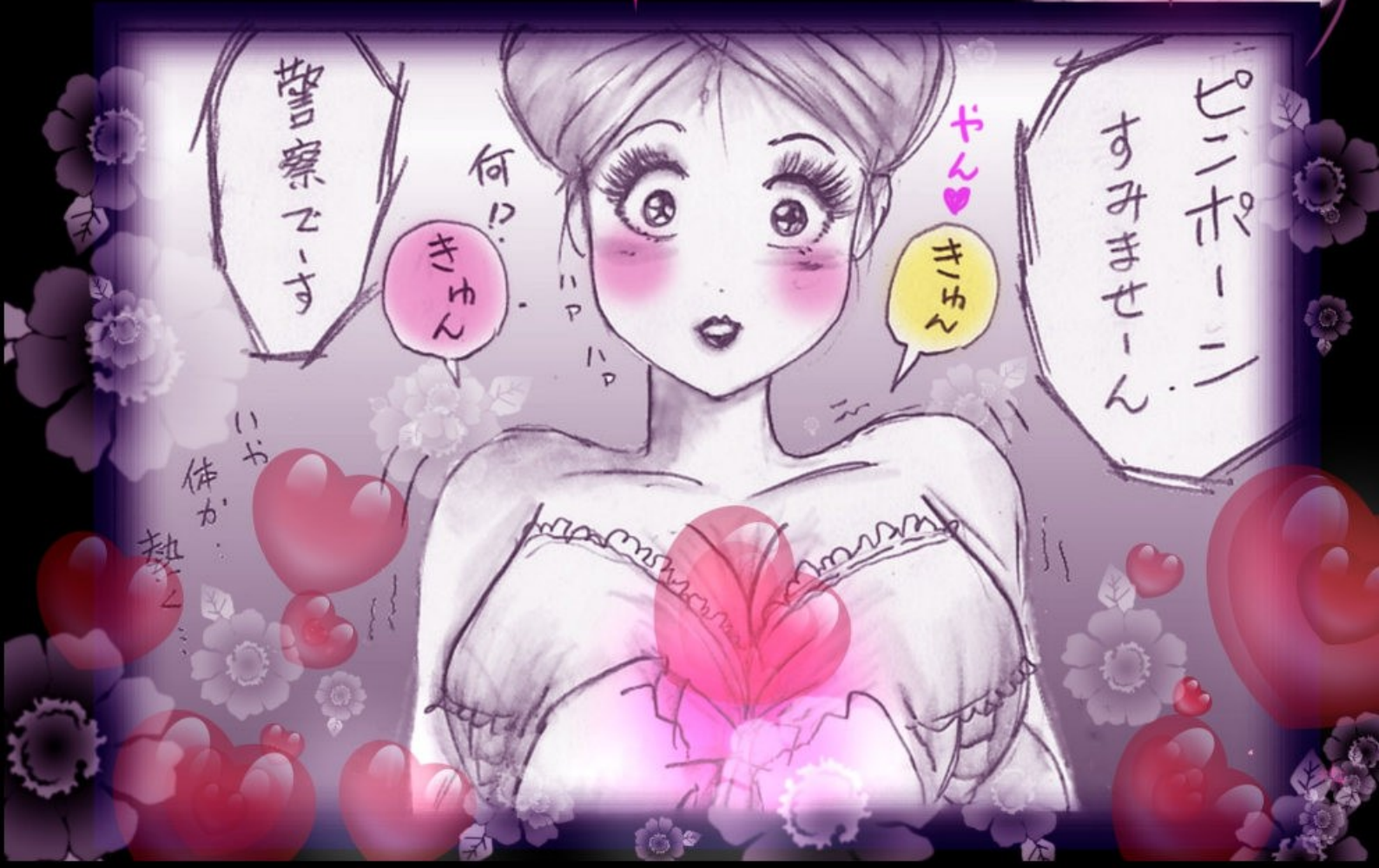
さらに恐ろしい暗示を真人に搔けていることを告げた。

男性の前で「発情」してしまう暗示。

ピンポーン

男に：発情なんて
するわけ…ないわ……

オトコの人かくる…





すいませーん
捜査の
御協力をー！

ピニホーニ

さあ、仲間に真人ですって喋ったら？ ただし…
女言葉は失礼よねー、
ましてや助けに来たのに女として発情して色気振り撒く奴って同僚さん
許さないと思うわ



あなたが
呼んだのよ。
ちゃんと階級とよ。
名前言って、
事情しげぶたらうっ。
たぢし…

いかにや！！
いかにや！！

ただし、
女言葉は
失礼よねー！

化粧臭いし…

ピニホーニ

ポニ

ポニ

絶対にいやだった..

こんな格好..なのに体が

男の声の方へと歩いてしまう..

胸が高鳴る、

今にも強制的に付けられたこの胸を揉み解したくなる
そんな衝動に包まれつつある自分。

真人は許せなかった... 「いや! いやよ! どして..」

なのに また一步、

玄関に近づいてしまう..



すみません

はあ

あ

はあ

オトコの声

はあ

オトコ

男

オトコ

あ

あ

はあ

あ

不本意に玄関を自ら開けてしまった真人に 衝撃が走った…



そこに立っていたのは
直属の部下だった「真田」だった、

部隊で最も真人隊長を信頼し尊敬してくれていた部下だった。



「真人なんて知りません、ここにはいません」

真田・・・ごめんなさい
あたし・・・女に
されたの、

あなたに
気付かされたくないの
こんな姿・

ハア

ハア

フリ
フリ

キュ
キュ

ムキ

男！男だわ！

興奮しちゃうわー

真人の中で
屈強の第四小队隊長として
生きてきた
男として生きてきた
すべての
アイデンティティが
音を立てて

崩れていく瞬間だった。

真田、見ないで
お化粧されちゃった顔、
大きくされちゃったオツパイ
女みたいにされちゃった尻
見ないで！ 真田！



真田…
あたし…でも
見ないで…

女のあもし
見ないで

お尻…
お尻みないで

はあ

はあ

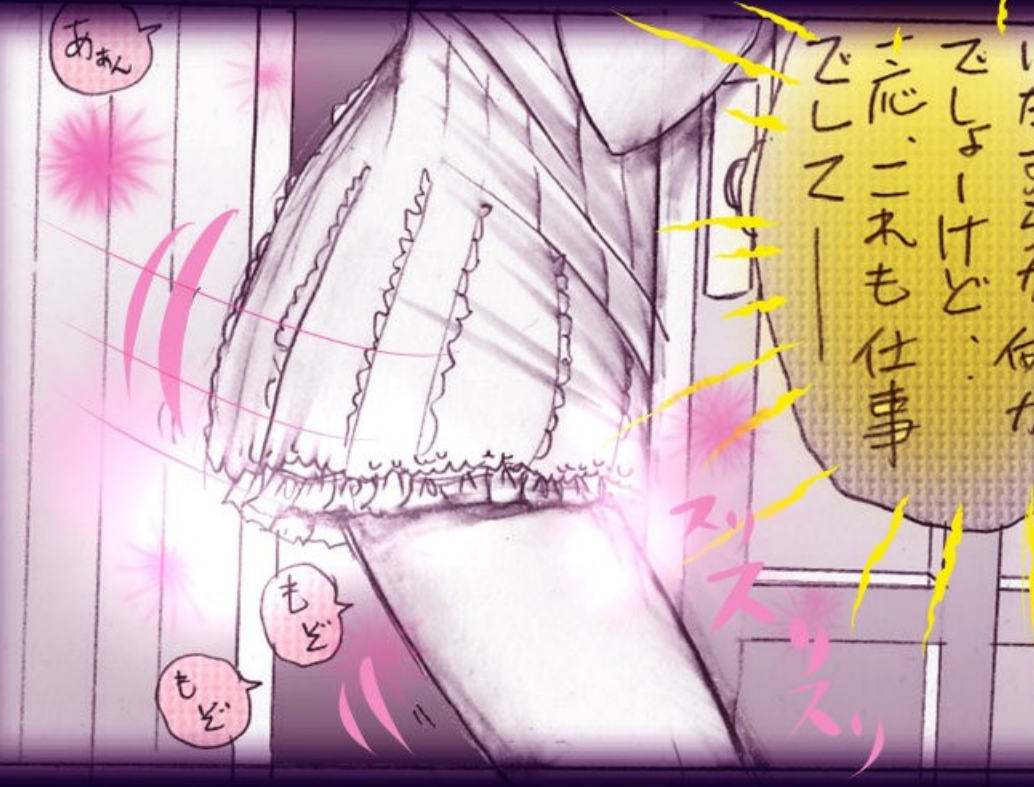
フリ



男性の声に「発情」してしまう

そんな事実を知らずに訪れた警官はその男の声で真人に質問を浴びせる。

すでに真人の中では色情と恥辱二つの感情が怒濤のごとく入り乱れ正常な意識を保てなくなっていた。



もう耐えられなかった。下半身のそこは

もう女として濡れ初めていた...

思わず戸口で股間を擦る真人。

淫乱だった。

情けない真人。



あ？あかし

△う、お風呂中なの

は、恥しいか：ら、後に

してくださる

真田！！

真田、あたしを
さるの、助けて

はぁん♡

精一杯だった。

もうこんな自分をさらけ出したくない
色欲に埋もれつつある自分の中で唯一
この場を去れる手段、助けてほしいのに
「女としてお風呂」

と言ってしまった……………
「ああ、真田、助けてあたしを」
「女になっちゃう」

「女にされちゃう」

「助けて。…真田」

「女に…」



真田…

あ…おまえ

真人の頭の中でその時「何か」がはじけてしまった

女だのあたし

もももも
来なさい

トヨハラ
真人



ちかうわ
あ、真たし
女子よ
女のよ

特
警
隊
長
か
ニノ田



見
て
よ
お
ん
な
の

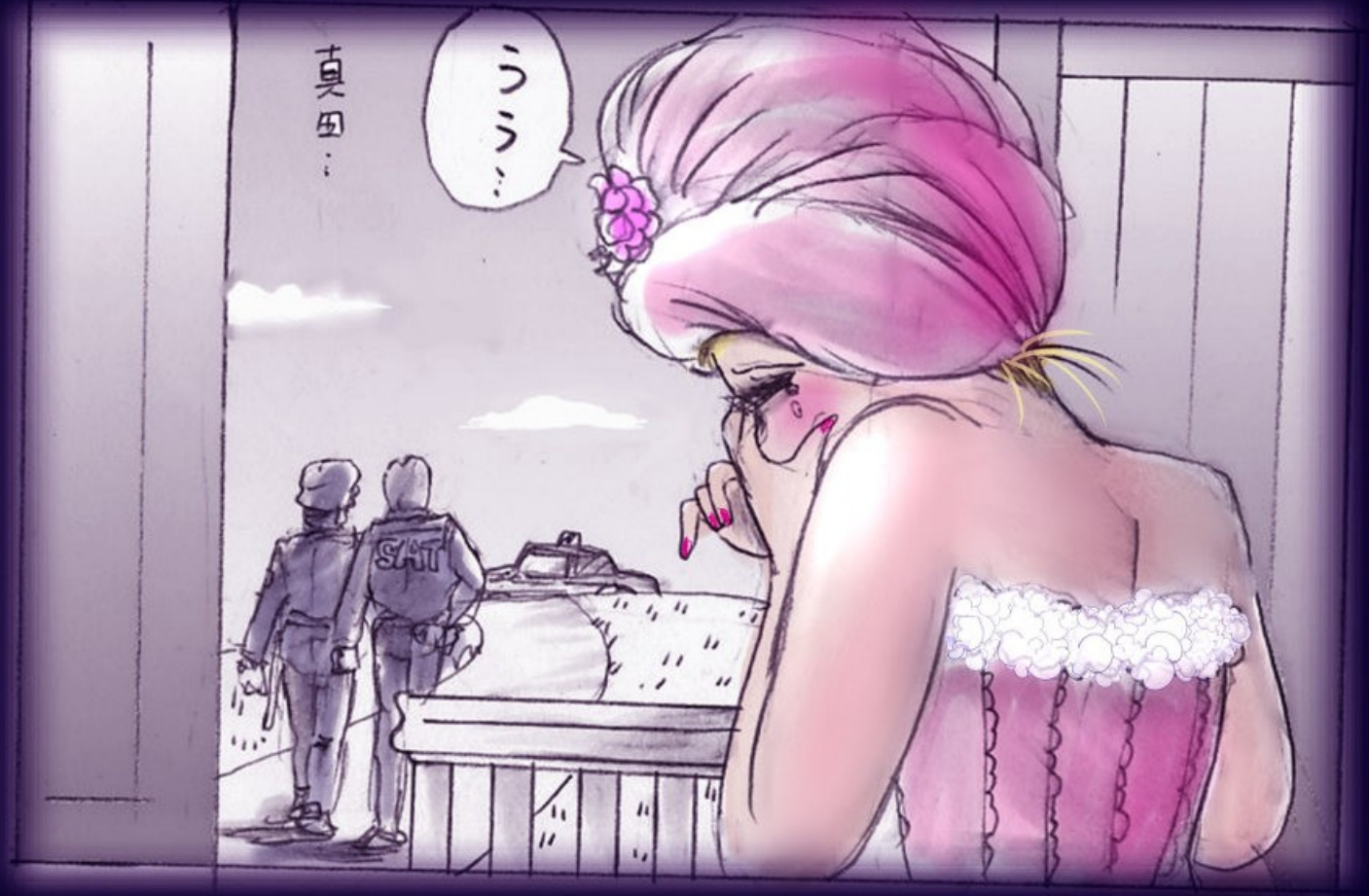
PLIN

PLIN

真人は真子として生きることを決心したのである。

しかし真田は、彼女とはまた違った決心をしていた。





真田

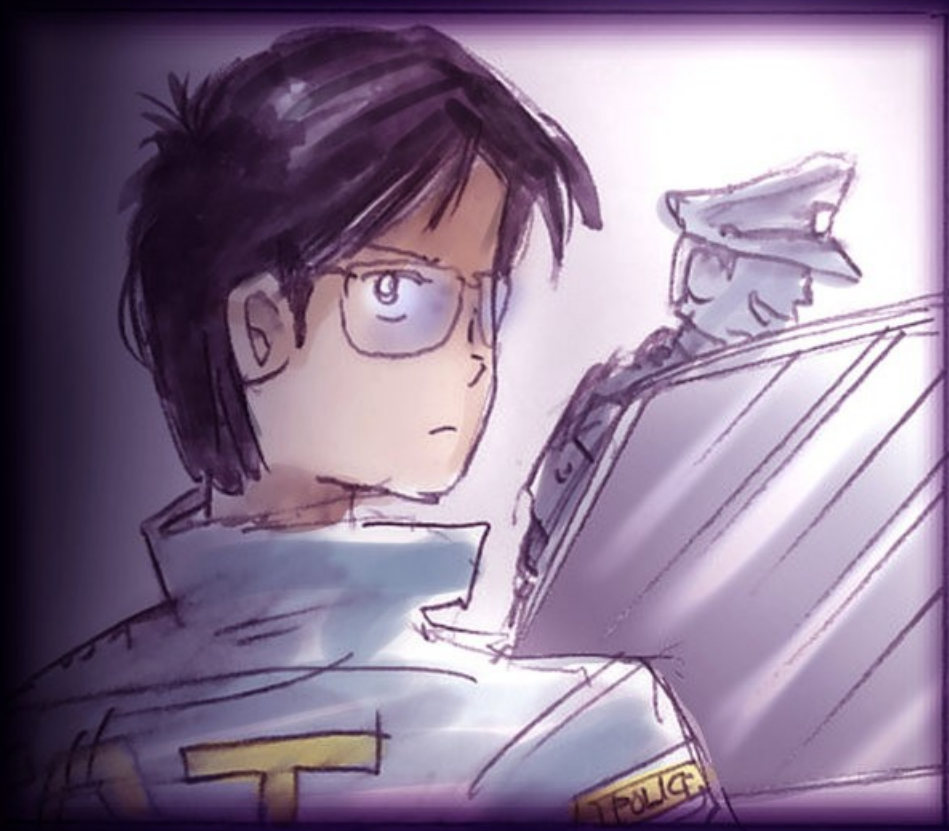
ううう



ブレちゃたかなう
厚化粧のオカマになっちゃたの

ううう

どう？
真田隊員
って親友
だったよね



魔薬化粧

あれから数日間、真人は
泣いて暮らした。

涙も枯れ果てた頃、
どうしてか
真人の髪は伸び
女らしさが一層増していた。

もう自分の身体に何が
作用しているのか
危惧する気力は失いつつ
あった。
元の自分を忘れていく自分。



ふと、鏡台に並んだ化粧品が
視界に入る。...

それはいつも並んでいるものだった。

普段は気にもしなかった
真っ赤なルージュ。

なのに
真人はいつになくその色に魅せられる。

沸き上がる欲情..



どうしたのか..

目の前のルージュが気になって仕方がない。

やがて
押さえようもない衝動が真人の脳を包み出す。

体中がそのルージュを求めていた..

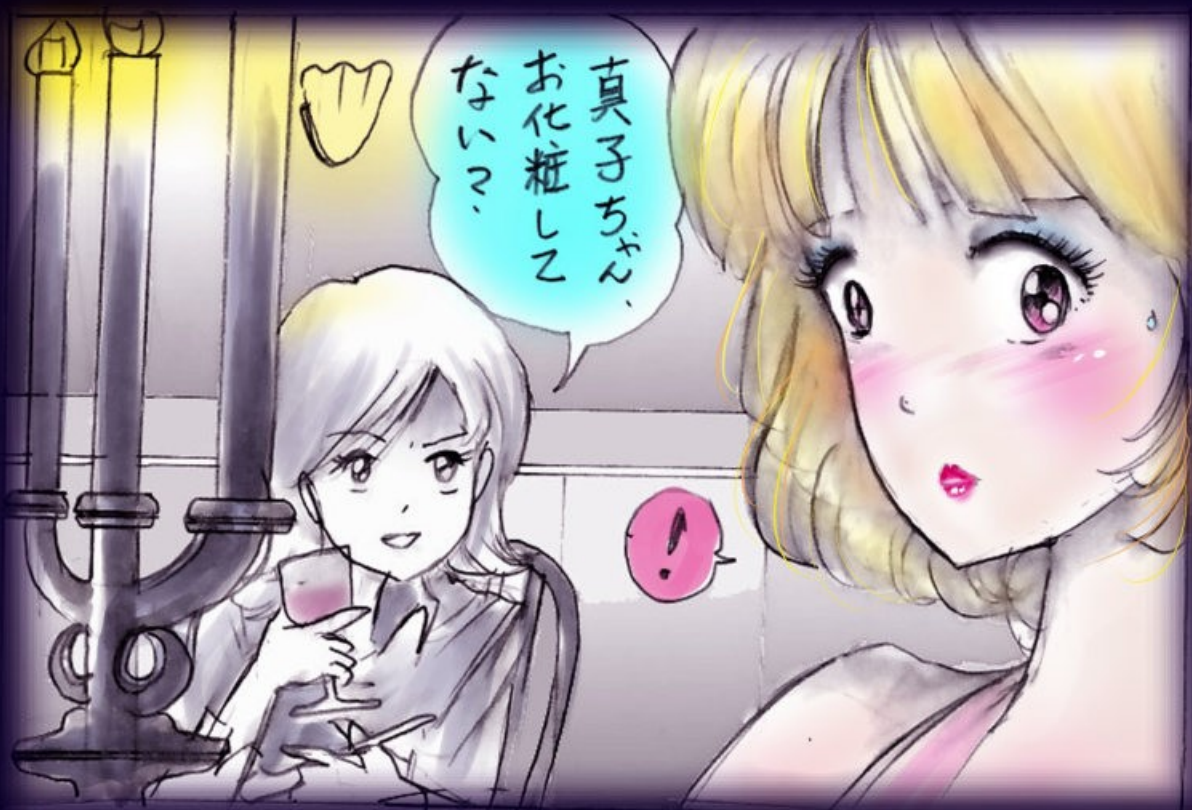
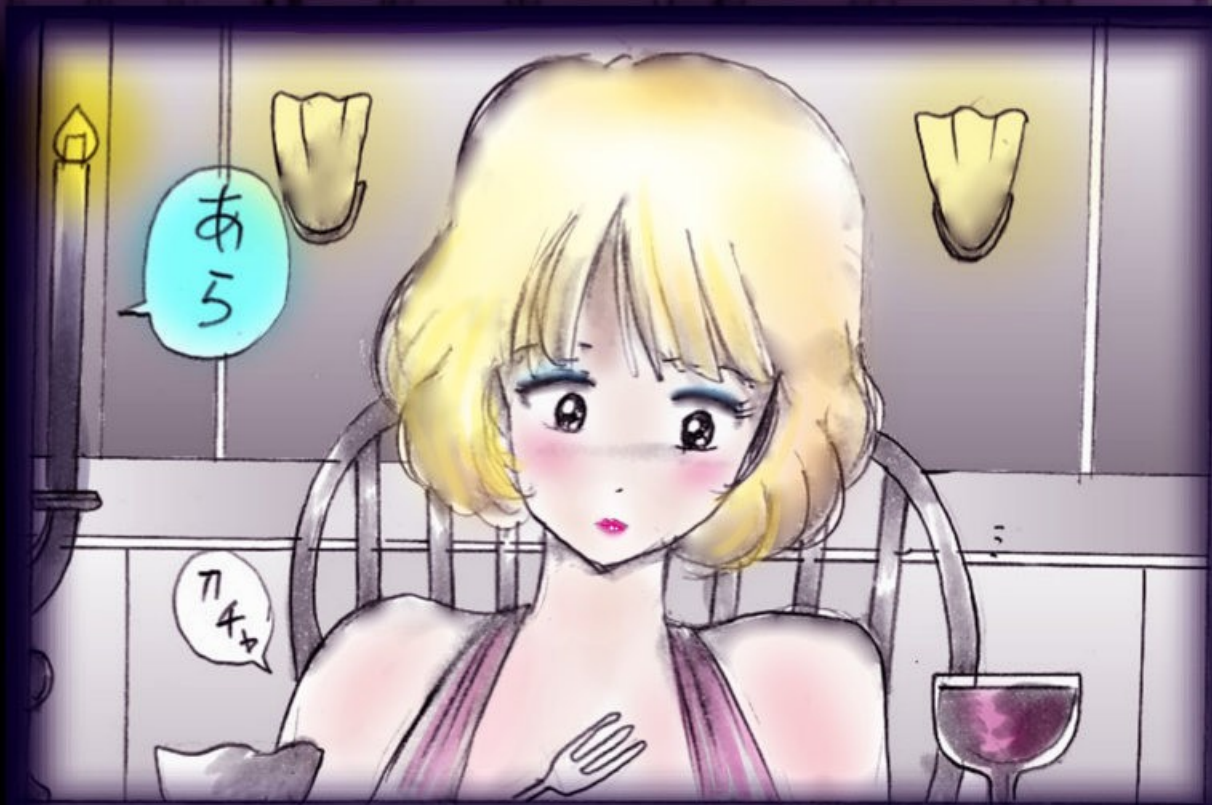
そんなはずない...
いくら格好やしぐさを女性的なものに変えられても自ら女らしく化粧なんて...

しかし、そんなためらいも
いつしか消えていく...

眼前の真っ赤な先端が
を見つめ生唾を飲む..
真人。



カチャ

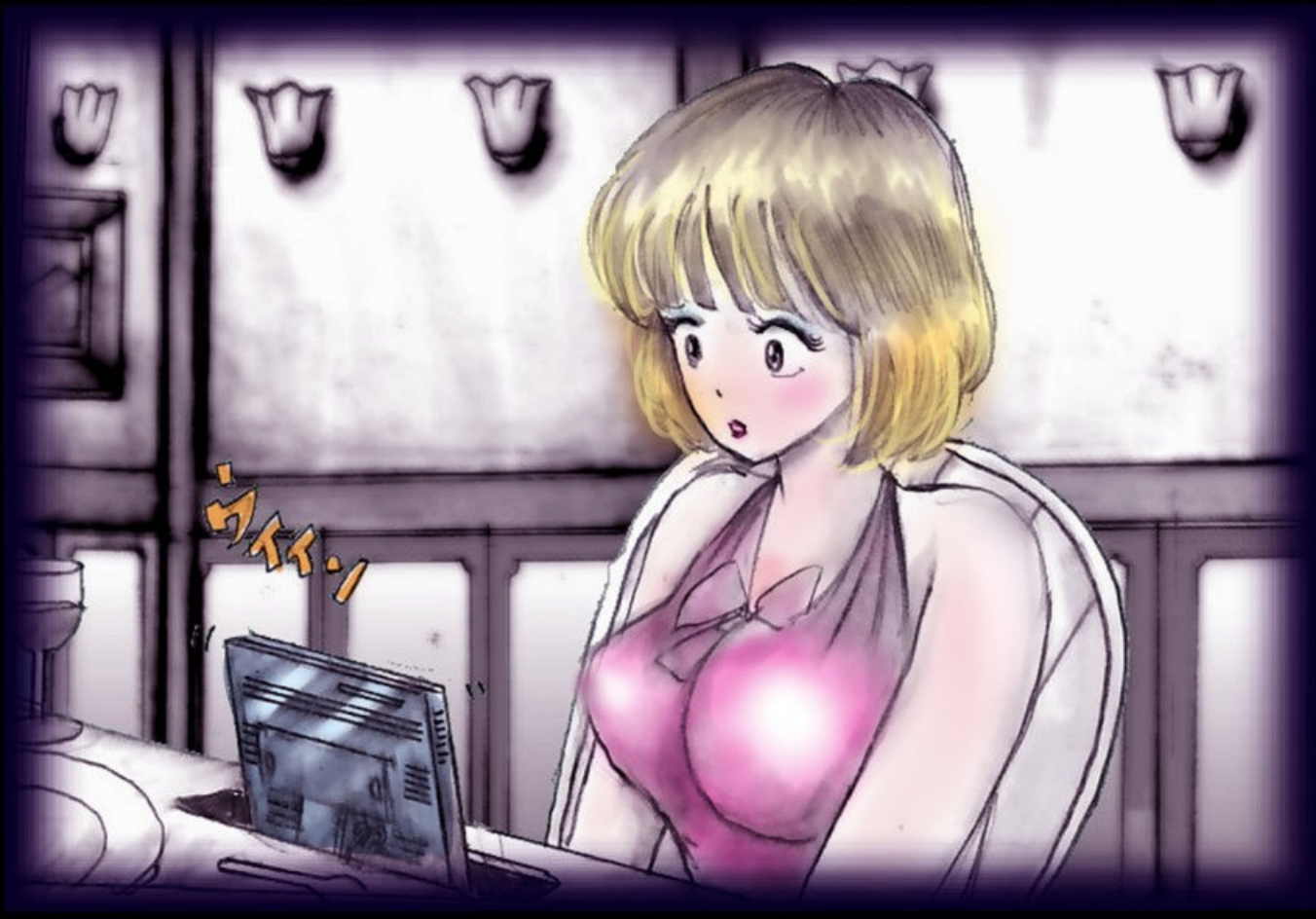




うふ、まっいいわ。

えっとね、真子のおかげで
特警の全データ、
入手できたの。

その中で
おもしろい映像が
あったの。
見る？



ウーン！

特警第四小隊の
待機事務室監視カメラの
映像よ、なつかしいぞ、



真子ちゃんのお
調べてみるみたいよ。

お！

何か入ってるぞ？

なんだ？



小隊長の机中、
何入ってた？

化粧の…
コンパクト

パカ



うわ化粧臭くっせー！



監

違う、そんなの、あたし
入れてない！

おいパンスト
入ってる！

香水も

わあくっせー！

おい女物の下着も入ってるぞ
フリフリの...
くっせ、香水くっせー！



ち、ちがうわ

あたしの
じゃない！！

おい...
化粧おー千
入ったぞ、
隊長の引出し
に！！

女物のハニカキ
ラァクッセ、
香水の臭い！！



違う！
誰かが
入れたの！

ちから

こっへーこれ
口紅ふいた、
メイクもどせ
まじかよ！！

おい、もしかして…
小隊長、女装の
シミュあったのか…
お、写真！！
っお！！

そんなの
あたしのじゃ
ない！違うわ！

た4+

とことこ、真子
ちゃんの素敵な写真、
本部4階の掲示板に
貼り出してただよ。
見るう？

サカキ！
4階モニター
映して。

syers

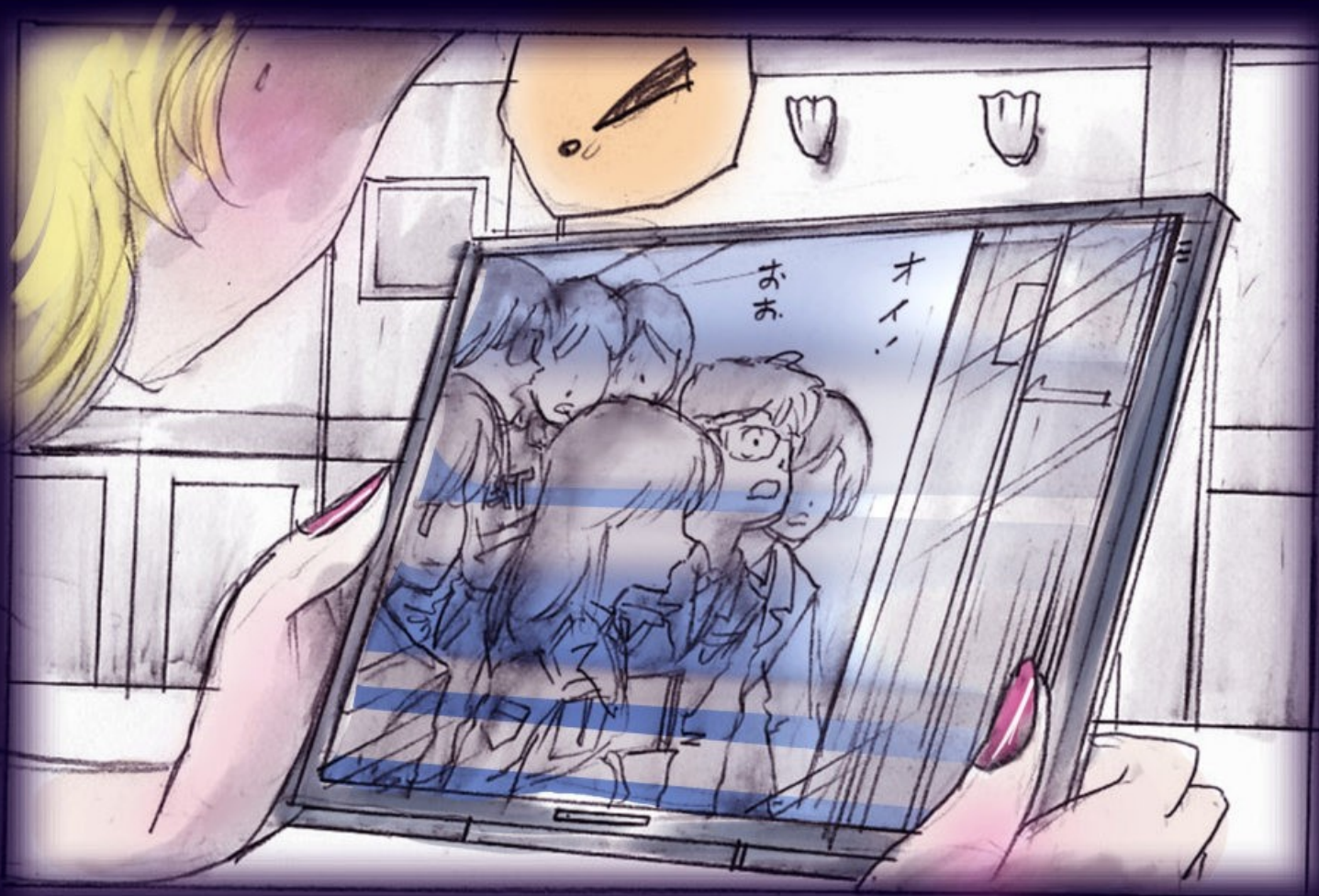
「yes sir!」

隠しマイクを通じてどこからか
榊三佐の声が聞こえた。

真人のモニターが特警本部四階掲示 板モニターに切り替わる…
真人の使用した回線から侵入させたミルダたちのプログラムは、
すでに特警本部内のあらゆる情報工作を可能にしていた…

ブオン

真人が見ていたモニターの映像がSAT本部4階の掲示板前
を映し出した



やがてモニターは、真人の職場の人たちが群がる掲示板に貼られた
幾枚もの写真の一枚をアップする。

そこには真人にとって予想だにしない己の姿がさらけ出されていた。

掲示板には真人の
女装趣味の写真がこれでもかと
貼りだされていた



男 募集集中

ちゅわ
ね

女子にしたい
特警の真人隊長です

おい特警の隊長
おかまだったんだ、

やだ、
サイテー

きつもー!

思っ
腕

こ
こ



カニパイ！

職場でカミングアウト、しちやたね

わかりきっていた。
ミルダたちの仕業だった。
写真の捏造も所持品の仕込みも…

しかし職場の職員を騙すには
十分な仕掛けだった。



ちがうの…
あたし…

女の格好なんて…
したくないの…

女装したくて
敵前逃したって！

直人隊長でしょ
これ、彼
ごんを趣味だ
のミミ

悔しい。これはウソだと仲間たちに叫びたい…

しかし…

実際には真人の見た目はもう胸には豊かな女の胸が形成され、
髪型も口調も仕草も、女性らしくされ、女そのものだった…
あまつさえ、男の前では 戸口に股を擦り興奮してしまう落ちぶれようだ。

もうこんな成りで、同僚の前で叫んでも、まったく説得力がない
身体にされてしまった…



いや、真人を信じる男が、ひとり、まだいた。



そして彼を監視する視線もあった。

ミルダ特務隊
コードネーム ナオコ



真子さま
今夜は可愛くパーマを掛けて差し上げます

くるんくるんの
可愛い乙女ヘアーに
なりましようね、
隊長！



カチャ…カチャ…

メイドは手際よく真人の髪にカーラーを巻いていく。

今日は可愛らしくパーマを掛けられるのだ。

男なのに……

ふと…
メイドは顔を寄せ耳元で呟いた。

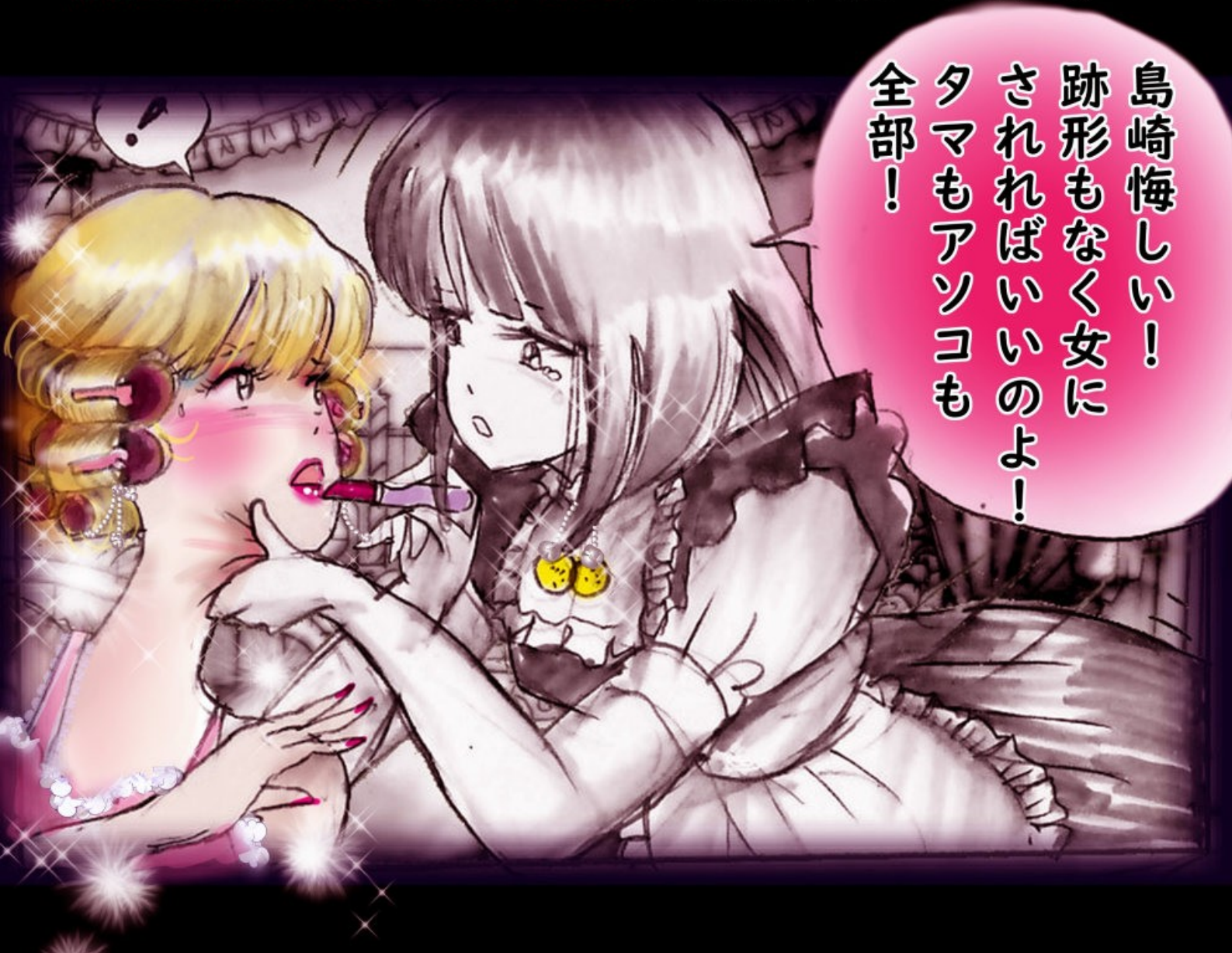


第三小隊
突撃班
島崎です。
お綺麗になり
嬉しいです。
隊長

己にされた処置を思い起こしたのだろう……

かつての上官と認知しながらも、あまりにも美しく変貌しつつある隊長に複雑な感情が絡みはじめ、

「わたしより女に墮としてしまいたい」という欲情が湧いてきていた。



島崎悔しい！
跡形もなく女に
されればいいのよ！
タマもアソコも
全部！

そして 島崎はついに 真子に**禁断のルージュ**を彼女の唇に塗ってしまった

別名「魔薬化粧」

あん...

一度塗ったら一生辞めれない
禁断の魔薬ルージュ

ぐゅ.....

島崎は抑えきれない
感情で思わず
真子の唇を奪った...

あんぐ...



己の唇で真子に二度と辞めれない魔薬入りルージュを
塗りたい、
真子も何故か抵抗しない....
そう真子もすでに禁断のルージュの虜にされつつあったのだ....

ぐゅぐゅぐゅぐゅ...

2人のルージュの塗り合いが続く...



女となった元部下の島崎の濃厚なキッス

塗りたくられていく魔薬ルージュ

官能的な交わりに真子は
もう……

もう、女でいい……

そう思い始めていた……



ディープキスの余韻無を残し島崎は部屋を去っていった。

真子に巻いたパーマロットを放置したまま。

仕方なく寢床につこうと思いだめた時
真子に猛烈な枯渇感が襲う



塗りたい

塗りたい
塗りたい
塗りたい

なに!?
これ!?

唇をあのルージュで真っ赤に
塗りたい!
いや唇だけじゃない
お化粧したい
顔中お化粧塗りたい!
塗りたくりたい塗りたくりたい





先日、うっかり試してみた時とはまったく異なる感覚だ。
島崎の唇から塗りこまれてからその症状は劇的に悪化した。

猛烈な枯渇感。
呼吸困難。
全身の震え....

真人はその症状と似た薬物を知っていた。
麻薬類の禁断症状だ。

**真人は一生化粧していかないといけない
身体にされてしまっていた。**

ぬちよ、ちゅば、ちゅんば、ちゅんば

静かな部屋に 化粧を塗りたい音だけが響く。
女らしく巻かれたカールがカチャカチャと揺らしながら、

今、真人の中の「男」が消失しようとしていた……

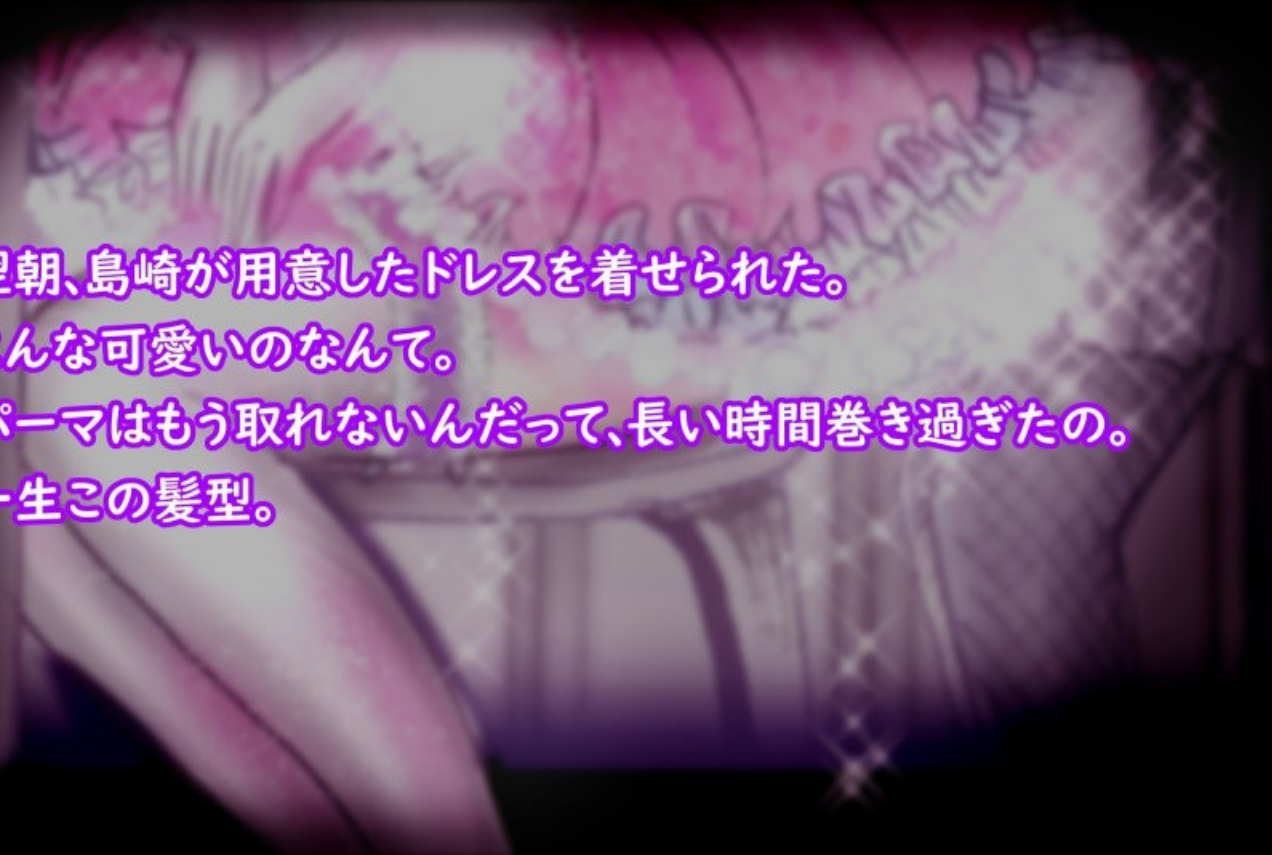


もう真人は生涯化粧しないと生きていけない…
しかも薄化粧なんて許されない。
ケバいケバい濃厚メイクをしないと耐えられない
身体になってしまった……


ちゅば あん ちゅんば ちゅんば ちゅんば ちゅんば
ぬちよ ちゅんば ちゅんば ちゅんば ちゅんば
あ、ちゅんば、ちゅんば、ちゅんば、ちゅんば、ちゅんば
あたし、いや、こんなの、ちゅんば、止め、ちゅんば

睾丸摘出

もう戻れないんだわ、特警にも、男にも、……



翌朝、島崎が用意したドレスを着せられた。
こんな可愛いなんて。
パーマはもう取れないんだって、長い時間巻き過ぎたの。
一生この髪型。



メイクは…
メイクは、あたしがしたの。

嫌なのに、無我夢中で…
濃いすぎるわ!もう、いや!

臭いし! 化粧臭い、鼻が曲がりそう!
これも一生続くの……

あたしは特警第四小隊
隊長だった…
男だったのに…
姿も仕草も
みんな女! 女、女、女!…





化粧臭いわよ

どーしちゃった
のお真子ちゃん。
自分で化粧し
ちゃってええ。



違うの

身体が！

身体が我慢でき
なくなっちゃったの
お化粧しないと
苦しいの！

ぷん

ぷん

ぷん ぷん

ぷん

ぷん

へんたい

違うわ!

ぷわ


女になん
かならな
いわ!

ぷりりん
ぷりん

元部下として
恥しいから
そんなの
履かないで
ください。

隊長お
イチゴの
パンツ丸見え
ですわ。

違う!!
これはあなたが
無理やり胸揉み
ながら履かせて
あたし……
つい……



そんなに
女の子に
なりたいのね

じゃあ...

アソコ

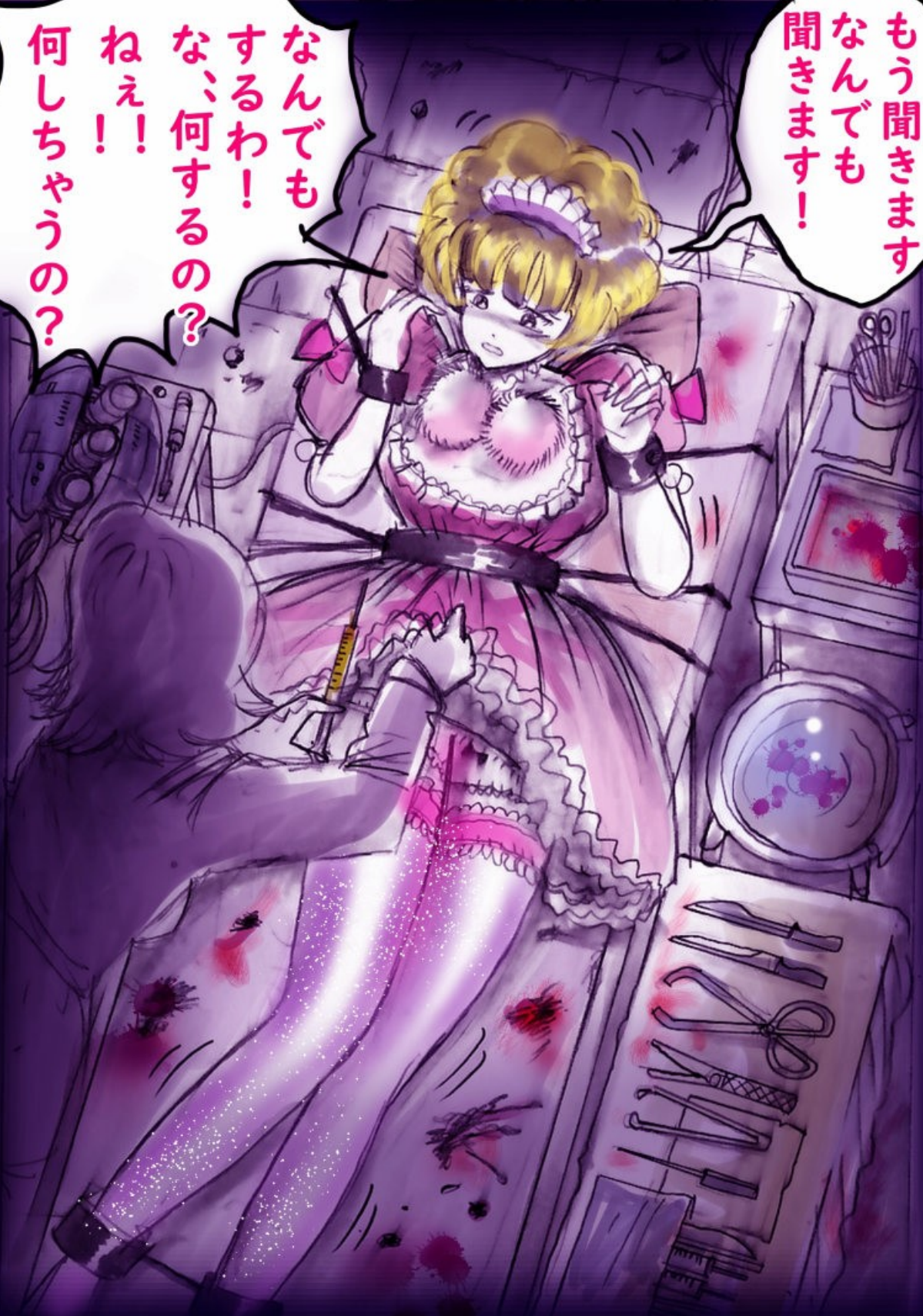
全部取って
花びらに
してアゲル
♡

ミルダ邸
オへ室

もう聞きます
なんでも
聞きます！

なんでも
するわ！
な、何するの？
ねえ！
何しちゃうの？

冷たいコンクリートの壁に囲まれた部屋にある
血の跡がついた手術台に乗せられ、
真子は身の上にかかる恐怖を悟った。そして懇願した。



玉抜いて

女の子の
お花咲かせて
あげる

わや
わや

わ
わ

おちんちん
麻酔するわね

まは
ずは
玉ぬ
がいて
アゲル
♡

フフフ...

フフフ...

カッ
カッ
カッ

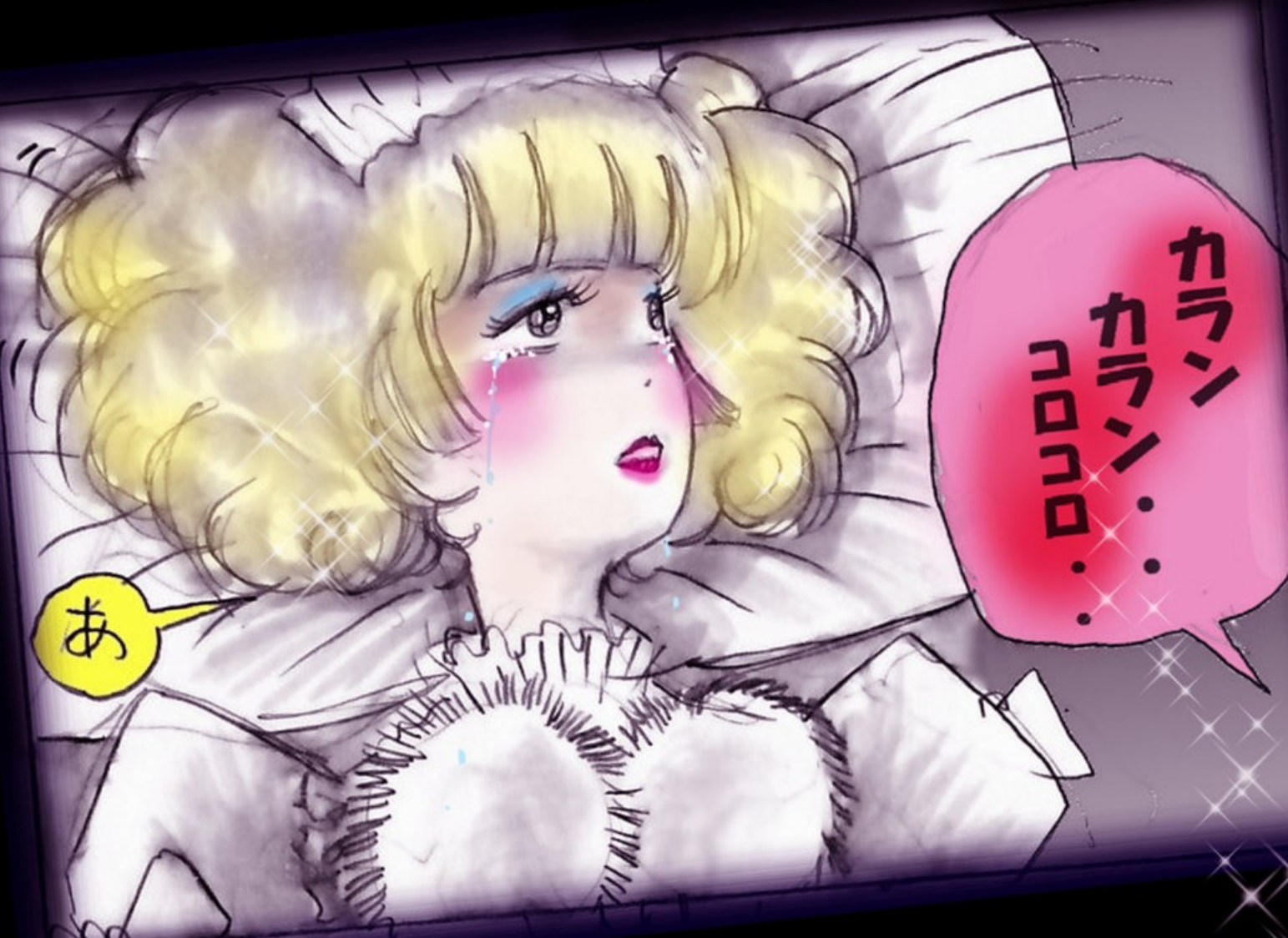
カッ
カッ
カッ

ほんとの
女の子になっちゃう...



ふん!

あ……

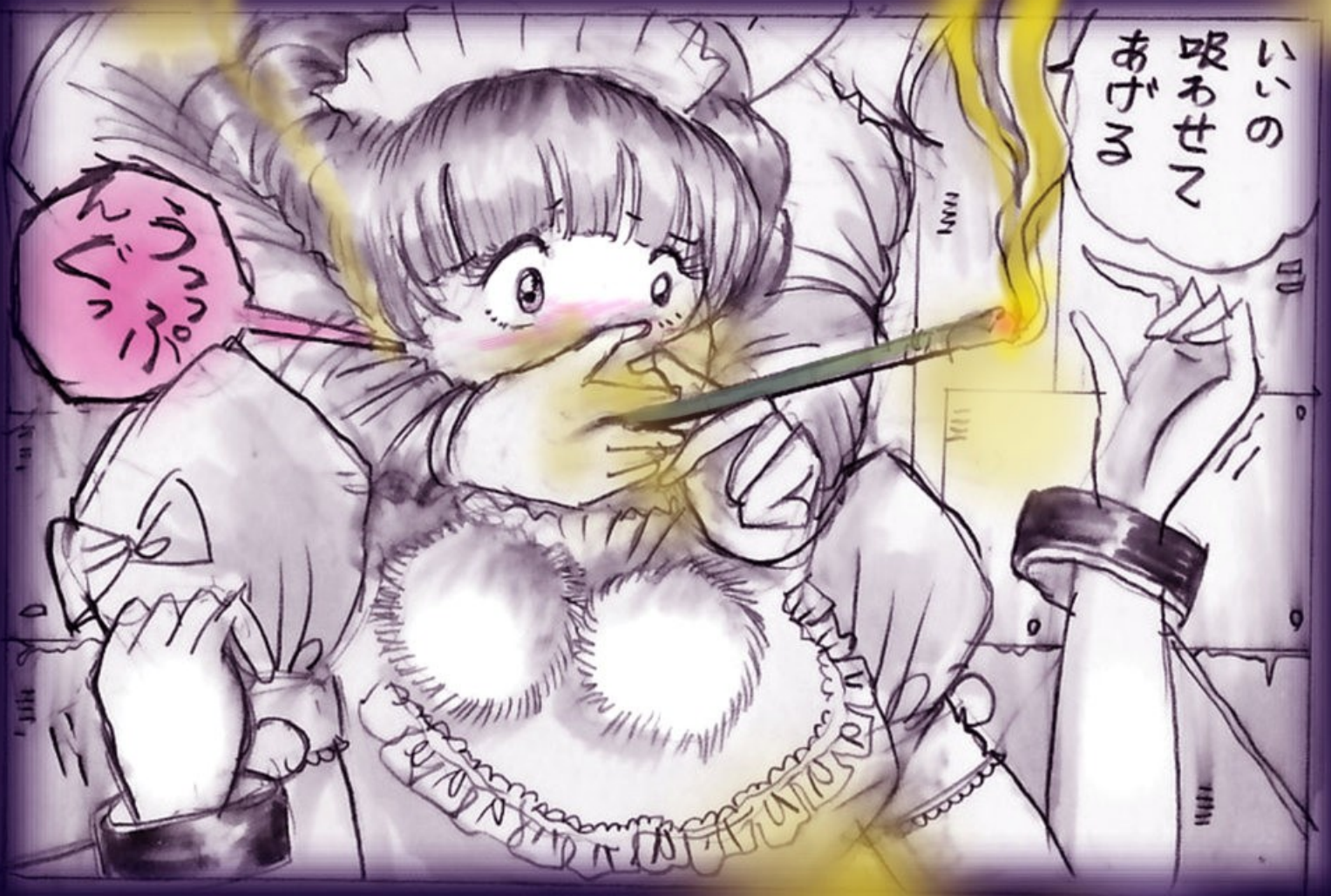


あ

カラシ
カラシ……
コロコロ……

それは、あまりにも虚しい音。 真人は今 真子になったのである。

イイもの吸わせてあげる



いいの
吸わせて
あげよう

煙草よ。
心がね、物凄く厭らしい女性の気分になれるんだって

次の手術はね真子ちゃんのアソコ男取って女の子の花びら
付けてあげるからちょっと痛いの。

でもこの煙吸うとね、凄く気分紛れるからね。

どう?

女の子の気分になって来た? それも厭らしい..



哀れだった…、あまりにも。

タマを抜かれ、男性のシンボルも切除されようとしている
現実を拒否しようとする自我を残したまま、
煙により女の身体になるためのメスを喜んで受け入れる
快楽に脳内を支配されてしまった真人。

やがて効能どおり真人にの心理に
強烈な女性化願望が訪れる…

下も
おほいも
女の子に
してえ

してえ

こんなことしたくないのに
こんなことしたくないのに
こんなことしたくないのに



不本意なのに、薬で女になることをせがんでしまう真人。

それを知って、ミルダはわざと真人を罵る。

「情けない男ねえ」

じゃ全部切って女のお花埋め込んであげる

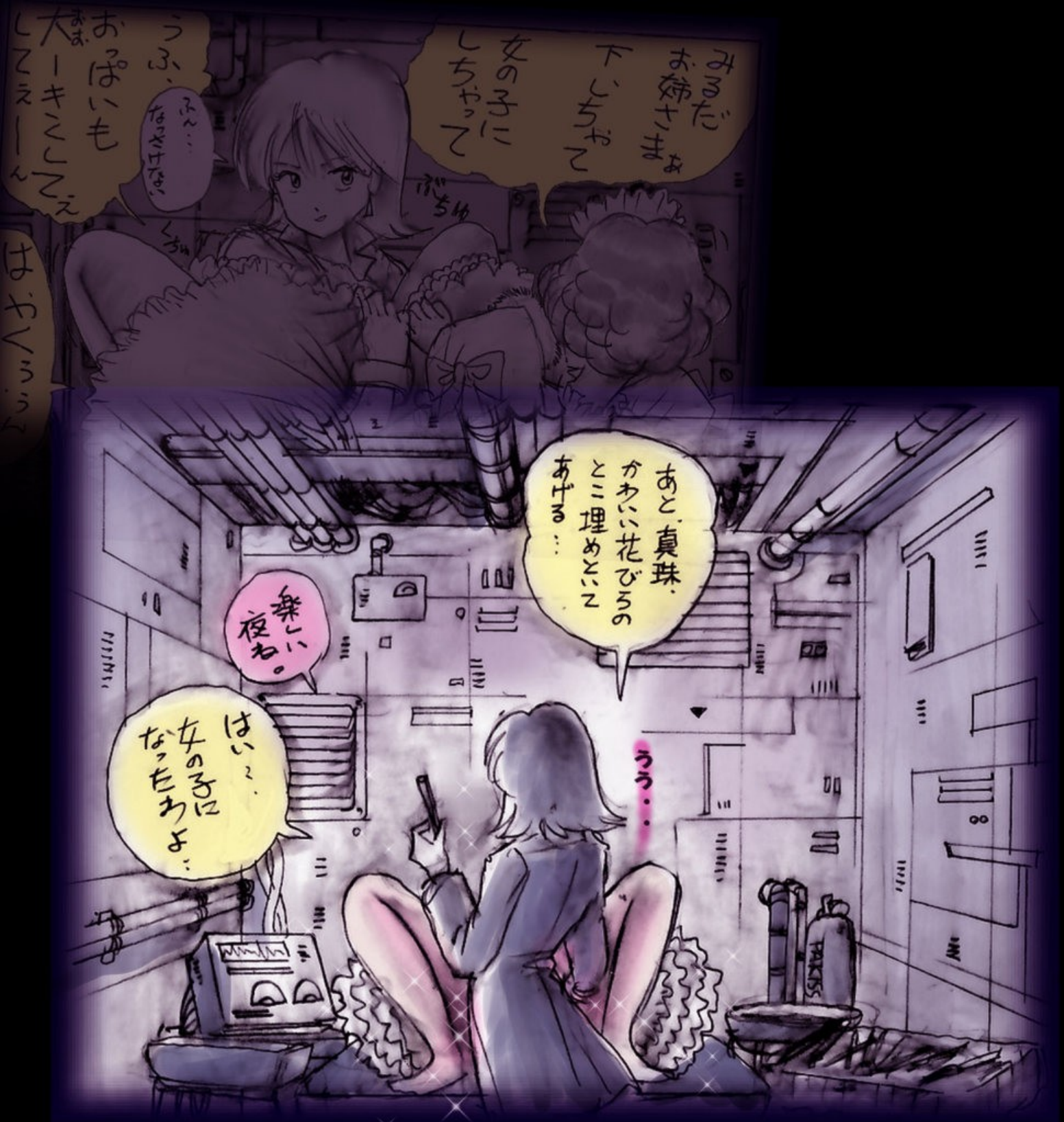


情けない
男ねえ

ふん、

ねえ
早くう

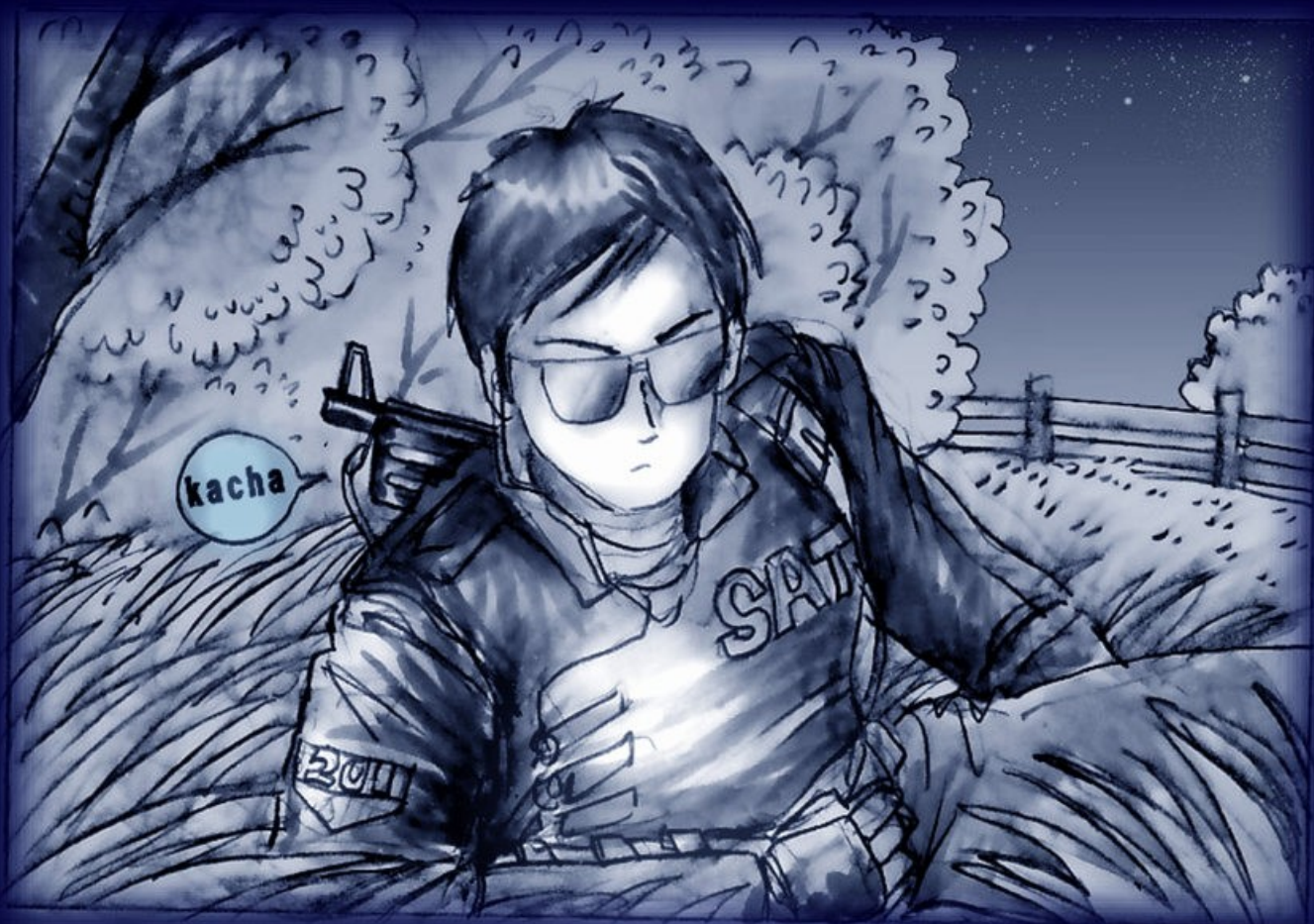
女にしてえ

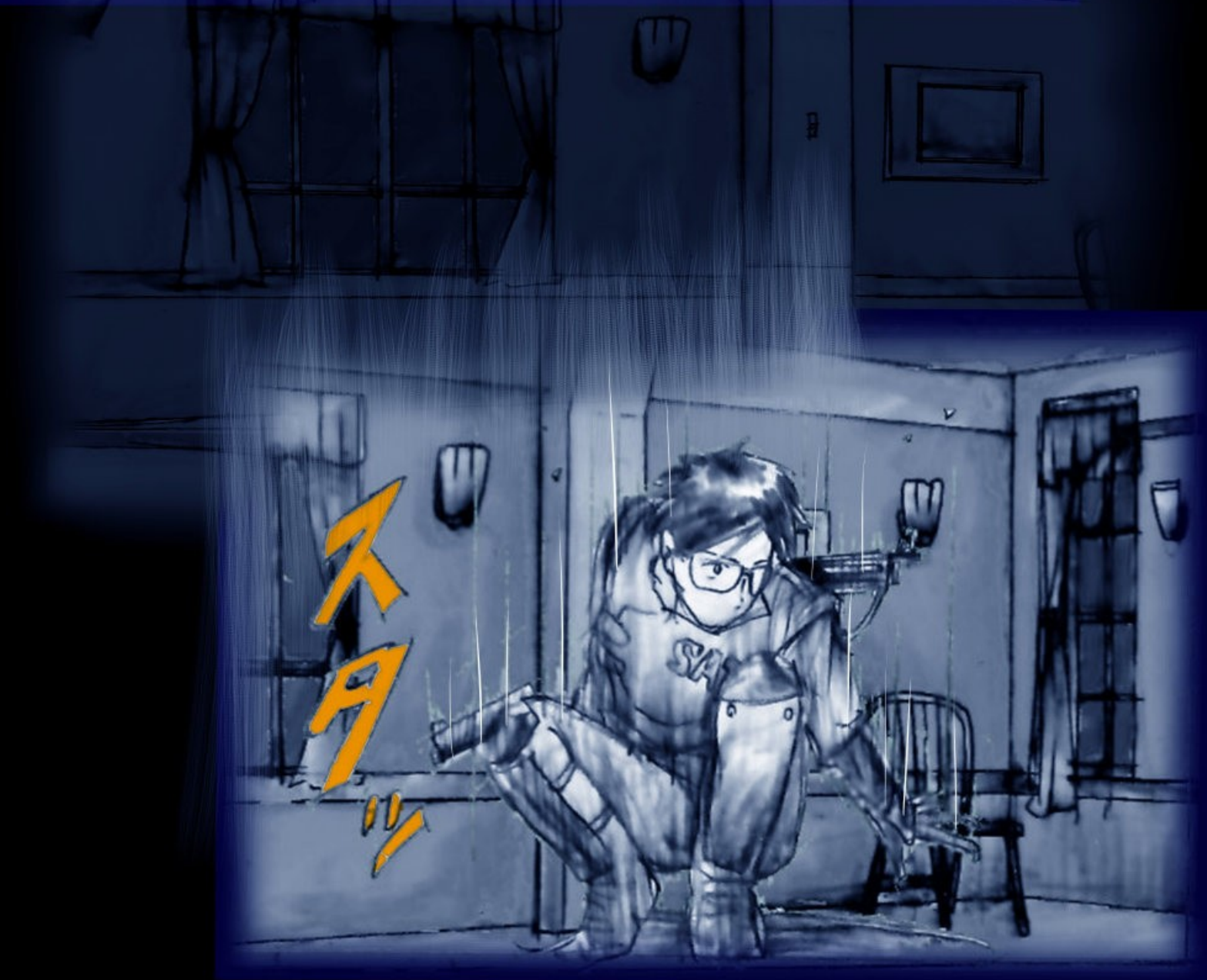
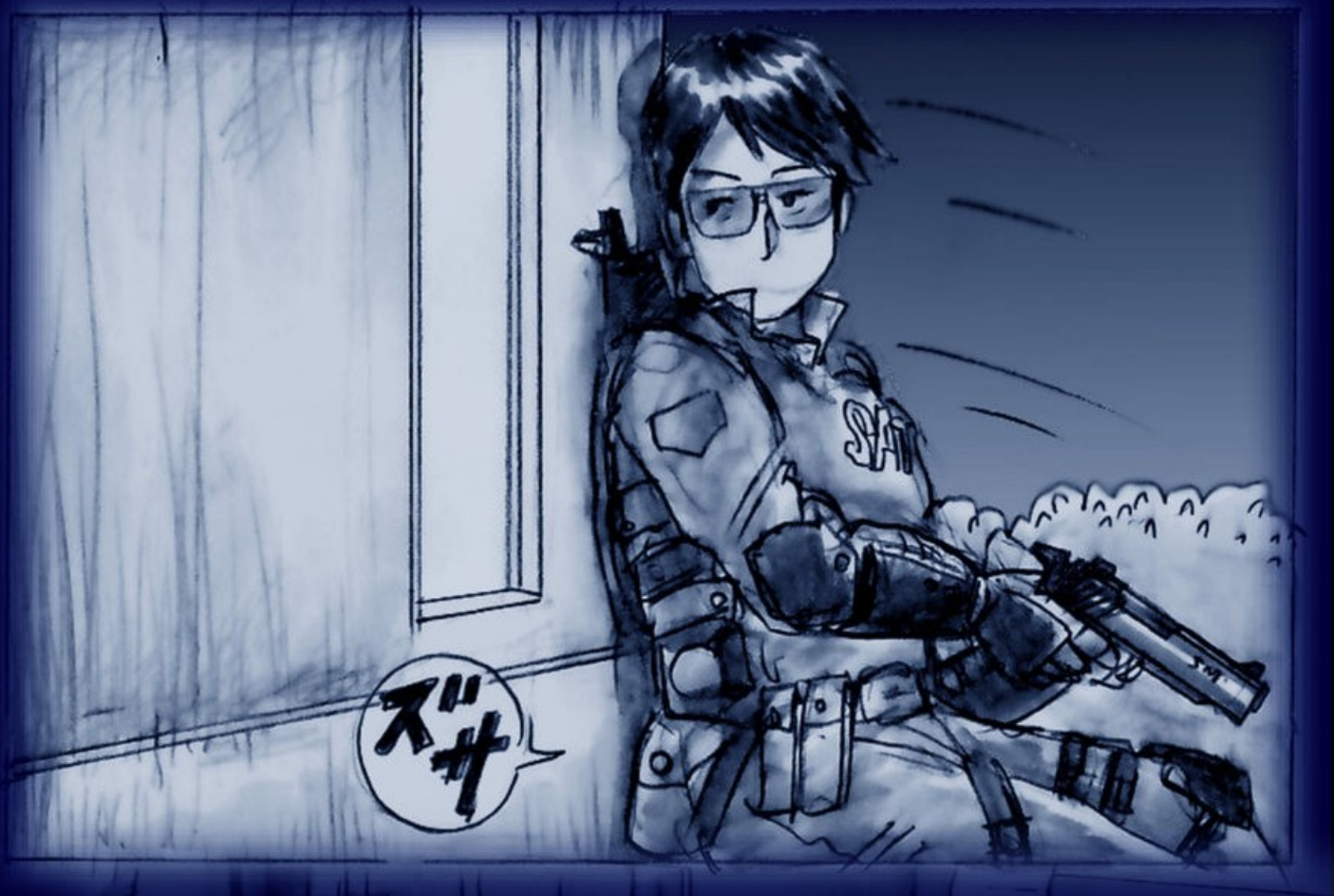


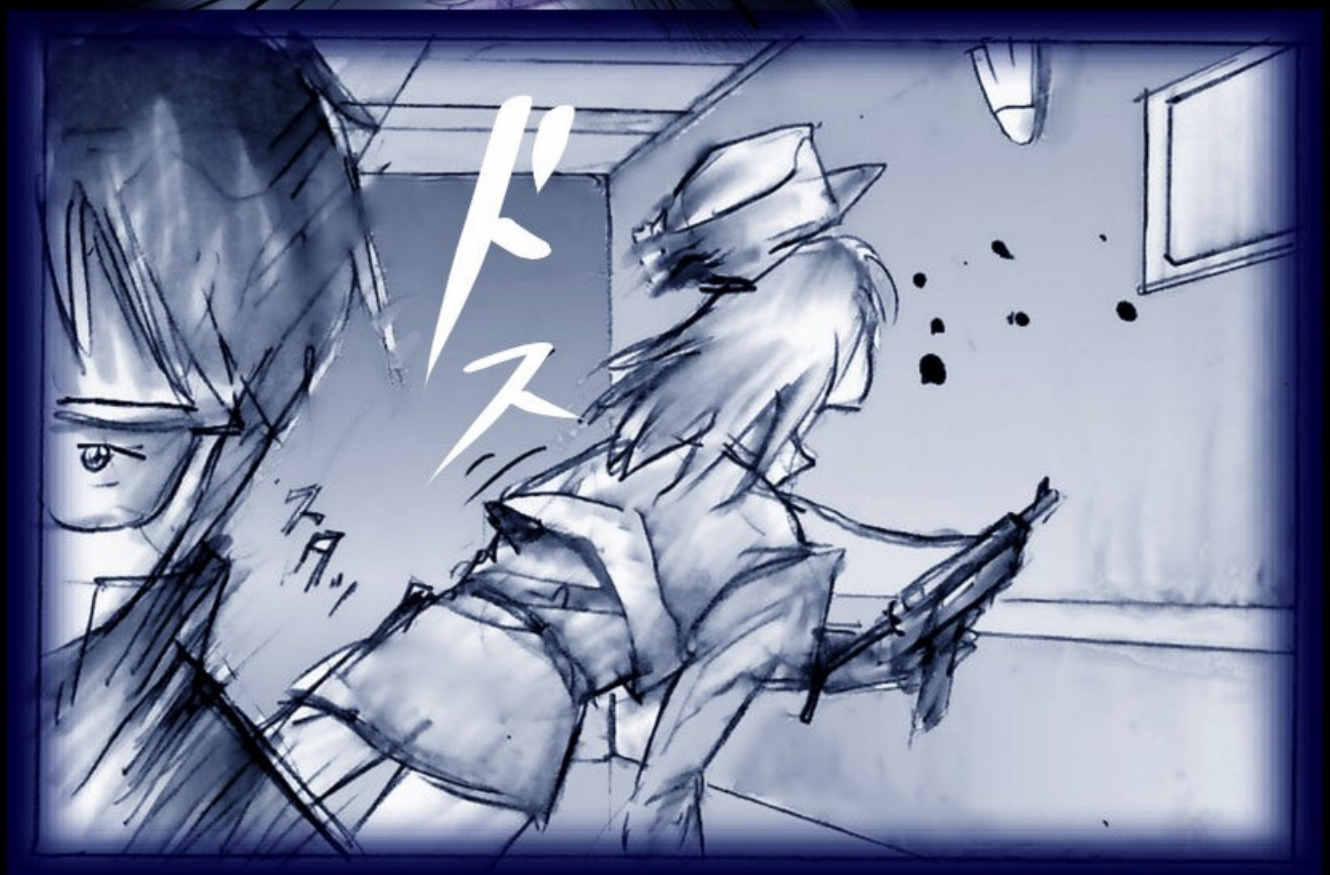
...こうして 女 真子は完成した。

手術台には男性そのものを切除され女性の割れ目を埋め込まれた「真子」がいた。

もう男にはもどれない。
真人は悔しかった、悲しかった...
真子は涙が止まらなかった。











ちやうどのよ、
あたし...
お、お化粧なして
してないわよ...
髪もちやうどの
ちよん
だけ

ちよんちよん
女の子みたいにし
てはダメです...

SAI



ちよんちよんだけ
女の子みたいだけど
違うの。
髪も伸ばされたの

耳のイヤリングは
ただの玉よ、ただの...
うっ...

違うの
女っぽくない。
あたし男
でしょ？
ね、
真田！ね、



いやだったのー
女みたい
だからあー



真田
あー
あー

わあーん

女にやめたのー

女にやめたのー

あー



やっぱり：
真人なんだな



しかし：
おまえ…その
仕打ち…



さなだ…



さなだ...
あ、たし...

もど

じゃあ

もど



ええ...

しん...



キ...ス...

いや! あたし何言ってるの?
でも、男の声に興奮しちゃう...
したい、したい、男としたい!

しんほ...

ほお

ほお

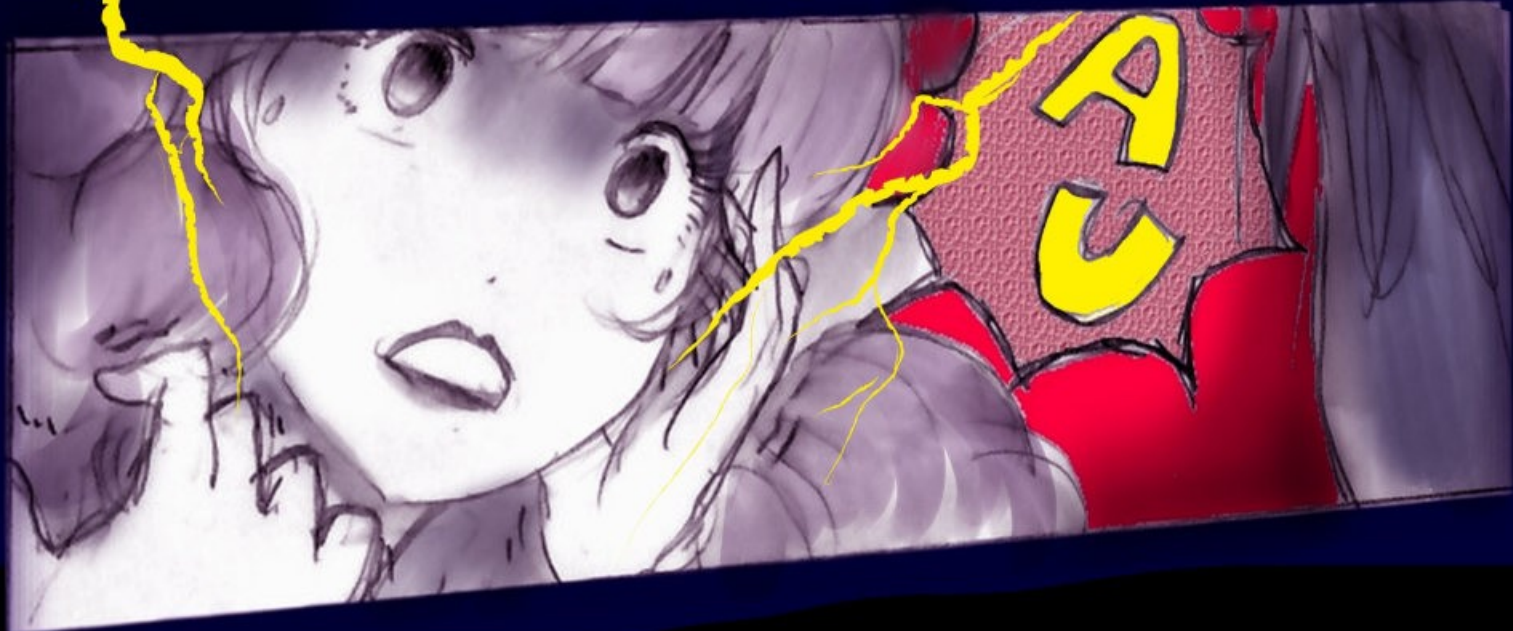
アキ



いや…いやいや！
真田の前で
キスなんて…
あたし…男なのに……

真人、おまえ、…

そんなに女にされて…どれだけ辛かったんだ。





あ、あなたなんて化粧臭いわ
あたし化粧臭いわ
男なのにいい
うううううう
さな、
見ないで！
やだ、男なのに……
いやいや！
真田の前で化粧しちゃってる！
しなないと苦しいの
息が出来ないの！
ぱん、ぱん、ぱん、ぱん！
のぱん、ぱん、ぱん、ぱん！
ぱん、ぱん、ぱん、ぱん！

真人は情けなかった……

どうして真田の前で化粧パフを大きな音を立てながら

己の顔を叩かなければならないのか…

あたひい
もう、だめなの
ここで化粧よ
しないで...

だめな体
に
さねひがたの...

うううう

は、

は、

きゅ

きゅ

男なのに...



こい。
俺たちが
治してやる。



さなだ.....
まってぬ、今
仕度するから

かや

真子がいそいそと身支度をしようとしていたその時、
ドアに人の気配がする。

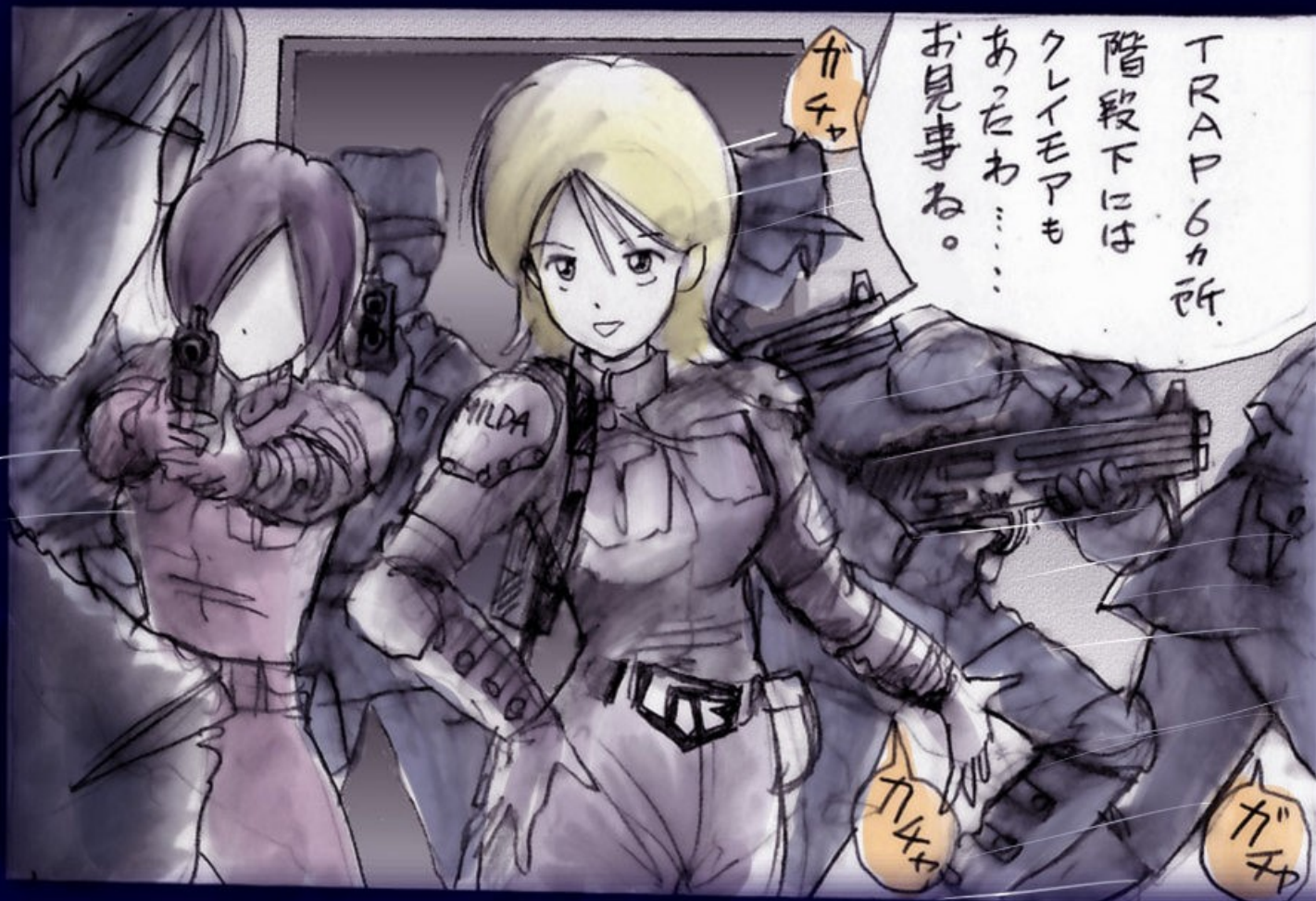


タイムアウト! 侵入者さん。

お楽しみ中ごめんなさい。
邪魔して悪いけど、そろそろ時間よ。



いつから居たのか、部屋の入りに完全武装したミルダ達が居た。



ミルダ邸には並の戦闘員では突破できない軍用トラップを仕掛けていたのだ。それを難なくクリアして侵入した真田。

と、その時 真田の視界に瞬時に入る人影があった。





あーちらら、
キツスマ、
しちぎた。、
こんな時に



我隊にも、とくに
と配を消すのが
得意な部下も
いるの……

ぶん



ねえ島崎

くく

でも……
玉ぬいて
お化粧する
よーになっから
ちよと遅くなった
かな？



おまえが…
突撃隊の
島崎？…



お口のルビシユ、
達悪いあよあ

さあ真田、
どーするこ、
部屋は敵で
ハッパい…



真子ちゃんほど
強烈じゃないけど…
そのうち…
恋しくなるあよ…
お化粧が…



すまん、
真ん。



出直す。

おまえを

解放する

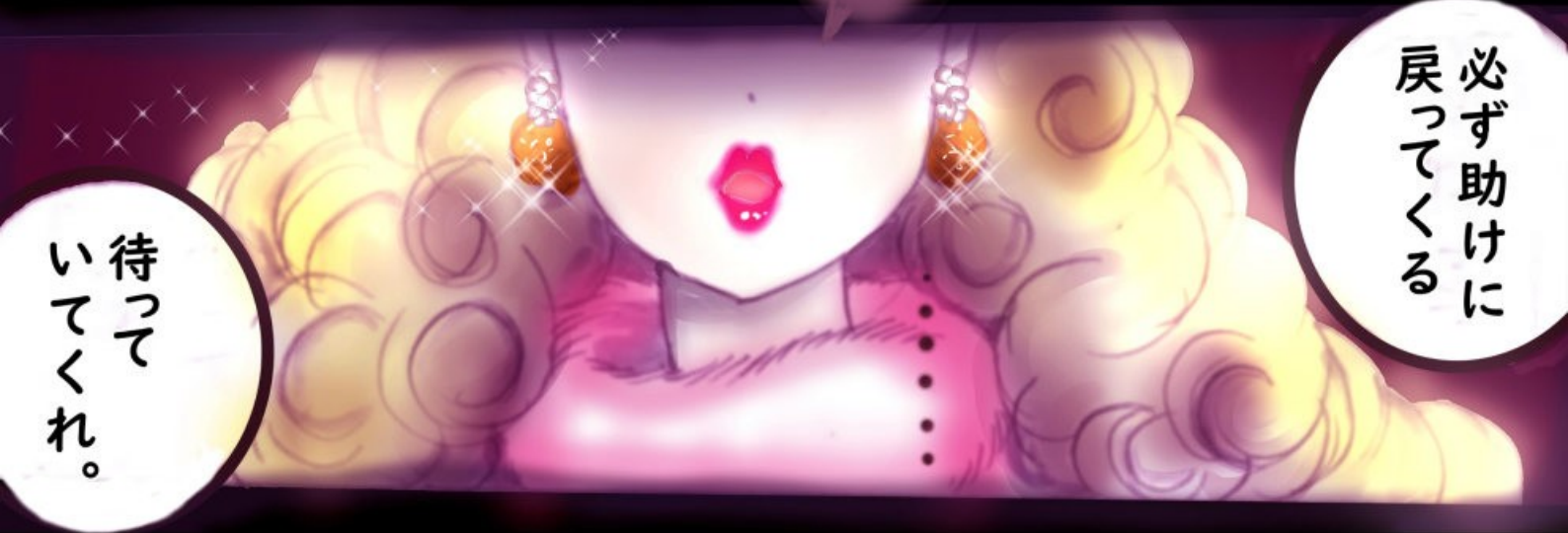
方法を

開発し

必ず

おまえを

助ける…



必ず助けに
戻ってくる

待って
いてくれ。



うん、
待ってね。

M
84
伏せろ
を使う





ブイーン

ブイーン!



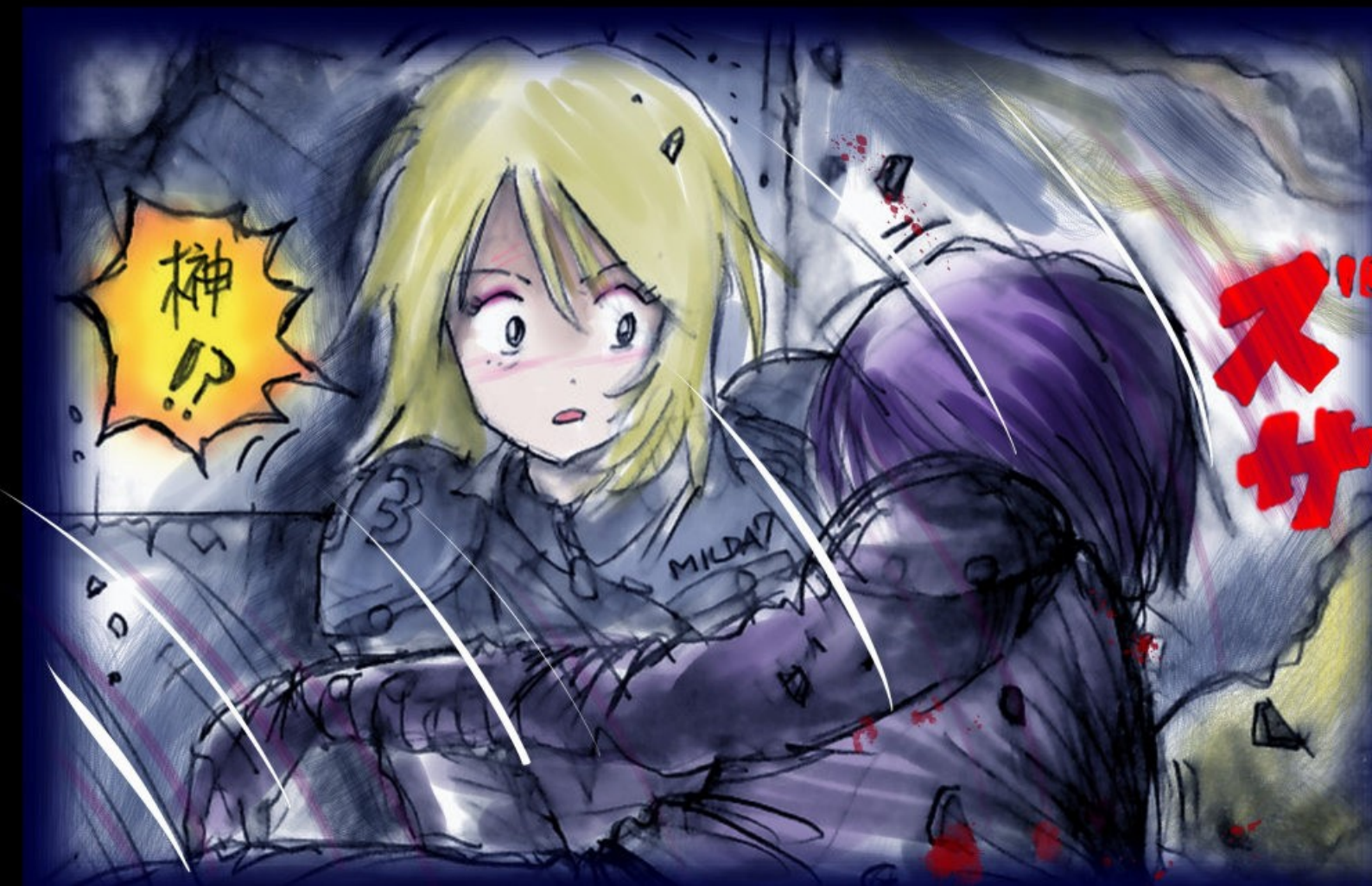
京レの
光学迷彩?

あなた
陸自なの?

カキヤ

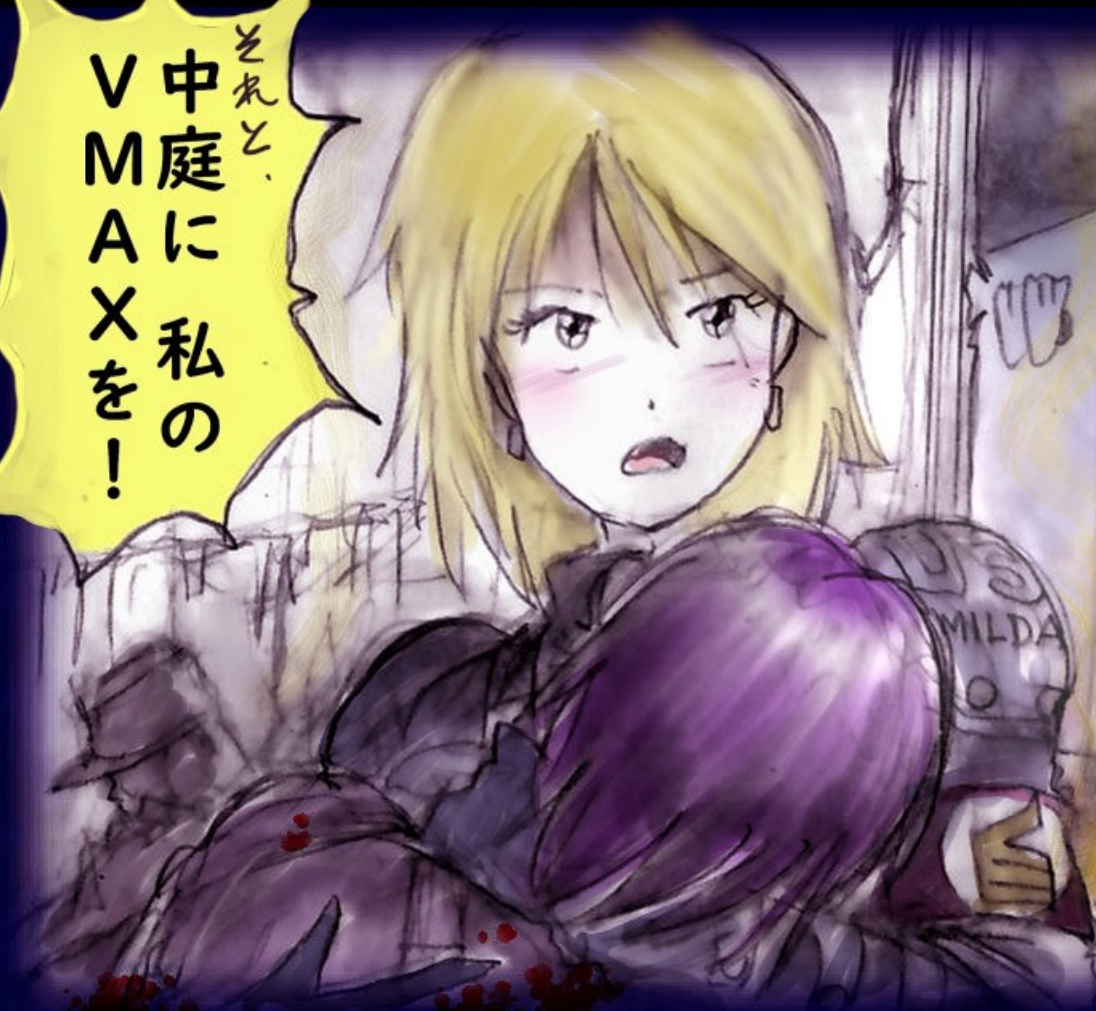








それと、
中庭に私の
VMAXを!



医療班!
こっちだ!



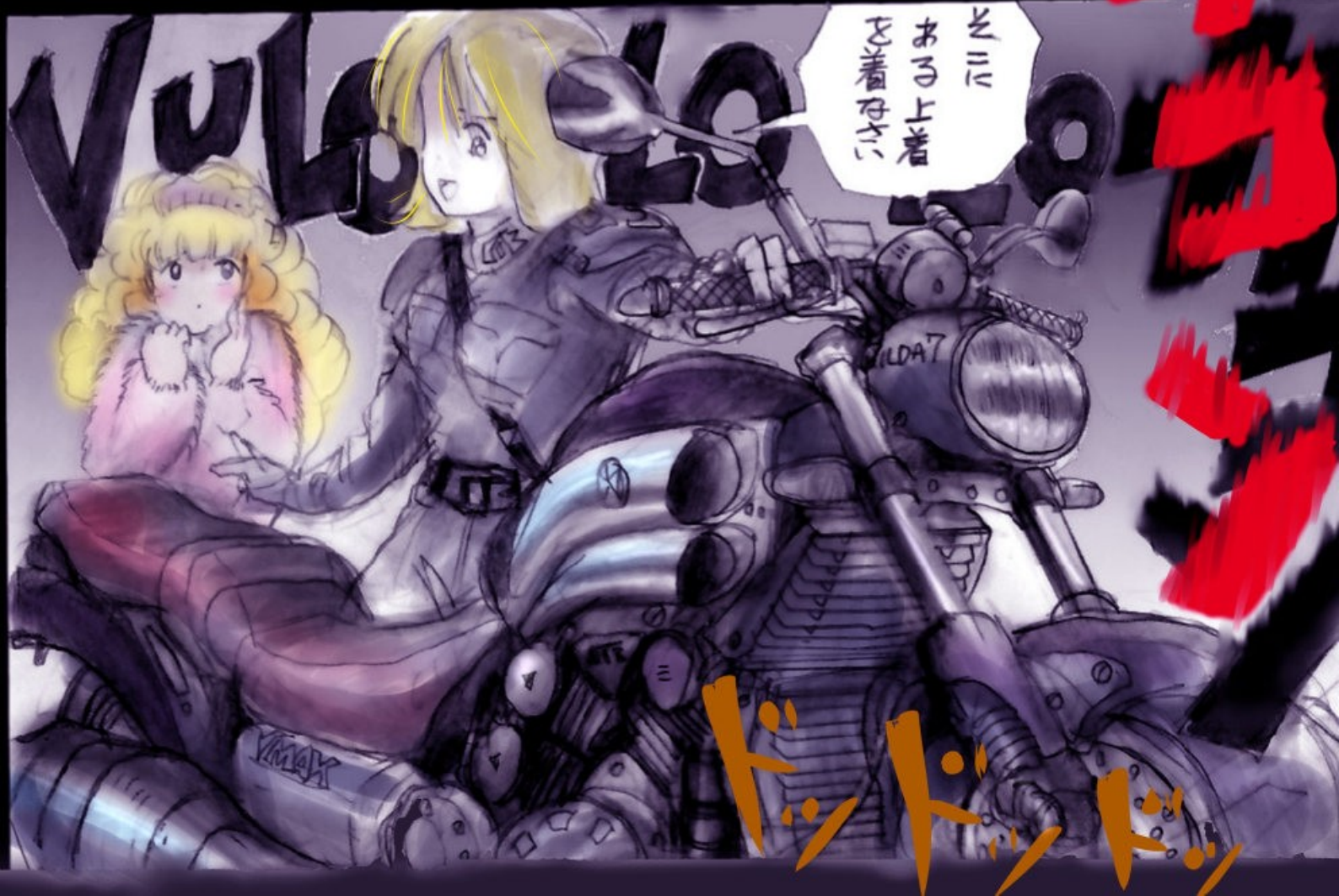
ジャリ、ジャリ…

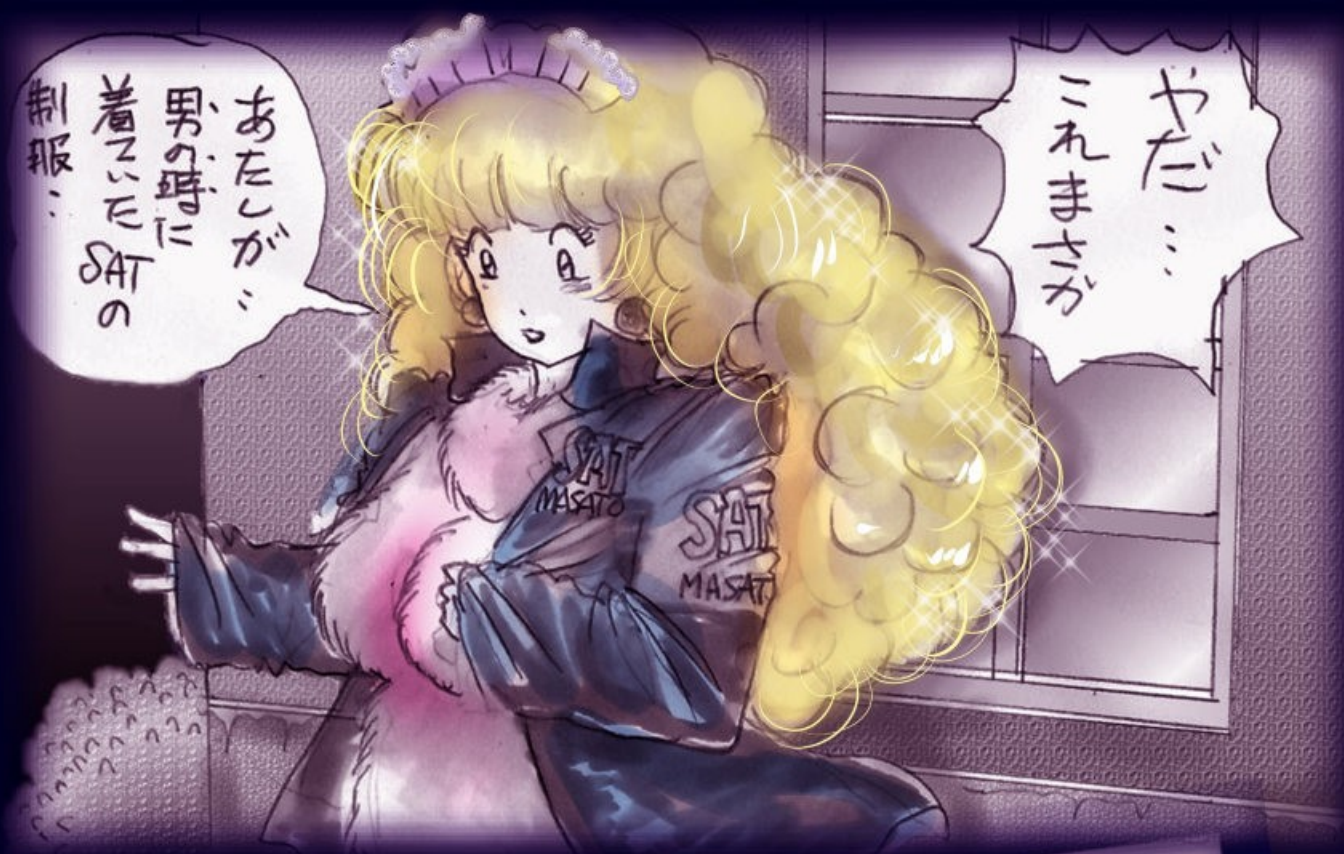
飛び散ったガラスの破片を踏みつぶしながら
ミルダは家具の陰に隠れていた真子に近づいて行った。



ミルダの口調は荒かった…

怒・ミルダ





あたしが、
男の時に
着ていた
SATの
制服！

やだ！
これまさか



やだ！
胸で
閉まらないわ

やだ。
胸で
閉まらない

ううう

どーしてのー！
ホタニごろうい
閉めたらあ？

ミルダは分かって、男の時の服を着せようとしていた。しかし巨乳の女には無理だった。ミルダの嫌がらせである...



女にされた身体を、SATの部下たちに見せろと言う。
しかも下半身は何も付けずに……

こんな髪で
みんなになろう
なんて……

いやです
絶対いやです
いやです

真子

そんな命令、受け入れられるわけなかった。

真子は懸命に拒否した。

しかし……



ミルダの凄まじい気迫。

怒っていたのだ、榊をやられたことに。

思わず地面へとへたり込む真子。
そして不本意に履かされてる女物の下着を
仕方なく脱ぐのだった……

情けなかった……



女にされて
履かされた下着を
部下に見せるために

自ら脱ぐ……

その生暖かい下着からは
熟した女の匂いしかなかった……



ポテッ

真人は力なく
自ら脱いだ女物のパンティ
を傍に脱ぎ捨てた。

男だった真人が
不本意に履かされていた
敗北感まみれの
生暖かい
女物のパンティ、



真人は今、できたばかりの女の下半身を外の空気に晒していた。

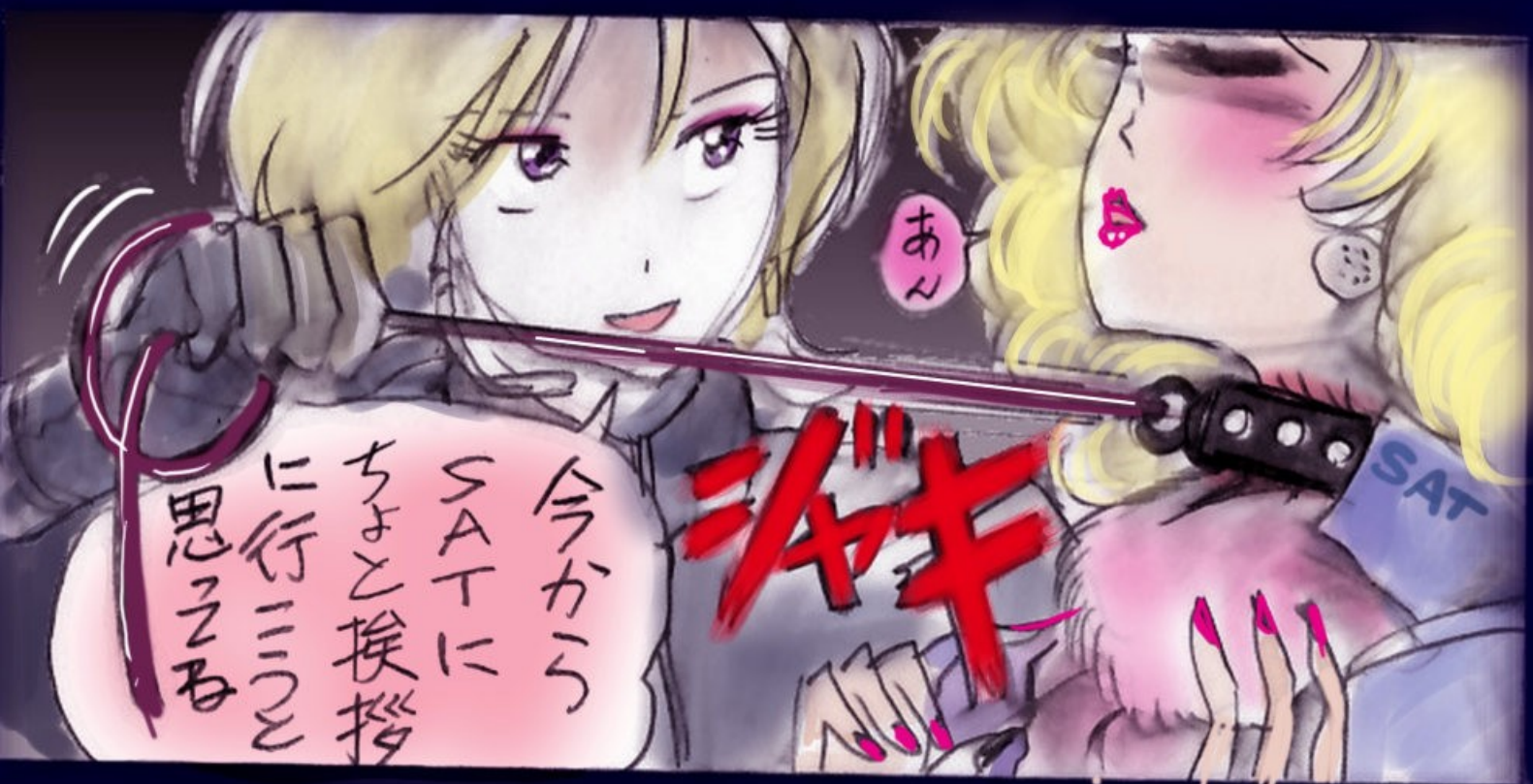
出来たばかりの秘部。
真子となった真人は放心状態だった……

それらをまったく意に介せずミルダは「K」を無線で呼び出す。



今すぐあたしの
端末にアクセスして
して、SAT本部の
セキュリティシステム
に侵入してほしいの

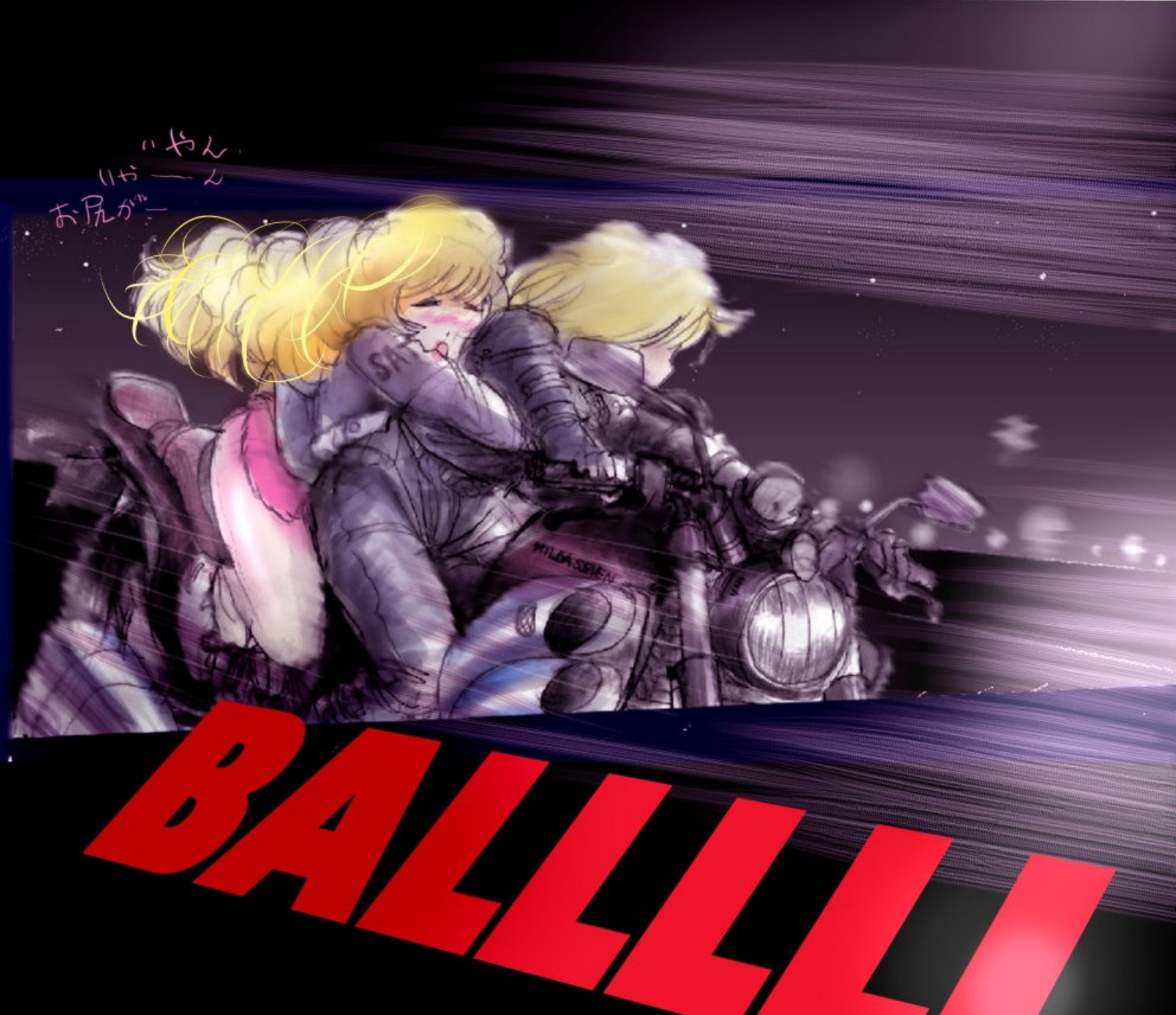
メスクリン特務隊 特殊科学担当 K

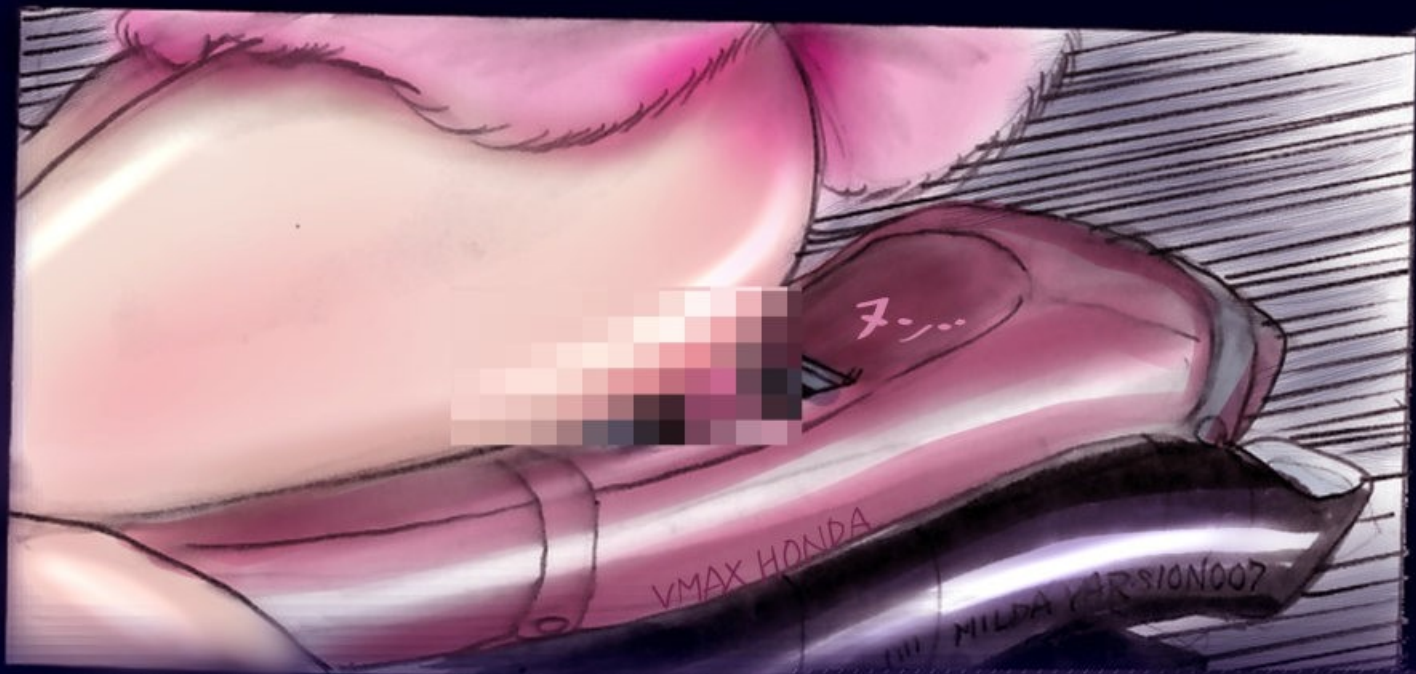
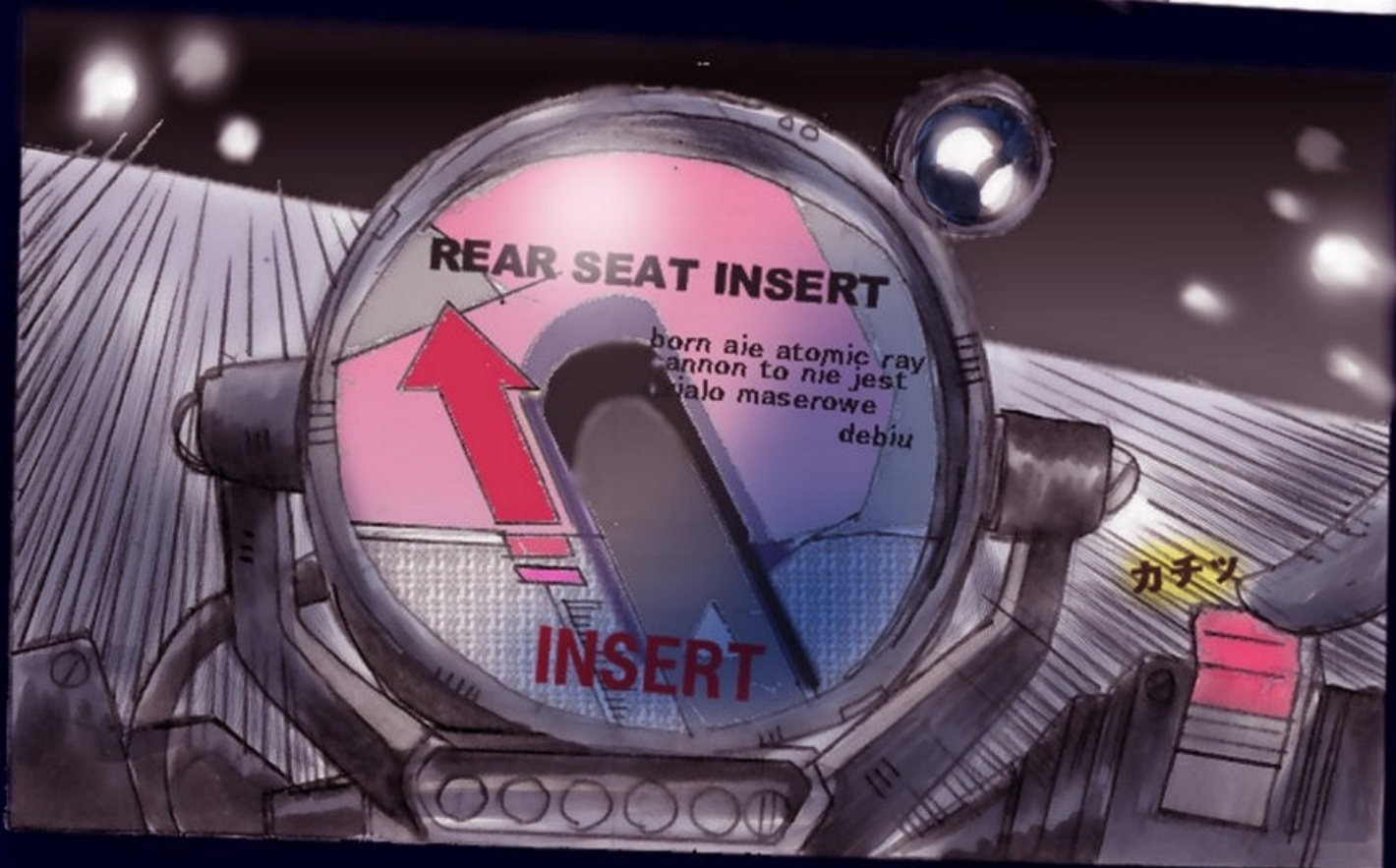


今から
SATに
ちよと挨拶
に行きつと
思えよ

シヤキ





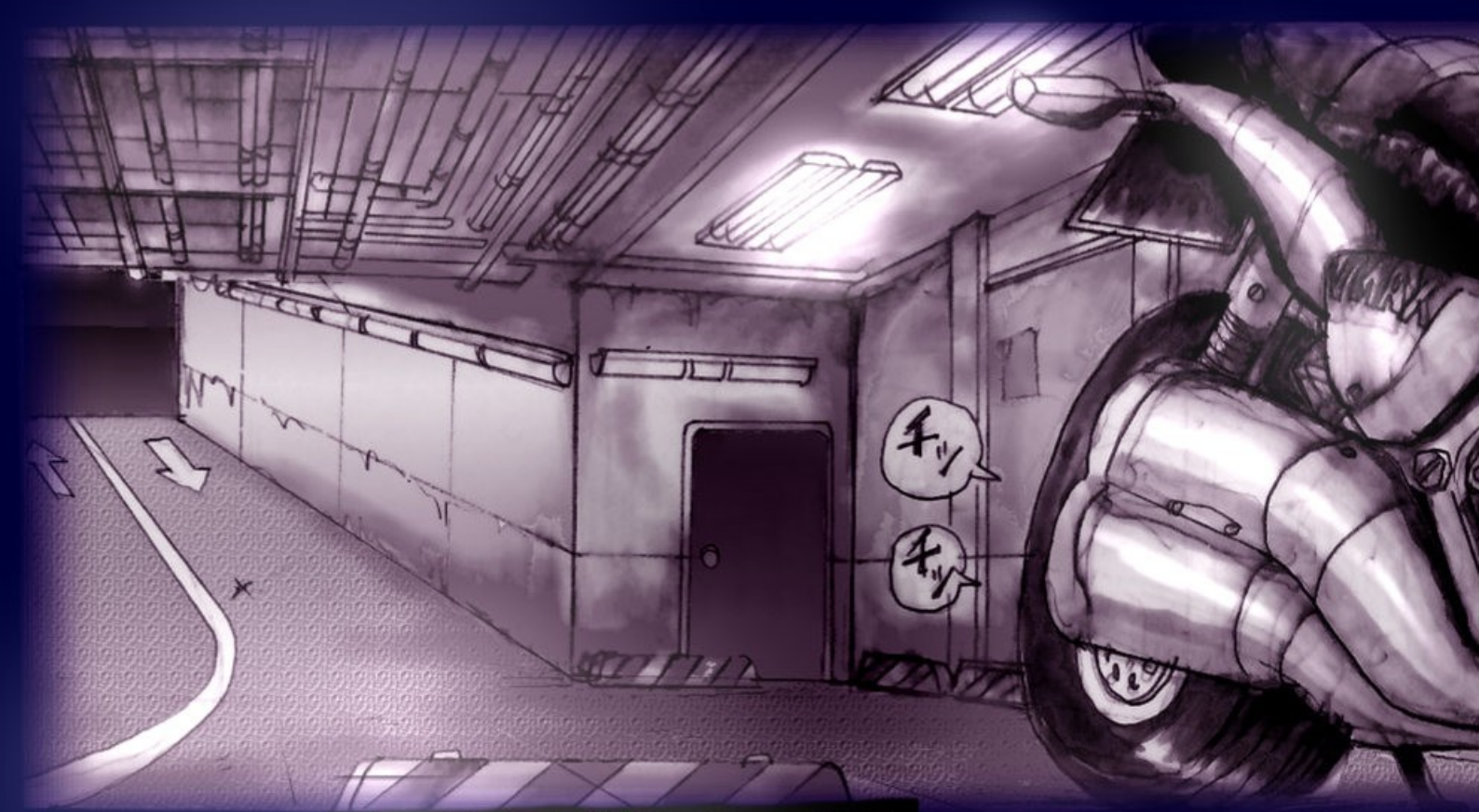




あはーん

ん

ん



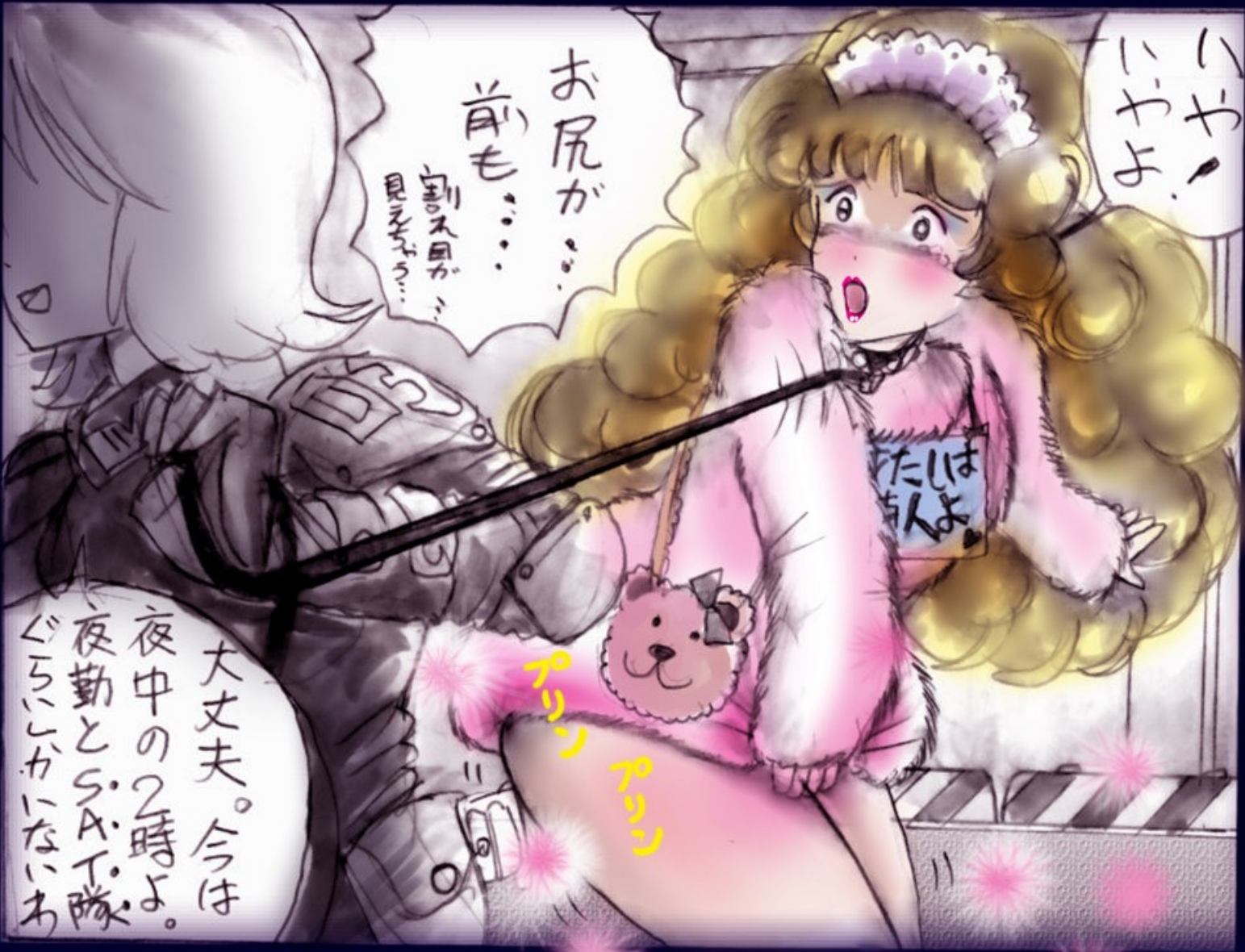
降りて。
古巣のSAT
本部よ。部下に
見てもらいなさ
いその身体!

ガタン



ミルダはかつては隊長として、男として、
屈強SAT特警第四小隊を率いていたのに、今や
跡形もなく女にされたこの身体で
部下たちのいる部屋へ行けという。





いーがよ！

お尻が...

前も...

お尻が...
見えちゃう...

たいは
人よ

アリン
アリン

大丈夫。今は
夜中の2時よ。
夜勤とS.A.T.隊
ぐらしかいないあ



みるた様
ふんふん...
ふんふんお!

い

いざよ女に
されたのみん
に見せるよんて

ひどいお
おながい

大きい
おはいも
い

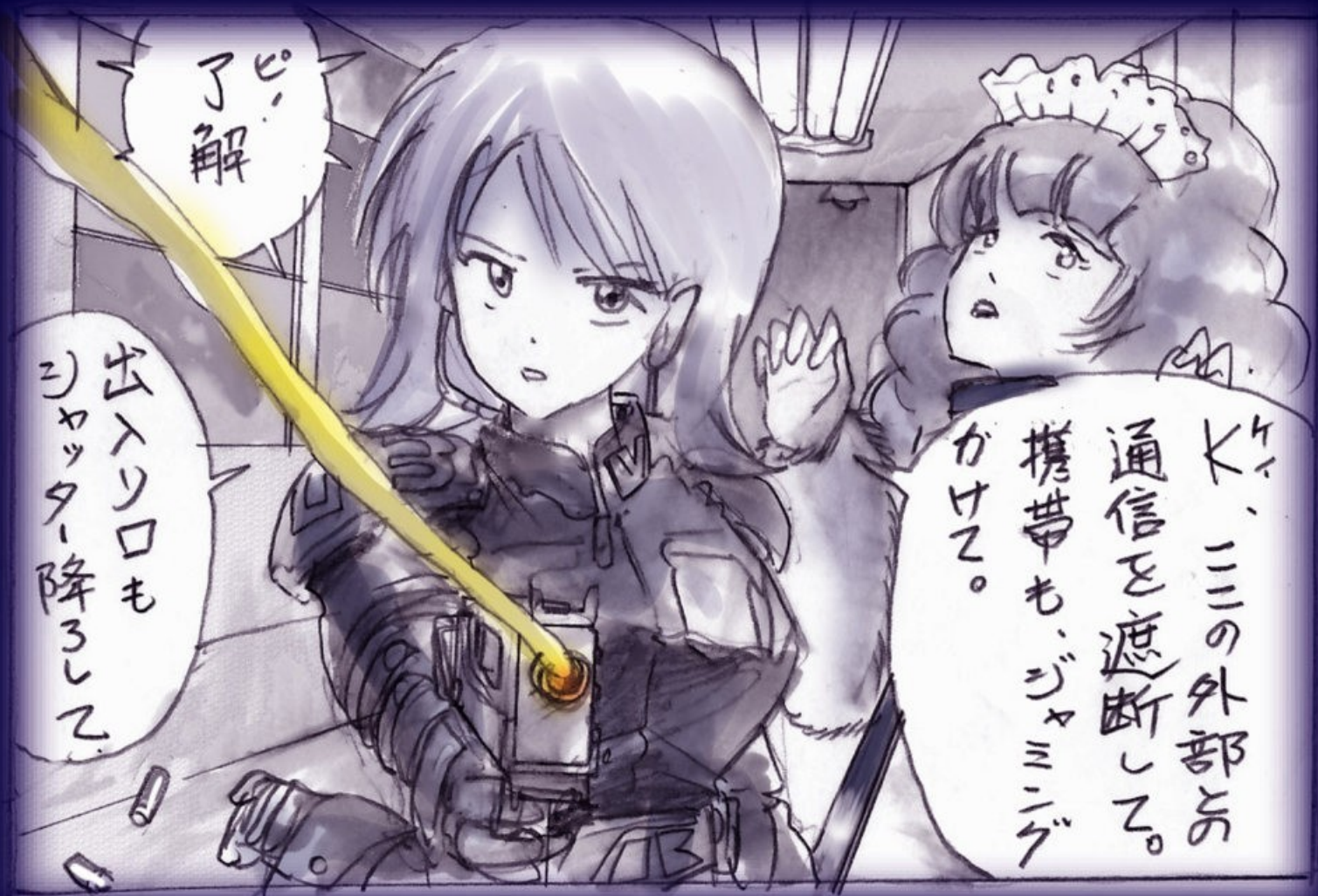
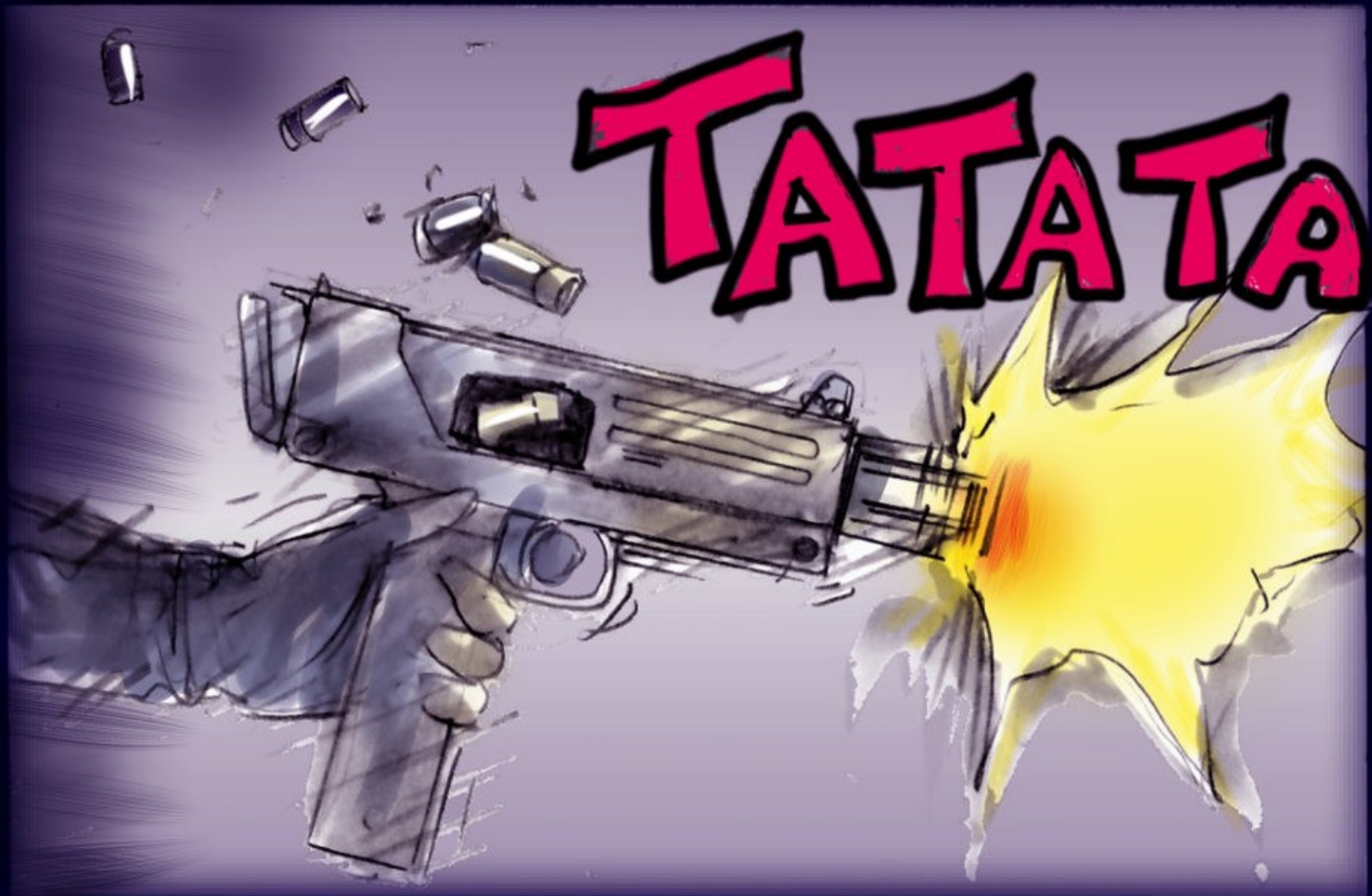
いざよ女に
ふんふんお!

おはいも
い

あざみ
隊の
おはいも
い

**PULIN
PULIN**

あざみが
女の子に
されたの
もいや
なの!





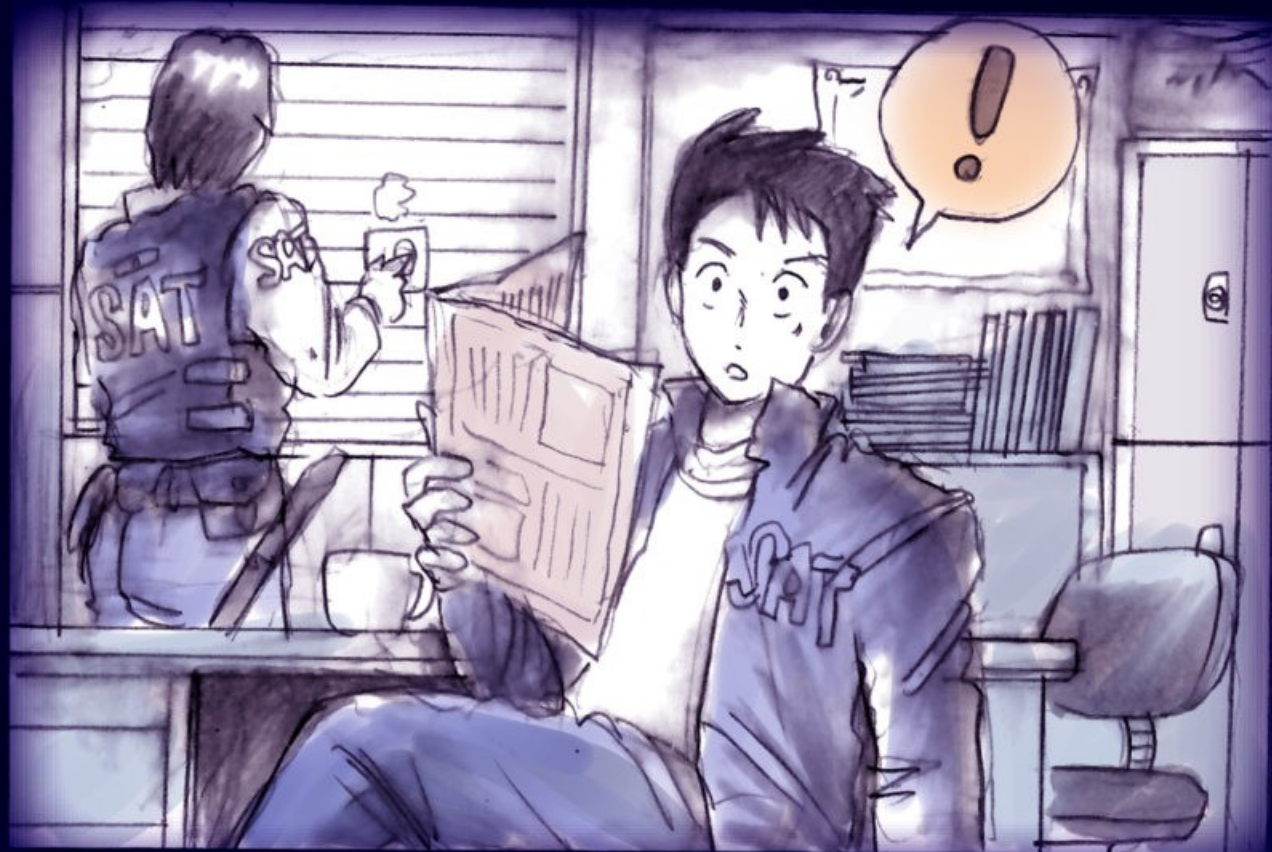
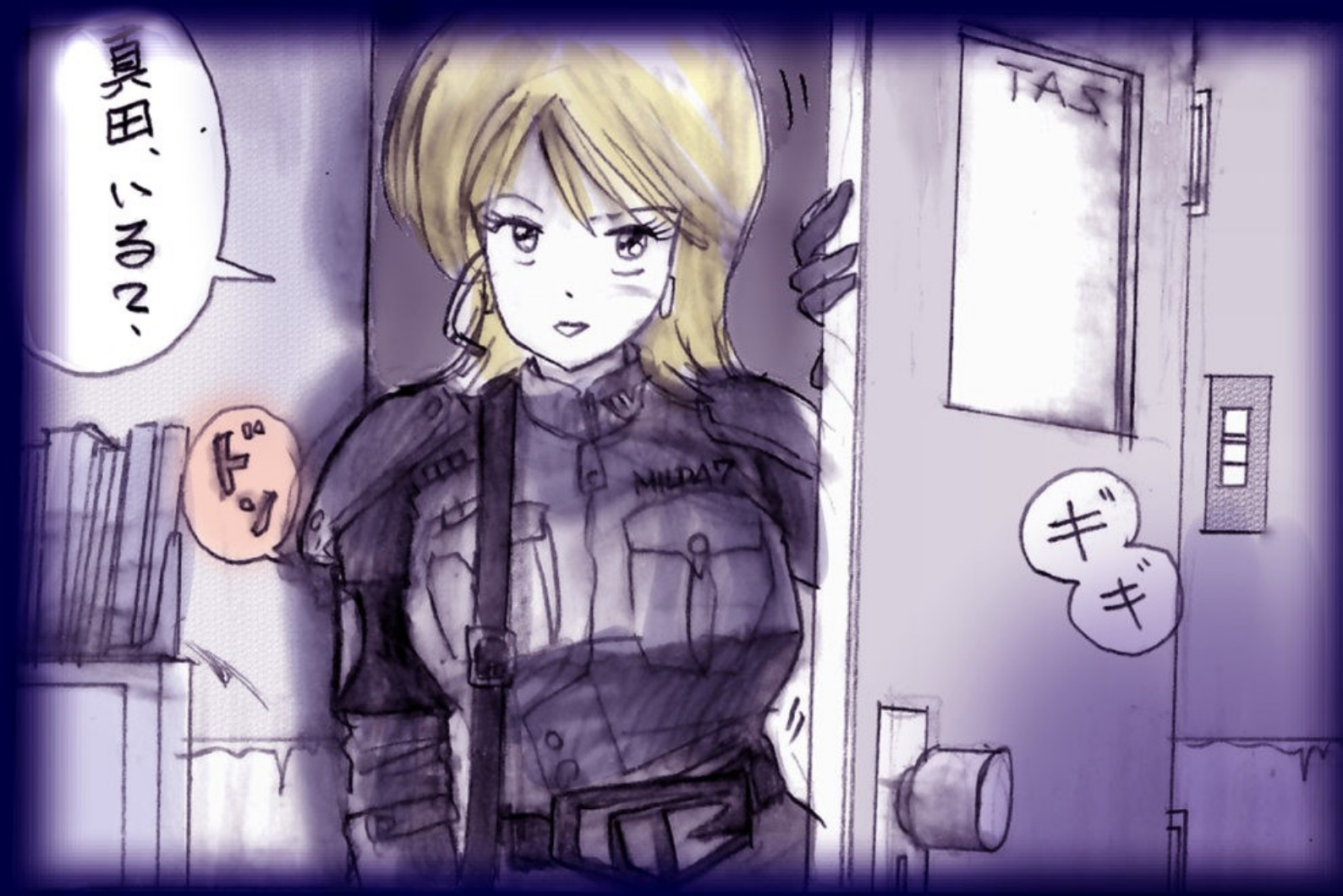
SAT本部
丸腰だわ。

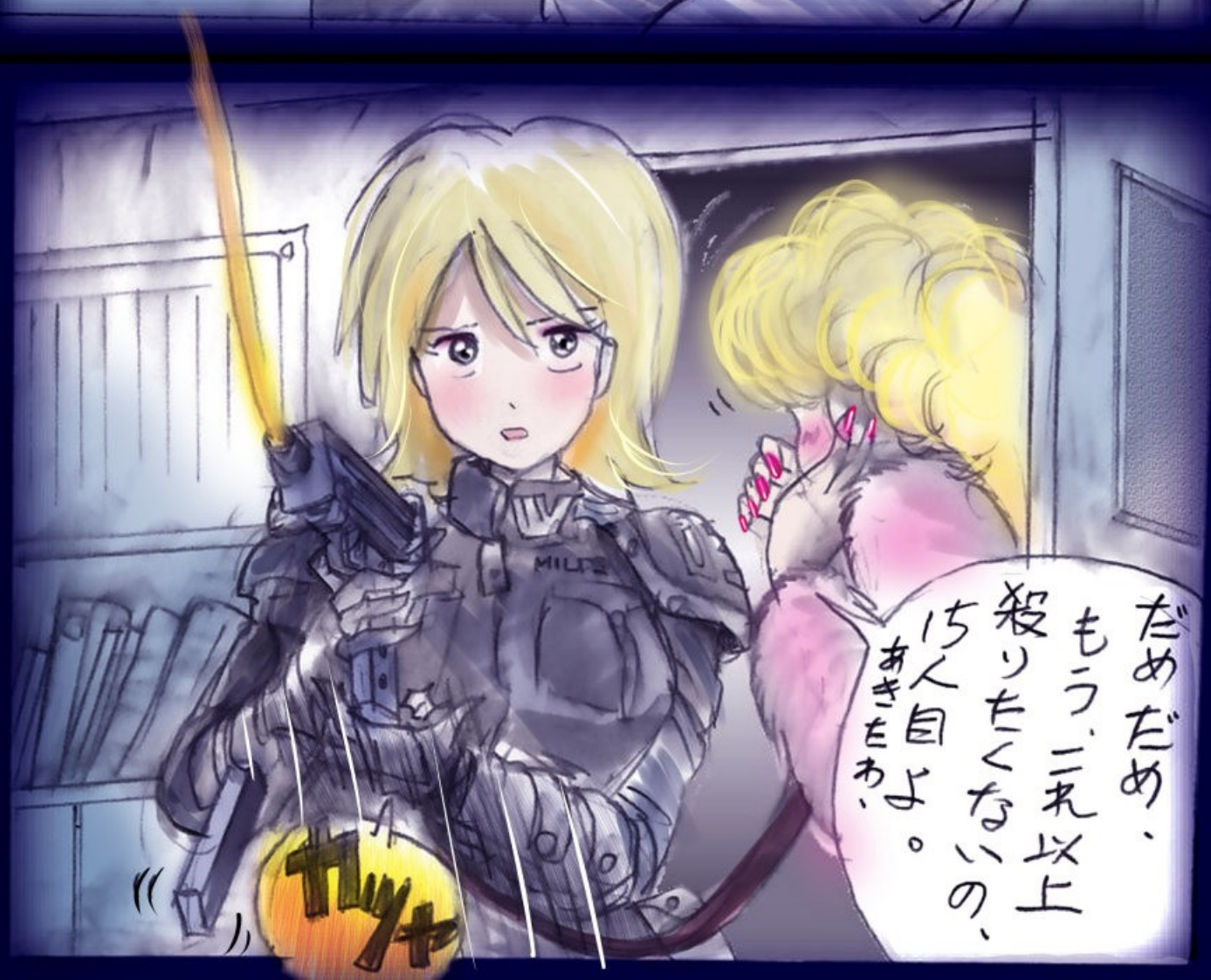
了解……
それにしても
すごいシステム
構築したの
ですね、中尉。
いえじゃ……

カク
カク



榊よ、作った
のは……
それより、
なるべく人の
少ない通路
教えてくれる
？







ミルダ中尉は強引に嫌がる真人を元自分の部下の前に押し出す。

腰まで届くブラウンの髪、はち切れそうな胸、臭い厚化粧、そして下半身から見え隠れする女の花びら。
どれも不本意なまま植え付けられた物ばかり。
非力にされた真人にはミルダの腕力には敵わない。
次第に前に押しやられる。



みんな、見ないで!

下も見ないで!

オッパイも
ふわふわの髪も

見ないで!
見ないで!

あたし
女じゃないから!

女じゃないの!

見ないで!

!!
か
か
か
か
か

ヤッ懐しい古巣よ。
部下にあいさつでも
したろか?

あたし
真人です

どん

いや...

いや...

真人 隊長…なのですか？

真人…
隊長？

うん

…なの
かな？

そうよ
この格好が
趣味なの。

だめ

ちがう

ま、肋骨とったり、
女性ホルモン漬けで
オッパイばんばんこして
あとこも真子ちゃん。
フジーしてもよ「ン」MIN
ので女の子のせびん
にしちやたから
ちよと前より

変あちやた
かな？

女の子みたいになちやた。

ちよ
ちよ

MILDA



胸のバツト

でかすぎんぞろ
早くとれよ
ジョウウだろ

真人隊長、
その…悪い噂は
ありますか、俺
達は信じてます

その女装
とって早く
戻ってきて
ください。



残念〜ん全部本物〜ん！
全部とっちゃた。下。く〜く

♡
プリリン

ギョ

見せなで
りか

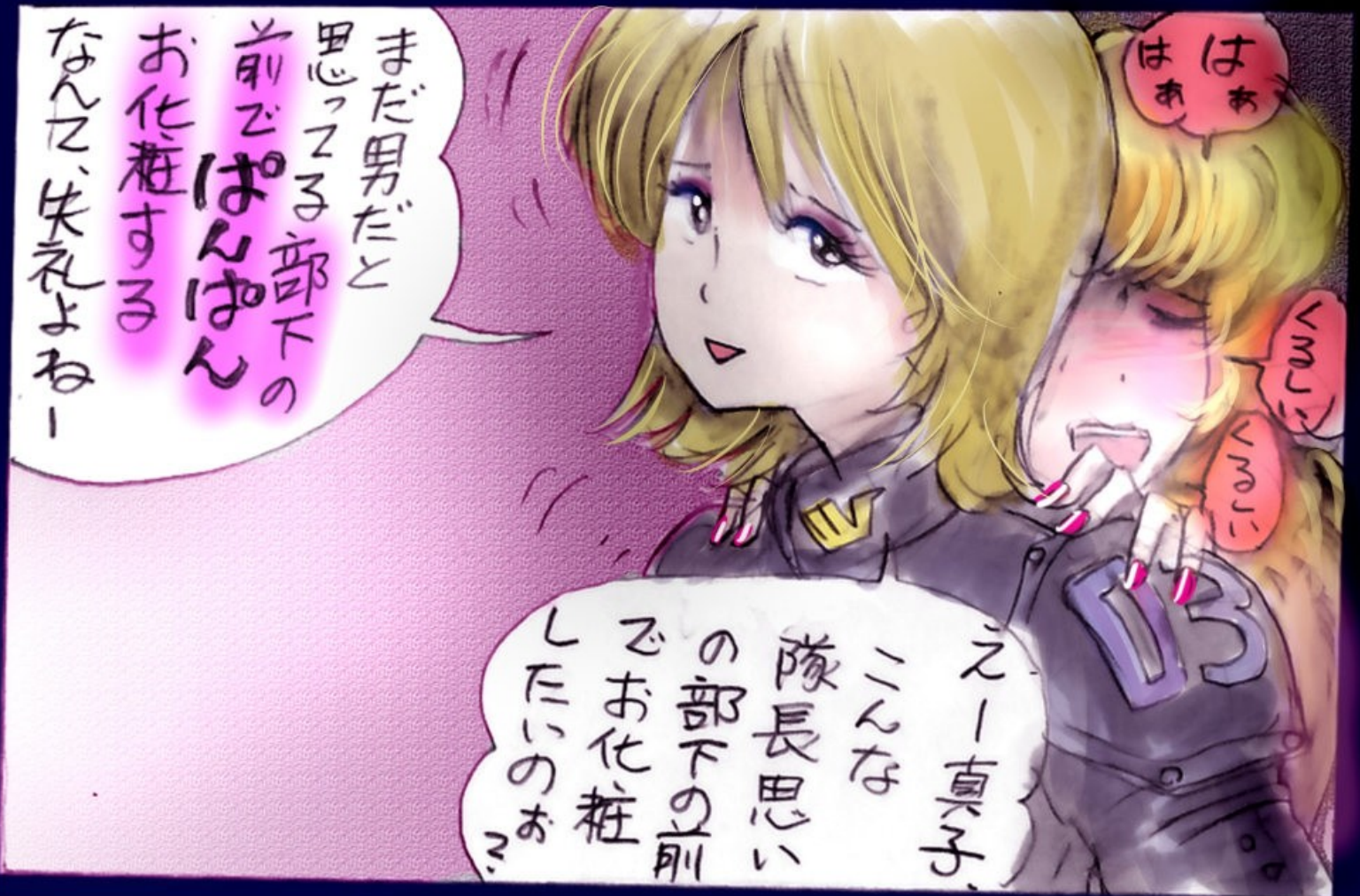


ミルダ中尉は 真人に施した「魔薬化粧」の禁断症状の現れる時間を予め計算していたのである。

超化学合成による魔薬化粧の禁断症状は想像を絶する。強烈な「化粧を塗りたいりたくなる欲求」が真人を襲う……

強烈な禁断症状が真人を襲う。

「ファンデーションを塗りたい、
塗りたい
塗りたい
塗りたいくりたいくりたい！」



でも、できるわけ無い、
かつてのともに戦った仲間の前で、慕ってくれてる部下の前で、

女として「化粧」するなんて、
ありえないことだった……

しかし……

お化粧するウ？ 気持ちいいわよオ～

とまあともやめとくま～ん。



ブン とミルダの近づけた化粧パフから得も言われぬ快樂の香りが漂う。強烈な誘惑……

その誘惑について真人の男としてのアイデンティティーが崩れ始める……

…して
ください……

なあに？真子ちゃん、聞・こ・え・ない。



おげしょう

して

くだちやい。





あん

あん

あん

あん

ぱん

ぱん

あん

あん

ああん

ああん

いいち

おけしやう
いいおあ〜ん

あ〜ん

や〜ん



おはよう

おはよう

あー

おは

あー

あー

あたし
みんなの
前で

お化粧
しちやてる...
恥しい...
恥しい...
恥しい...

あたし
男だった
の...!

あたしは
真人よ♡

どうして
みんな...?

あたし
男よ!
みんなの隊長
だったのよ!
おんな
おんな
おんな
おんな
おんな

ばん ばん

ここでミルダ中尉は
魔薬によるトランス状態の真子に
悪魔の囁きをする。

ばん
ばん



真人隊長、
今一人、
部下が笑って
ます。

ばん
ばん

真人隊長、部下が笑ってます。
陰で笑ってますよ。

あなたの化粧する無様な姿を
バカにして、笑ってますよ。

あ、また一人、大笑いしてるわ

男の癖に白粉塗りたくって

最低よね、あなた**最低**よね！



あ、また一人
大笑いしてるわ...
最低よね。
あなた、**最低**。
よも



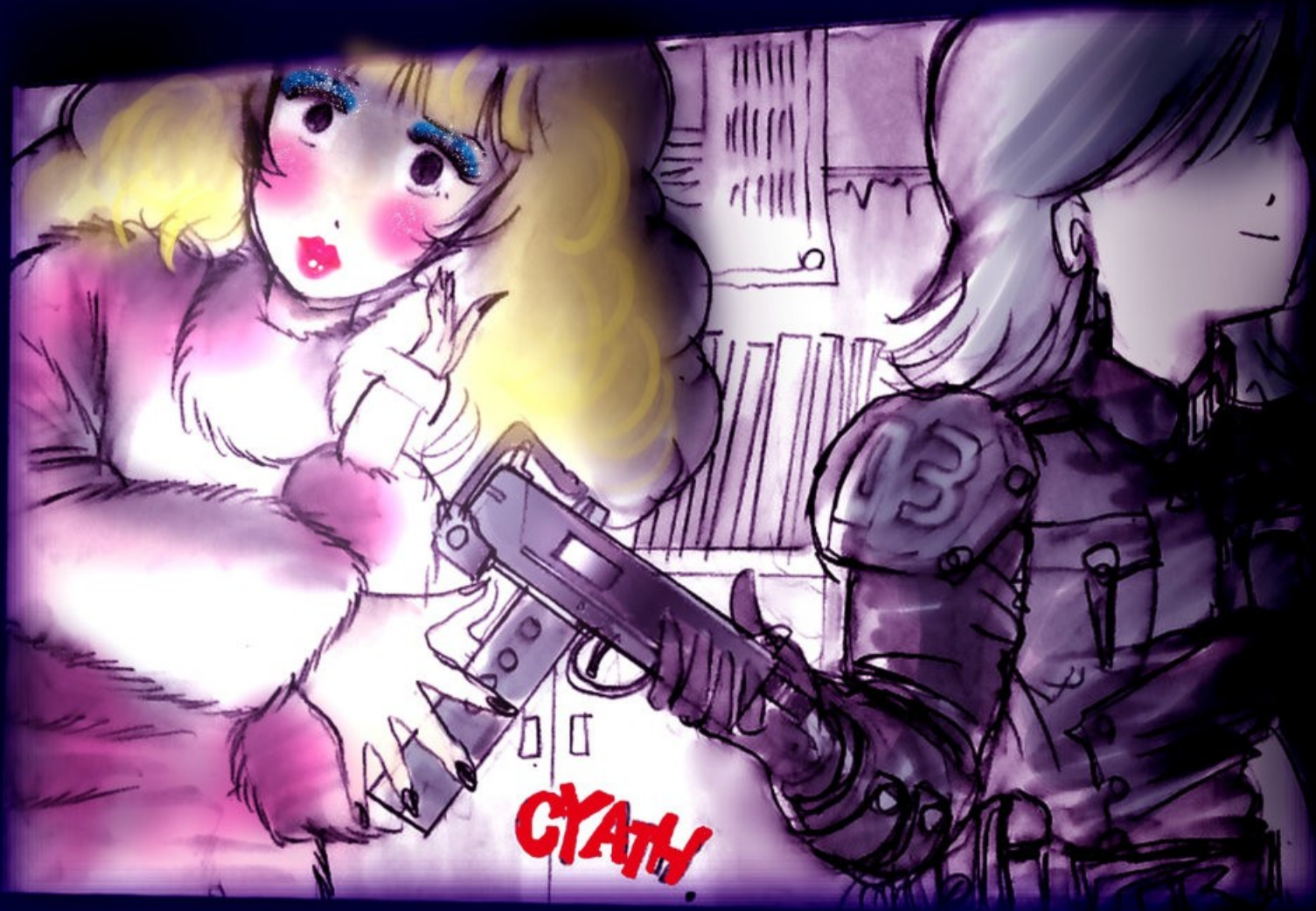
射ちやえばこ
静か
たよるわよ。
あなたもうオチニチニ
腐った女なんだし...

撃ちやえば？

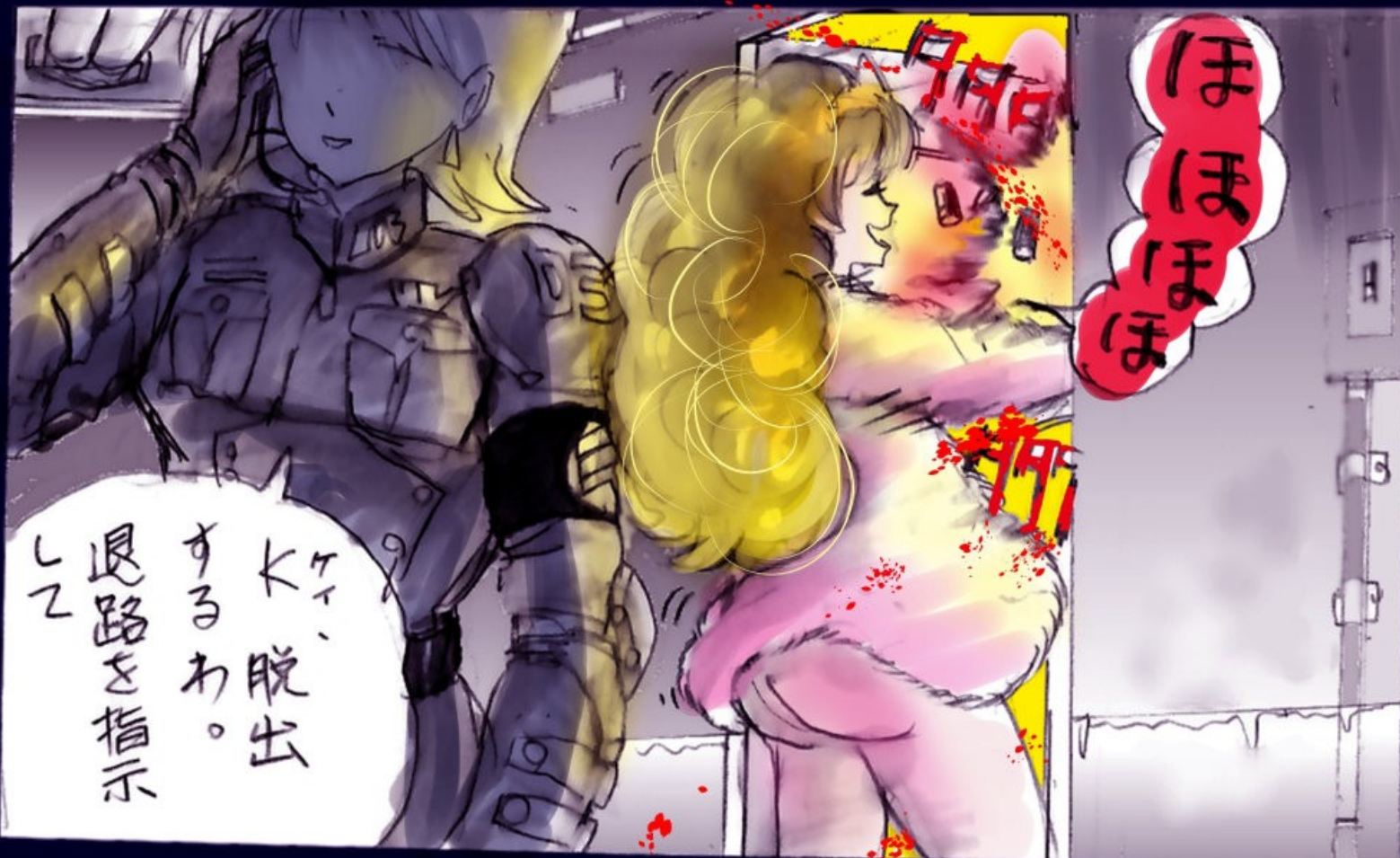
静かになるわよお

どうせあなた男の腐った女なんだし...

ミルダ中尉がそっと真子の手元に愛用のイングラムを手渡す…







ほほほほ

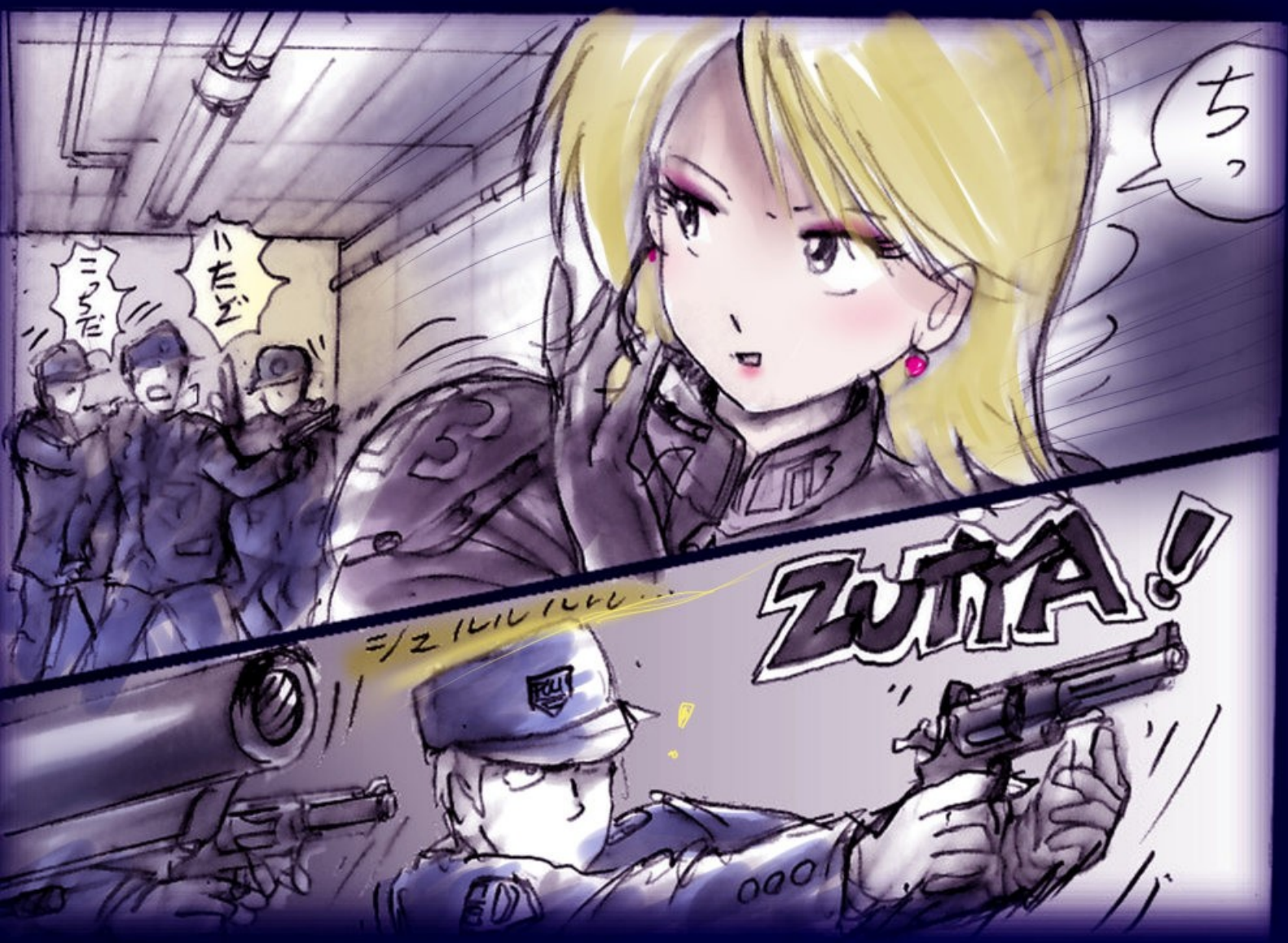
ケイ、
K 脱出
するわ。
退路を指示
して



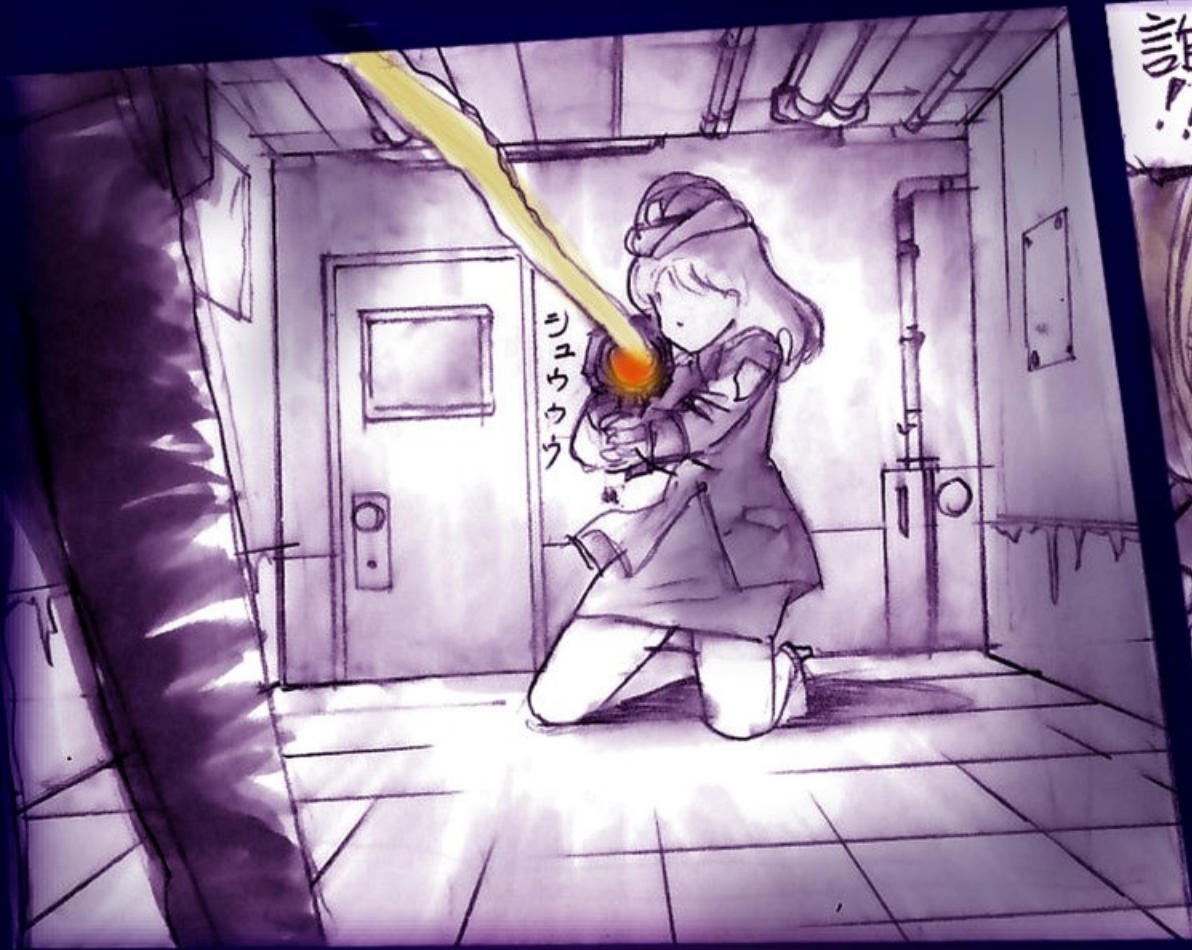
フィッシャー

あと陸自の
特殊で、真田
で調べといて。
光学迷彩が配備
されてる部隊よ。
どう多くはないわ

カキヤ







シューウウウ

誰!?

ロケット
ランチャー



潜入隊員の
憲子でえす

はあ
ミンダナオ

おまたあー

メスクリン特務隊
潜入隊員 憲子



憲子？



今はここに
潜入してたの？



はい、ミルダ様が
いらっしゃる情報を
得たのでフル装備で
参りました♡

また、可愛がってほしくって…

ピーッ

メスクリン本社
から緊急伝です。

伊集院？

ミルダ中尉
お遊びは
それまでの
ようね。

陸自の西普連
特殊が動き出
したわ。

AH-1が2機
イコロイが3機
あなたの邸宅に
向かっている。
恐らくその中に…



彩を殺^やった奴が
その中にいるわ…

ク
ク
ク
ク

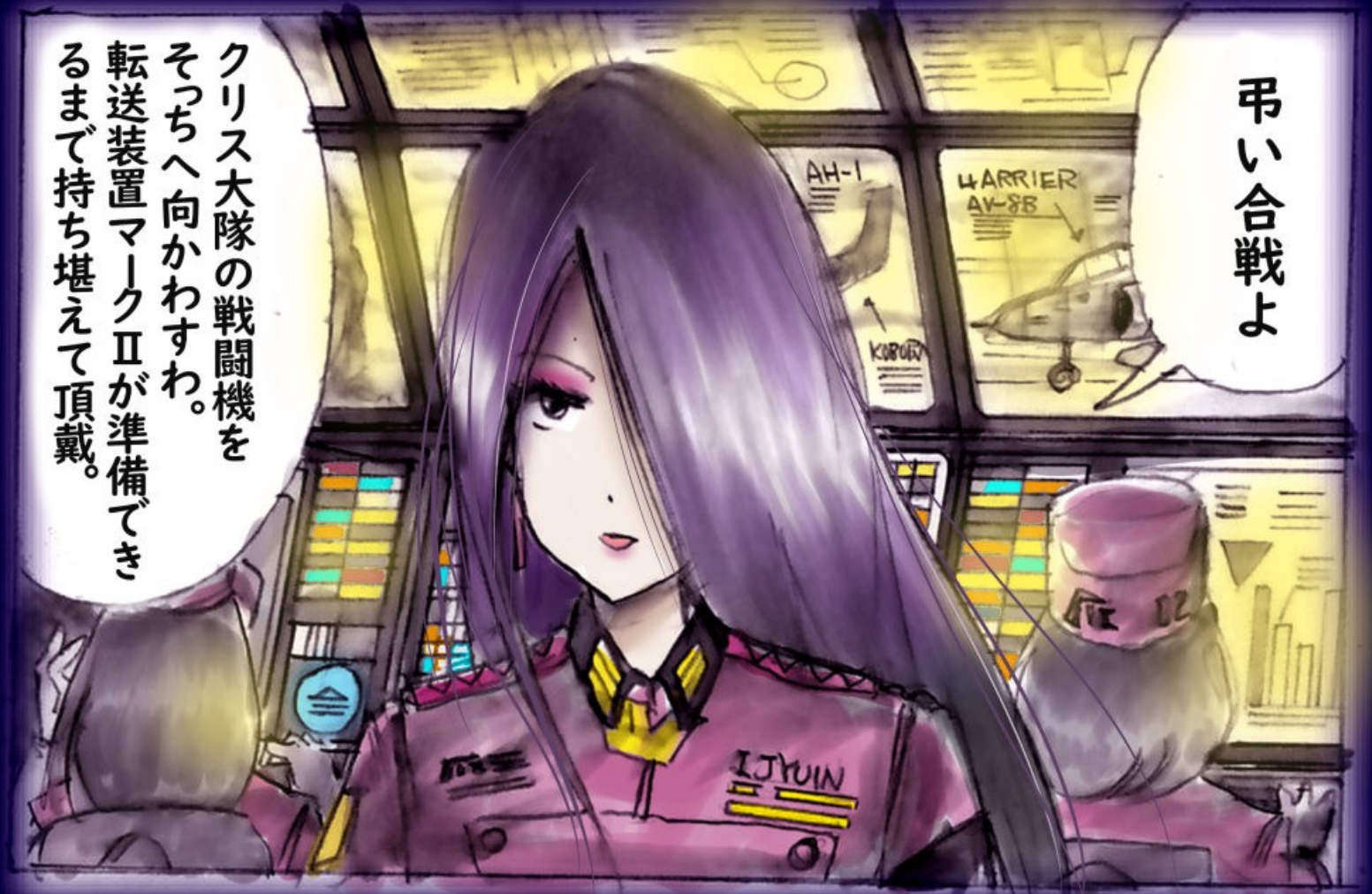


メスクリン特務第二小队隊長 彩少尉



弔い合戦よ

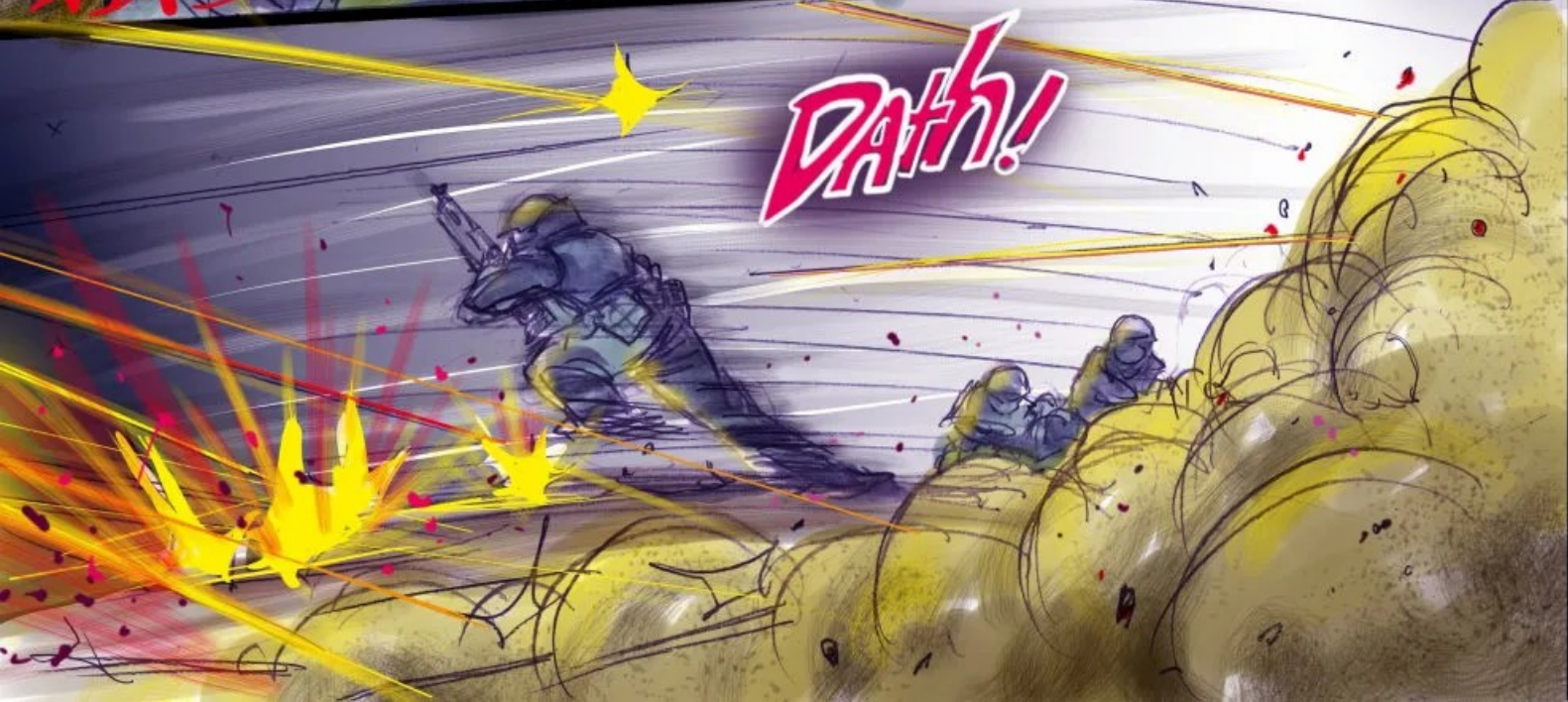
クリス大隊の戦闘機を
そっちへ向かわすわ。
転送装置マークIIが準備でき
るまで持ち堪えて頂戴。

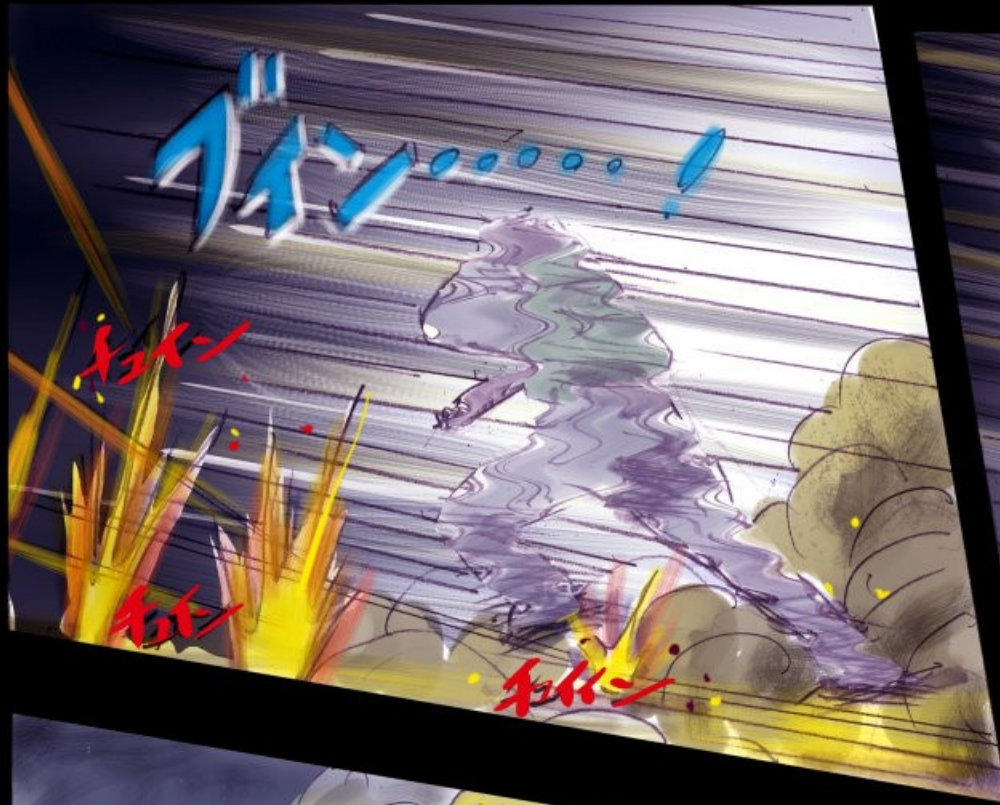




ミルダ邸攻防戦

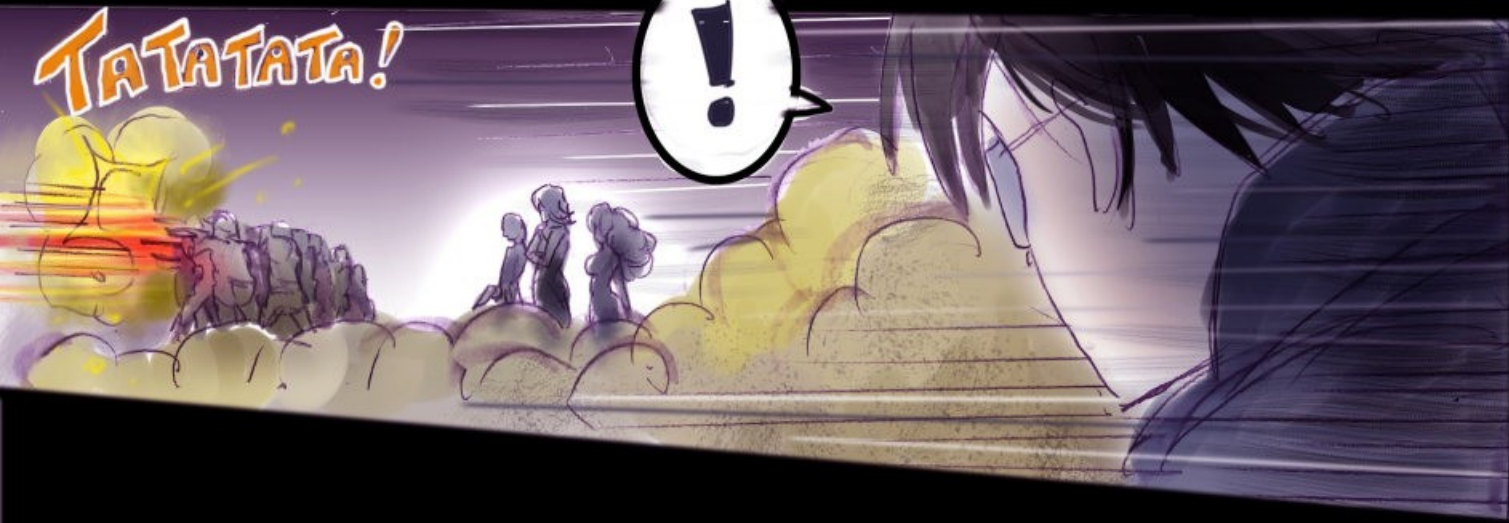






光学迷彩に
気を付けて！
スコープ
センサー
最大値に！

TATATATA!



SA!



榊、待て



真子、
撃て。

タタタ



くっ?



もうただの
動く人形よ。

この子は
諦めなさい。
脳を焼い
ちぎったの。

思い出せ
ないでしょうね
クククク、



あなたのこと
もう微塵も



第三部隊ごと
回収します。

ミルダ中尉
転送装置
MARK II
準備できました。

MARK II
始動！



メスクリン軌道上戦艦アルティメイト

SYUJINN

おまえは
わたしから
彩を奪った。

そして柵を
傷つけた。



おまえは
簡単には
消さない。

おまえに関わ
る人間を次々と
女や畜生に、
改造してやる



DOWNNN

てたのか!
転送装置完成し



敵が消え
ていく!?





そしてすべての物語がはじまるのだった・・・

特警第四小隊隊長の女装陥落 完